

逸人トハ、隱逸ノ人ト云フ義ゾ、

調 羨む君が外事なくして、日に世情と違ふことを、地僻にして人取り難く、溪深くして鳥自ら飛ぶ、儒衣荷葉老い、野飯藥苗
歴えたり、若し湖邊の意を問はば、而今共に歸らむことを憶ふ。

羨君無外事。日與世情違。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、鄭常ハ、素ヨリ隱逸ノ志ガアル人ナレドモ、止ムコトヲ
ト約束シタレドモ、官ニサヘラレテ、未ダ歸隱セマズ、サテ、邢氏ガ歸隱ヲ羨ミタゾ、無外事トハ、隱逸ノ樂ヨリ外
ニ別事ナキヲ云フゾ、君トハ、逸人ヲ指シタゾ、言フハ、君ノ身ノ上ニ最モ羨マシキ事ガアルヨ、ソレヲ何ゾト云フニ、
隱逸ノ樂ヨリ外ニハ、何タル事モナウシテ、日ニ増シテ、次第次第ニ、イヨイヨ世人ノ情思ト相違フテ、安閑無事ニシ
テ居タマフコト

地僻人難到。溪深鳥自飛。

コノ二句ハ、便チ隱處ノ趣ゾ、遠キヨリ近キテ云フタゾ、僻
ハ陋ナリ、言フハ、コノ人ノ隱處ハ、僻地ノ陋キ處ナレバ、往來

ノ路モシカジカナキ處ゾ、サルホドニ、隱處ヲ尋ネント思フ人モ、エ尋ネマズ、サテ、人難到ト云フタゾ、往來

ノ路モシカジカナキ處ゾ、サルホドニ、隱處ヲ尋ネント思フ人モ、エ尋ネマズ、サテ、人難到ト云フタゾ、往來ノ人ナキ
故ニ、溪水ノ深キ處ニハ畜ハザレドモ、鳥ガ
自ラ飛ビ來ツテ、カイ鳥ノ如クニ馴レタトゾ

儒衣荷葉老。野飯藥苗肥。

コノ二句ハ、逸人ノ居處ノ實事ゾ、
言フハ、コノ人ハ、隱遁シテハ居ラ

ルレドモ、儒道ヲバ棄テラレヌゾ、儒者ハ、素ヨリ青衣ヲ著ル者ナレバ、隱處ノ池中ニ在ル荷葉ノ老イタルヲ取りテ衣
トナサルゾ、サテ又、食物ナドモ、野僧ヤ野人ヤノ食物ノヤウナルモノヲ食セラルゾ、ソノ蔬食ニハ、藥苗ノ肥エ
タルヲ用井ラルト

若問湖邊意。而今憶共歸。

又玄集ニハ、コノ二句ヲ嗜昔江湖意、而今共憶歸トナシタ
ゾ、本詩ノ意ハ、逸人若シ、ムカシ共ニ江湖へ歸隱セント

約束シケルガ、今ハソノ意ハナキカアルカト問ヒ給ハバ、今モ共ニ歸隱セバヤト憶フバカリヂヤト答フベシトゾ、歸隱

セント思ヒナガラモ、朝ニ仕フマツルハ、君子ノ道ゾ、

吳明徹故壘

劉長卿

季昌曰ク、四體集、作登吳公臺上寺、遠眺、坡詩云、吳公臺下雷塘路、注、地志、吳公臺在揚州江都縣西北四里、
以陳將吳明徹得名、臺上有寺、按、史、明徹、字通紹、秦郡人、爲陳鎮前將軍、宣帝五年、統衆十萬、伐齊、大
敗齊軍、擒王琳等、斬之、十年、周人滅齊、詔明徹督軍伐之、周將王軌、引兵據夏口、結長圍、以鐵鎖、
貫車沉水、明徹舟潰、爲周所執、憂憤而卒、淮口正屬揚州、私云、異本ニ初寒登明徹故壘、ト題ヲ措ケ
リ、コノ題、能ク詩ノ意ニカナヘリ、

調 古臺搖落の後、秋日望郷の心、古寺人を來すこと少なり、雲峰水を隔てて深し、夕陽舊壘に依り、寒磬空林に滿つ、惆悵、
南朝の事、長江は獨り今に至ること、

古臺搖落后。秋日望郷心。

コノ詩ハ、互喚ノ格ゾ、第一ノ句ハ喚、腰對第二ノ句ハ肩ノ對テ喚ビタゾ、古臺トハ
明徹ガ故壘ヲ指シタゾ、壘ハ軍壘ゾ、説文ニハ軍壁也ト注シタ、ソコト訓シゾ、
軍陣ノツイチノ事ゾ、明徹ガ故壘ニ臺ヲ建テ、吳公臺ト名ヅケタゾ、詩ノ意ハ、吳公臺モ古リテ、漸ク殘リテ荒敗シタ
ル處ニ行キテ一見シタレバ、折フシ、秋ノ末ニテ、草木モ搖落シ盡テ、今ハハヤ落葉ノ聲サヘナキ時分ニナリタゾ、
サテ、秋日ノ影モスマジキ程ニ、イトド望郷ノ心ガ出來シタトゾ、劉長卿ハ河間ノ人ゾ、才子傳ニ曰ク、劉長卿、字文
房、河間人、開元二十一年及第、至德中、歷監察御史、以檢校祠部員外郎、出爲轉運使判官、知淮西岳鄂、轉運留後觀察使、
トイヘリ、明徹ガ故壘ハ、揚州ニ在リ、淮海惟揚州、ヤホドニ、淮西ノ觀察使タル時ニ、明徹ガ故壘ニ行キテ詩ヲ作リ
タルモノゾ、サレバコソ、望郷心トハ云フゾ、季昌本ニハ、秋入望郷心トシタゾ、心上秋ハ愁ノ字ヂヤホドニ、秋日

キヲ見、又湘山ノ中ヲ通ラレシ時ニハ、春ハ漸ク晩レテ、山木ノ枝葉トモガ茂リテ、緑ノ暗キヲ見ラルベキゾトナリ、畢竟ハ、江花ヲ以テ才智淺キ者ニ比シ、山木ノ暗キヲ、天下ノ暗昧ナルニ比シテ、感慨ヲ起スニ比シタゾ

修刺轅門裏多憐爾爲親

刺トハ、札ノヤウナル物ゾ古ニハ、紙ガナキホドニ、

竹木ヲ削リテ、ソレニ姓名ヲ書キツケテ謁見シタキ人ノ處ヘ行キテ、門ヨリ送ルゾ、相見セント思ヘバ、ソノ刺ヲ受ケ取リテ、姓名ヲ見テ、内ヘ請ジテ、相見スルゾ、イヤト思ヘバ、ソノ刺ヲ返スゾ、今ハ刺ヲ紙ニ書スルゾ、コレヲ名刺ト云フゾ、又名紙トモ云フゾ、名刺ト門狀トハ、文章ハ一ツナレドモ、封ジヤウガ變ルゾ、門狀トハ、常ニ人ニ謁見ヲ求ムル時ニ、門ヨリシテ内ヘ案内ヲ云フ狀ゾ、コノ狀ハ、文官ノ人ニハ、大白紙一枚ニ書クゾ、武官ノ人ニハ、紙ノ廣サ四五寸バカリニスルゾ、サテ、上ヲ紅絲ニテハ封ゼヌゾ、上書ヲモセヌゾ、文官ノ人ニハ、紙一枚ニ書クゾ、上書ヲモセヌゾ、名紙ヲバ、内ニ文章ヲ門狀ノ如クニ書シテ、書尾ヨリ卷イテ、答ノ大サノホドニシテ、紅線ヲ以テ上ヲ封ジテ、ソノ上ニ進士ト書シテ、下ニ姓名ト書キ付クルゾ、向ノ人ノ姓名ヲ書カヌゾ、コレガ門狀ト名紙トノチガイゾ、翰墨全書第三云、凡名刺用二好門狀、紙闊三四寸、左卷如二脊大、用二紅線、束腰、須二眞楷細書、或倉卒無二絲線、則剪二肝紅紙一小條、就二名上、束定亦得、私ニ云フ、左卷トハ、書尾ヨリマクテ云フゾ、同寫門狀、式圖但俗用常式也、

具 銜 姓 某

右 某 謹 祇 候

參 某 官 中 大 伏 候

台 旨 月 日

具 銜 姓 某 狀

具 銜 姓 某 狀

凡門狀、用二大白紙一幅、前空一寸、眞楷小書、字疎密相對、如二前式、武官不用二全幅、但闊四五寸、後不用二具、年月日姓某、公吏同武官式、僧道同官員式、尤貴二細書、私ニ云フ、大白紙一幅トハ、大ナル白紙一枚ト云フ義ゾ、前空二寸トハ、一枚紙ノ前ヲ二寸バカリ置イテ書キ始ムルヲ云フゾ、楷ハ法ゾ、筆法ヲ云フゾ、字ノ疎密トハ、字ノ大小ヤ、上ゲ下ゲヤナドヲ云フゾ、前式トハ、前ノ圖ヲ指シタゾ、不用二全幅トハ、一枚紙ニハ書カヌモノヂヤト云フ義ゾ、不用二具トハ、年號ヤ年ノ支干ヤナドヲ書カヌモノヂヤト云フ義ゾ、某月日トハ、タトヘバ、正月三日ナレバ、正月三日ト書ケト云フ義ゾ、月日ノ異名ヲ書クハ、慮外ニアタレバゾ、姓某トハ、タトヘバ、李氏ナレバ、李トカイテ、チトサゲテ、李ノ字ヨリ細字ニカケト云フ義ゾ、公吏トハ、吏官ヤナドヲ云フゾ、僧トハ、長老ヤ能化ナドヲ云フ、道ハ道士ヲ云フゾ、コレニハ、文官ノ人ト同ジクストゾ、姓某トハ、姓ト諱トヲ書ケト云フ義ゾ、又前ノ門狀ノ圖ニ、具銜姓トハ、銜ハ官位ト云フ義ゾ、タトヘバ、韓退之ゴトキ者ノ門狀ナラバ、昌齡公國子博士韓愈ト書クベキゾ、名紙ノ文章モ此ノ如クカクベシ、右某トハ、右ノ下ニ、愈ト諱テ一字書クテ云フゾ、某官トハ、向ノ人ノ官ヲ書ケト云フ義ゾ、中大トハ、官ノ中大ゾ、日本ニテ、大納言中納言ナドノ類ゾ、大納言ナラバ大納言トカキ、中納言ナラバ中納言トカケト云ヒタルヤウナル義ゾ、月日具銜姓某狀トハ、月付ノ下ニ、初ノ如クニ、若シ韓退之ナラバ、昌齡公國子博士韓愈狀ト書クヤウナルヲ云フゾ、名紙モ、狀ノ文章ハ、門狀ノ如クニ書クゾ、サテ、上ヲ封ズルゾ、

進 士 姓 某

某

封名刺圖

右圖、翰墨全書ニハ、三十二種アルゾ、ココニハ、ソノ第一ヲ圖シタゾ、若シ韓退之ノ名刺ナラバ、封ジメヨリ上ノ一條ニ進士ト書キテ、チト下ゲテ、韓トカイテ、サテ封ジメノ下ニ、ヤガテ愈ト書クベキゾ、轅門ノ事ハ、注ニ見エタゾ、將軍ヤナドノ陣ニテハ、車ノ轅ヲナラベテ置イテ、門ノ如クニシテ、其間ヲ通ルゾ、サテ、詩ノ意ハ、コノ兵曹ドノハ譚

州へ行キテ、韋大夫ノ轅門ノ中へ刺ヲ投ジテ奉公シテ、少シナリトモ、給分ヲ受ケテ、二親ヲ養ハントテ、ハルバル旅ヲセラルルゾ、サテ、ソレヲ哀レニ思フトゾ、

●西郊蘭若

羊士諤

蘭若ハ寺ノ總名ゾ、注ニ見エタゾ、コノ蘭若ハ、長安ノ西ノ方ノ野外ニ在ルゾ、

雲天北戸に宜し、塔廟西方に似たり、林下僧無事、江清うして日正に長し、石泉掬に盈ちて冷に、山實枝に満ちて香し、寂寞として心印を傳ふ、無言亦た已に忘る、

雲天宜北戸。塔廟似西方。

コノ詩ハ、互字應ノ正格ゾ、第三ノ句ト第六ノ句ト、互ニ相應ジ、第四ノ句ト第五ノ句ト互ニ相應ジタゾ、詩ノ意ハ、コノ寺ハ、五雲天上ニ在ルガ、シカモ門戸ヲ

北ニ向キテ開キタゾ、サルホドニ、長安城ガマノアタリニ見エテ、一段ヨロシキ境致チヤゾ、ソノ上、コノ塔廟ヤナドノ結構ナルコトハ、西域ノ祇園精舎トモ云ツベシトゾ

林下僧無事。江清日正長。コノ二句ハ、上ノ句ノ林ノ字ト第六ノ句ノ山ノ字ト相應ジタゾ、下ノ句ノ江ノ字ハ、第五ノ句ノ石ノ字ト相應ジタゾ、僧タチハ、イツモ無事ニシテ、林下ニ安禪シテ居ラルルゾ、サテ、春ノ時分ニ、風波モ起ラザル頃ニハ、門前ノ江水モ、一入清ク見ユルゾ、風收マリテ、江水ノ波モ起ラヌ程ニ、イトド日モ長キヤナトトゾ

石泉盈掬冷。山實滿枝香。コノ二句ハ、寺ノ實事ゾ、言フハ、彼處ナル巖石ノ間ヲ見タレバ、清潔ナル泉ガ出ルゾ、依ツテ手ニテ汲ミタレバ、一掬ニ滿チテ、ヒヘビヘトシタゾ、掬水月在在手ト云フ句ノ意ガアルゾ、サテ、此處ナル樹木ヲ見タレバ、ナリフシ、春ノ末、夏ノ初ニテ、木ノ實下モガ枝ニ滿チタルガ、ソノ氣ガ香シク聞コエタトゾ、コノ寺ノ僧タチハ、サゾ彼ノ

石泉ヲ汲ミ、コノ山菓ヲ拾ヒテ、採菓汲水ノ修行底ナルベシト感ジタゾ

寂寞傳心印。無言亦已忘。心印トハ、世人ノ證文ヤナドニハ必ず印ヲツクゾ、祖師ハ、以心傳心チヤホドニ、轉法セラレタゾ、文殊ハ無有ニ文字言語是眞入不二法門ト云フタレドモ、コノ寺ノ住持ハ、一重上ノ見解ニテ、無言ト云フコトモ打忘レタトゾ、

●送普門上人

皇甫冉

智度論ニ、得道者名爲道人、餘出家未得道者名爲上人トイヘリ、コレヨリ見レバ、コノ普門ハ未ダ道ヲ得ザル人ト見エタゾ、コノ上人、山中ヨリ出デテ、皇甫冉ガ處ヘ來リテ、ヤガテ歸ルゾ、抑留スレドモ、留マラヌホドニ、サテ、詩ヲ作ツテ送行シタゾ、

花宮難久別。道者憶千燈。コノ詩ハ、併圍ノ格ゾ、起處ノ句ト結處ノ句トガ、中間ノ四句ヲ併圍シタゾ、花宮宮ハ寺ゾ、一華開大地收ト云フハ、華藏世界ノ事ゾ、華藏世界ハ、蓮華ガ一葉ヅツ落チ積ツテ、大地トナリタゾ、専ラ華嚴宗ニ用ウル事ゾ、然レバ、コノ上人ハ、華嚴宗ト見エタゾ、詩ノ意ハ、タマタマ世上ヘ出ラレタホドニ、今チト滯留セラレヨト留メタレバ、上人ノ答ニ、我ハ未ダコノ道ヲ會得セヌホドニ、早ク寺ヘ歸ツテ觀念ヲモセント存ズルナリ、然ル間、久シク寺ヲ別レテ、在家ニ留マルコトハ、マカリナルマジキゾト云ハレタゾ、ソコニテ、皇甫冉ガ、サテハ

花宮久しく別れ難し、道者千燈を憶ふ、殘雪林に入るの路、深山寺に歸るの僧、日光嫩草に依り、泉響春冰を滴す、何ぞ用ぬむ方便を求むることを、心を看る是れ一乘、

花宮難久別。道者憶千燈。

コノ詩ハ、併圍ノ格ゾ、起處ノ句ト結處ノ句トガ、中間ノ四句ヲ併圍シタゾ、花宮宮ハ寺ゾ、一華開大地收ト云フハ、華藏世界ノ事ゾ、華藏世界ハ、蓮華ガ一葉ヅツ落チ積ツテ、大地トナリタゾ、専ラ華嚴宗ニ用ウル事ゾ、然レバ、コノ上人ハ、華嚴宗ト見エタゾ、詩ノ意ハ、タマタマ世上ヘ出ラレタホドニ、今チト滯留セラレヨト留メタレバ、上人ノ答ニ、我ハ未ダコノ道ヲ會得セヌホドニ、早ク寺ヘ歸ツテ觀念ヲモセント存ズルナリ、然ル間、久シク寺ヲ別レテ、在家ニ留マルコトハ、マカリナルマジキゾト云ハレタゾ、ソコニテ、皇甫冉ガ、サテハ

道者ハ一燈分作三百千燈ニ底ノ佛法ヲ
觀念セント思召スヨト答ヘタトゾ

殘雪入林路深山歸寺僧

コノ二句ハ處ゾ、言フハ、コノ上人ノ歸ラ
ルル頃ハ、春ノ始メゾ、サレバ林ニ入ル路

ニハ、猶ホ殘雪ガアルベキゾ、ソノ雪ヲ踏ミ分ケテ、深山ノ裏ヘ入ラレタラバ、寺ニ歸ル僧ニテ、歸家穩坐セラレベシ
トゾ、コノ句ハ、倒語ノ句法ゾ、入林殘雪路歸寺

日光依嫩草泉響滴春冰

コノ二句ハ、上人ノ歸家穩
坐ノ時ニ、見聞セラレント

深山僧ト云フベキヲ、倒轉シテ、是ノ如ク云フタゾ
コロノ實事ゾ、言フハ、深山ヘ歸リツカレタラン時ニハ、春日ノ光ガ萌エ出デタラン嫩草ヲ照ラスベシ、又彌ノ氷モト
ケベキホドニ、泉ノ落ツル響ハ、春氷ヲマジヘテ滴ヅベシトゾ、上ニハ、何トナク時節底テ云ヒテ、内心ニハ、彼ノ上人
ノ教意ニ縛セラレタルヲ諷シタゾ、春日ガ暖ニシテ、ソノ影ガ草ニヨレバ、草ハ自然ニ生長シ、又春暖ニ遇ヘバ、氷ハ
自ラ解ケテ、清泉ハ自ラ響クゾ、佛性義理ヲ知ラント思ハバ、是ノ如キ上ヲ見聞セラレヨ、暗キ處ヘ引キ籠ツテ觀念シ
タルバカリニテハ、永劫ヲ經テモ未
在
何用求方便看心是一乘
言フハ、上人ヘ申ス、カマヒテ、佛ノ方
便説ヲ尋テ求メテ、コノ道ニ入得セント
思シメスナヨ、教八萬四千ハ、一心ニ歸シテ候ヨ、十方佛土中、唯一乘法ト、佛ノ解レシモ、別ノ事ニテハ候ハヌトゾ
何用トハ、用キテナニセウゾト云フ義ナリ、皇甫冉ハ、禪ノ徒ナル故ニ、譏ツテ示シタゾ、

送耿處士

江湖へ歸隱シタル人ト見エタゾ、

賈島

調題 一瓶離別の酒、未だ盡さざるに即ち行かむと言ふ、萬水千山の路、孤舟幾日の程、川原秋色盡き、蘆葦晚風鳴る、迢遞とし
て不歸の客とならば、人は虚隱の名を傳へむ

一瓶離別酒未盡即言行

コノ詩ハ、問答ノ格ゾ、前篇四句ハ賈島ガ問フ處、後篇四句ハ處士ガ答フル處ゾ、

江湖へ歸ラルルゾ、サラバトテ、名殘ノ宴ヲ催シタレバ、ソノ一瓶ノ酒ヲ未ダ酌ミ盡サザルニ、ハヤ歸ラント云ハレタ
ゾ、サテ、ソコニテ、シバシ留リ給ヘト
抑留セントテ、三四ノ句ニカカリタゾ
萬水千山路孤舟幾日程
コノ二句ハ處ゾ、言フハ、江湖ヨリ長
安ヘノ路ハ、萬水千山ヲ隔テテ、ハルバル

遠キ路ナリ、然レバ、孤舟ニテ此處マデ來リ給フ其日數ハ、イカホドニテ候ゾヤ、ソレヲ存ズレバ、又長安ヘ來リ給
ハンコトハ稀レナルベシ、セメテ、暫ク留
マリテ、名殘ノ酒ヲ盡シ給ヘト云フタゾ
川原秋色盡蘆葦晚風鳴
コノ二句ハ、長安ニテ見聞スルトコロ
ノ實事ゾ、サテ、コレヨリハ處士ガ答
フルトコロゾ、言フハ、我が急ギテ行カント云フモ道理アリ、コノ頃、ナニカトスル中ニ、時節ガ推シ移リテ、長安ノ川
原ノアタリハ、秋色ハハヤツキテ、蘆葦ヤナドニハ、晚風ノ聲ガ淋シク聞コユルナリ、サテ、ハルバルノ路ヲ行クナラバ
我が隱處ヘ歸リツカントコトハ、冬ノ末ニナルベキホドニ、寸時モ急ギ候ト答ヘラレタト云フ義ゾ、カク云フテ、結處ノ句
ニカカ
迢遞不歸客人傳虚隱名
迢遞ハ遠キ貌ナリ、言フハ、長安ヨリ我が隱處ノ江湖ハ、千山萬水ヲ隔テ
リタゾ
テ、ハルバルノ路ナリ、若シ遅ク歸ルナラバ、江湖ノ邊ノ人ドモガ、秋處

士ハ長安ニ留マリテ、官ニ仕ヘテ、モハヤ江湖ヘハ歸ルマジキト見エタゾ、コノ程ニ歸隱シケルハ、眞實ノ隱者ニテハ
ナウテ、虚隱ニテアリツルヨトテ、我が虚名ヲ惹カンホドニ、サテ、急グト答ヘラレタトナリ、必ズカクハ云フマジケ
レドモ、詩人ノ興ニテ問答ノ格ヲ設ケテ作シタルナリ、

春喜友人至山舍

周賀

周賀ハ初ニハ僧タリ、ソノ時ノ名ヲ清塞ト云フタゾ、コノ詩ハ、僧タリシ時ノ作ト見エタゾ、才子傳ニ、居巖嶽爲浮屠トイヘリ、

鳥鳴春日晚喜見竹門開。 鳥は鳴く春日の晚、喜び見る竹門の開、路は高巖より出で、人は瘦馬に騎つて来る、花を折れば林影動き、石を移せば潤聲

鳥鳴春日晚喜見竹門開。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、云フハ、山舎ノ事ナレバ、問フ人モナケレバ、常ニ寂寞トシテ竹門ヲウチ閉チテ居テ、鳥ノ鳴ク聲バカリチ聞キテ、春日ノ永キヲ暮ラスノミナリ然ルニ、今日ハ思ヒガケモナキニ、友人ト思シキ人ガ馬ニ乗ツテ来レルガ、門外ノ路上ニ見エタゾ、ココニ於テ、喜ビテ、自ラ起ツテ竹門ヲ開キタトナリ

路自高巖出人騎瘦馬來。

コノ二句ハ虚ゾ、二ノ句ニ喜見ト云フタハコレゾ、山舎ノ前ナル峻路ノ高巖ノ間ヨリ出デテ、瘦馬ニウチ乗ツテトボトボシテ友人ノ來ラレタトゾ

折花林影動移石澗聲回。

コノ二句ハ、山舎ニ於テ友人ト共ニ遊戯シタル實事ゾ、言フハ林間ニ行キテ、花ヲ手折レバ、春日ノ影ノ樹林ニカカリタルホドニ、林影ガ動クトゾ、又林影ガ水ニ移リテ動クト見テモヨキゾ、移石トハ、友人ノサシヅニテ、淺水ノ立石ヲ別處ニ移シヌレバ、サテ、澗聲ガ其處ニ隨ツテ聞コエタトゾ

更欲留深語重城暮色催。

深語トハ、情思ノ深キ物語ヲ云フゾ、言フハ、初ニト云ハルルゾ、ソコニテ、今チト留リテ、物語ヲシ給ヘト云フタレバ、友人ノ答ニ、重重ニカサナレル城ノ邊ニ暮景ノ色ヲ催スホドニ、ハヤ歸ラント云ハレタトゾ、

龍翔喜胡權訪宿

俞 亮

龍翔寺ハ龍州ニ在ルゾ、注ニ見エタゾ、兪亮ガ龍州ニ旅タチシ時ニ、龍翔寺ニ一宿シテアリタレバ、胡權ト云フ者ガ尋ネテ來リタゾ、

林棲無異歡 煮茗就花欄。 林棲異歡なし、茗を煮て花欄に就く、雀は北窓の晩に啄み、僧は西閣の寒を聞く、橋を衝いて二水急なり、月を扣いて一鐘残る、明發還た手を分つ、徒に悲む行路の難、

林棲無異歡 煮茗就花欄。

コノ詩ハ、前體後用ノ格ゾ、言フハ、旅宿ト云ヒ、特ニ林下ノ住キナレバ、何ナル故ニ、雀ドモガ晩ノ時分ニハ、北ノ方ノ陰ナル窻ノ邊ニ集マリテ啄ミタトゾ、サテ、ソノ頃ニ寺僧ガ來リテ、夕陽ノ風景方面白ク候ヨ、客人タチ御覽ジ給ヘトテ、西閣ヲ開キタトナリ、寒トハ、閣ヲ開キタレバ、風ガ吹キ入リタルホドニ

雀啄北窓晚僧開西閣寒。

コノ二句ハ、西閣ニ於テ見聞スルトコロノ實事ゾ、二水ハ、龍翔寺ノ十境一樓ノ鐘アリ、コレヲ一鐘ト云フタゾ、言フハ、二水ノ流ガ急ニシテ、橋ニツキアタリタゾ、サテ又、夕陽ノ時分ヨリシテ、胡權ト共ニ西閣ニ談笑シテ、五更ノ時分マデニ居タレバ、兩院ノ間ナル一鐘ヲ月下ニ扣キタゾ、ソノ聲ガ殘ニ殘リタトゾ、月ヲタタクトハ、鐘ガ月ヲタタクヤウナト云フ義ゾ、月ニタタクト讀メバ、死句ニナルゾ

衝橋一水急扣月一鐘殘。

コノ一ツゾ、一鐘トハ、龍翔寺ノ内ニ禪院ト教院トノ二院アリ、ソノ間ニ、一樓ノ鐘アリ、コレヲ一鐘ト云フタゾ、言フハ、二水ノ流ガ急ニシテ、橋ニツキアタリタゾ、サテ又、夕陽ノ時分ヨリシテ、胡權ト共ニ西閣ニ談笑シテ、五更ノ時分マデニ居タレバ、兩院ノ間ナル一鐘ヲ月下ニ扣キタゾ、ソノ聲ガ殘ニ殘リタトゾ、月ヲタタクトハ、鐘ガ月ヲタタクヤウナト云フ義ゾ、月ニタタクト讀メバ、死句ニナルゾ

明發還分手徒悲行路難。

言フハ、先マデハ、月色モ殘夜ガアケタホドニ、モハヤ胡權モ歸リ給ヘ、我モマカリ立ツホドニト云フテ、手ト手ト相携ヘテ、寺前マデ出デタルガ手ヲ分ツテ、暇乞シテ別ルルゾ、ソコニテ、我が行クサキノ行路難ヲ悲ミタトゾ、徒トハ、イタヅラニト云フ義ゾ、歸

隠シテ居タラバヨカルベキニ、サモナクテ、世利ニ走ルハ、徒ヅラ事チヤゾ、ソレヲ悲ムホドニ、徒悲ト云フタゾ、

秋晚郊居

任蕃

官ヲ休メ、故郷ニ歸リテ、野外ニ隱居シタル時ノ作ゾ、

遠聲霜後樹。秋色水邊村。野徑來客なし、寒風自ら門を動かす、海山日影を藏し、江石潮振を落す、惆悵高飛晚く、年故園に別る、

遠聲霜後樹。秋色水邊村。

コノ詩ハ、歸題ノ正格ゾ、言フハ、秋ノ末ツカタナレバ、我が郊居ノ四邊ニアル樹ト

モ、霜ヲ經タル故ニ、葉ガ盡ク落チテ、風ガ吹ケドモ音モセズ、又秋色モ見エヌゾ、我が郊居ヨリアナタノ水邊ノ村ニハ、秋色ガアルトゾ、民村ハ秋ニナレバ、ユユシキ程ニゾ、又秋ノ色ヲ白キニトルホドニ、水ノ白キヲ秋

野徑無來客。寒風自動門。

コノ二句ハ虛ゾ、言フハ、我が郊居へ通フ徑ハ、イヤシゲナ

ハツネニナキゾ、寒風ノ自然ニ吹キ動クバカリヂヤトゾ

海山藏日影。江石落潮痕。

コノ二句ハ、郊居ノ實事ゾ、言フハ、我が郊居ハ、

テ、日影ヲカクスホドニ、イツモ天日ヲ見ルコトハナキゾ、又江邊ニ巖石ガ多キゾ、潮ノ退キタルアトニ、巖間ニ留リタル水ガ江石ヨリ落ツルガアルゾ、ソノ外ニハ、何事

惆悵高飛晚。年年別故園。

高飛トハ、人間ニ在ラザ

言フハ、我が高飛シテ歸隱スルコトノ遅キコトヲ、今後悔シテ、惆悵ト大ナゲキシタゾ、イカニト云フニ、コレヨリ先ニハ、今年モ歸隱セン、今年モ歸隱セント、口ニ云フタルバカリニテ、カカル面白キ故園ヲ別レテ、他郷ニテ官ニ仕

ヘタルホドニトゾ、

友人南遊不還

于武陵

コノ詩ハ、于武陵ガ妻ノ作ナリ、武陵ガ集ヲ編ム時ニ、錯リテ集中ニ入レタルナリ、于武陵ガ商洛巴蜀ノ間ニ往來シ、又瀟湘ヘ至リタルコトハ、前ニ記シタゾ、題ニテ、友人トハ、于武陵ガ妻ノ詞ニテ、武陵ヲ指シタゾ、于武陵ガ南遊シテ還ラザルヲ戀ヒテ作りタル詩ゾ、

調題 相思春樹綠なり、千里各依依、鄂杜月頻滿、瀟湘人未歸、于武陵ガ妻ノ居タル處ゾ、月頻滿トハ、頻ハ急也チ南蹤跡稀なり、

相思春樹綠。千里各依依。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、相思ハ樹ノ名ゾ、絶句ノ抄ノ中ニ記シタゾ、妻ノ夫ヲ戀ヒ

テ死シタルガ、ソノ精魂ノ化シテ樹トナリタルヲ相思樹ト云フゾ、依依ハ願戀ノ貌ゾ、文選ニテ、依依ヲシタヘリト和訓シタゾ、言フハ、春樹ノ綠ナル時分ニ、千里アナタニ居タル于武陵ヲユカシク思フ

鄂杜月頻滿。瀟湘人未歸。

コノ二句ハ虛ゾ、鄂杜ハ二縣ノ名ゾ、扶風ニ在リ、

于武陵ガ妻ノ居タル處ゾ、月頻滿トハ、頻ハ急也チヤホドニ、程ナク春夏ハ過ギテ、ハヤ急速ニ仲秋滿月ノ時分ニナリタトイフ義ゾ、詩ノ意ハ、我が夫ハ、春樹ノ綠ナルコロモ歸ラズ、程ナク春夏ハ過ギテ、急ニ秋ガ來リテ、己ニ八月十五圓滿ノ月ノ頃ニナリタレドモ、瀟湘ノ方ヘ行キタルウキ人ハ未

桂花風半落。煙草蝶雙飛。

コノ二句ハ、鄂杜ノ實景ゾ、言フハ、鄂杜ノアタリハ、ハヤ明月ノ秋

カリナリトゾ。桂花ノ落ツルヲ見テハ、我が夫ハ死シテヤアラント疑ヒ、胡蝶ノ雙飛ヲ見テハ、我が獨居ヲ感ズルバカリヂヤ
一別無消息。水南蹤跡稀。
水南トハ、瀟湘ヲ指シタゾ、言フハ、一別以來、消息ノヲトゾレ絶エテナ
キゾ、然レバ、瀟湘ノ方ヘ行カントハ云ハレツレドモ、シカト瀟湘ヘ行カ
レタトモ、蹤跡ヲ傳フル人モ亦タ稀ナリトゾ、

●夜泊淮陰

項斯

才子傳ニ、項斯、字子遷、江東人也、會昌四年進士、始命潤州丹徒縣尉、卒於任所トイヘリ、コレヨリ見レバ、
潤州ヘ行クトテ、淮陰ニ夜泊シタルモノゾ、

夜楚家の烟に入れば、烟中人未だ眠らず、望み来れば淮岸盡く、坐ながら到る酒樓の前、燈影半ば水に臨み、華聲多く船に
在り、流に乗じて東に向ひ去らば、此を別れて年を経易からむ。

夜入楚家烟。烟中人未眠。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、夜、船ニ乘リテ、楚國ノ人家ノ煙火ヲシルベニシ
テ湊ニ入りタレバ、即チ淮陰ニテアリシゾ、サテ、ソノ煙中ノ家ノ人ドモハ、未

ダイネナンダゾ、
繁昌ノ地ナル故ゾ

望來淮岸盡。坐到酒樓前。

コノ二句ハ虚ゾ、言フハ、沖ヨリ望ミ見ル時ニハ、淮陰ノ岸ガ
見エタゾ、サテ、來ツテ舟ヲ湊ニ入レタレバ、或ハ客船ヲセキ

第次第二舟ヲ入レタレバ、酒
樓ノマン前ニ到得シタトゾ

燈影半臨水。華聲多在船。

コノ二句ハ、夜泊シタル船中ニシテ見聞スルトコ
ロノ實事ゾ、言フハ、酒樓ノ前ニ船ヲツケタレバ、

ソノ樓ヲカケ作りニシタルホドニ、樓上ニトモシタル燈影ガ、半分バカリハ水ヲ照ラシタゾ、臨トハ、上ヨリ下ニ光ヲ

クダシタルヲ云フゾ、コレハ見ルトコロゾ、サテ又、箏ヲ彈ズル聲ガ錯雜シテ、アナタコナタノ旅舟ノ中ニ在ルトゾ、
淮陰ノ繁昌ナル
コトヲ羨ミタゾ

乘流向東去。別此易經年。

言フハ、流波ノ上ヲ舟ニウチ乗ツテ、東ノ方ヘ向ヒ去リタラ
バ、此ノ如キ繁昌ノ地ヲ別レテ、潤州ノ丹徒縣ノ邊土ニテ、

空シク年月ヲ經テ、光陰ノ移リ易キコトヲ感ジテ居ルベキコトノ悲シサトゾ、コノ二句ガ謙トナツテ、項斯ハ、終ニ
潤州ニテハテタゾ、

●秋夜宿淮口

景池

景池ハ才子傳ニモ載ラヌゾ、又履歷ニモ傳ガナキゾ、イカサマニ、南國ノ人ナルガ、郷貢トシテ、京ニ在リツ
ルガ、及第モセザルニ依ツテ、故郷ヘ歸隱スルトテ、揚州ノ淮口ニ夜泊シタルモノゾ、

露白うして草猶ほ青し、淮舟岸に倚つて停まる、風帆幾處の客ぞ、天地兩河の星、樹靜にして禽草に眠り、沙寒うして鹿汀
を過ぐ、明朝誰か伴を結んで、直に走つて滄溟に泛ばむ。

露白草猶青。淮舟倚岸停。

コノ詩ハ、歸題ノ正格ゾ、言フハ、秋ノ氣ヲ承ケテ、露ガ白ケレバ、イトド青キ草
ドモガ、猶ホモ青ク見ユルゾ、ソノ時節ニ、淮海ヲ通ル舟ナルガ、暫ク岸ニ倚リ

テ停マリテ、日波ヲ待ツタトゾ、一ノ句ハ、小人トモガ君ノ恩澤ヲ受タルニ比シ、二ノ句ハ、己ガ時ヲ失ヒ漂泊スルニ
タトヘ

風帆幾處客。天地兩河星。

コノ二句ハ虚ゾ、言フハ、我ハサキ舟ニ乘リテ、早ク著岸シテ、淮口ヨリ
シテ沖ノカタヲ眺メタレバ、順風ニ帆ヲアゲテ入り來ル船ドモガ、數カギ

リモナク見ユルゾ、サテ、アノ舟ニ乘リタル旅人タチハ、イカホドノ在處ノ人タチニテアルラント疑フタゾ、兩河トハ
天ニモ河漢ト云フガアリ、地ニモ河海ガアルホドニ、兩河ト云フタゾ、言フハ、今夜ハ天氣ガヨク晴レタル故ニ、天ノ

河漢ノ星ノ影ヲ盡ク地ノ河海ニ移リタゾ

樹靜禽眠草。沙寒鹿過汀。

コノ二句ハ、淮口ノ實事ゾ、言フハ、淮口ノ岸上ニ樹トモハ多クアレドモ、

禽鳥ノ宿スル事ガナウテ、イカニモ靜ナルゾ、ヤレ不思議ヤト思ヒタルガ、ヤガテ推量シタゾ、ココモトノ鳥ハ、皆水鳥ニテ草ニ眠リテアルラン、ソノ故ニ、樹ハ靜ナルラントゾ、又ヤアアリテ、鹿ガ鳴イテ汀ヲ過ギタゾ、コレモ疑ハシク思ヒタルガ、定メテ、アノ鹿ハ、處ヲ失シテ山ニハエスマズシテ、沙ニ宿セントシケルガ、又沙ガ寒キ故ニ、沙ニモエ宿セズシテ、汀ヲスギテ、イヅクニモ行カントスルモノナラント推量シタトゾ、畢竟ハ、己ガ時ニ過ハザルヲ以テ、二ツノ物ノ處ヲ失シタルニ比シタゾ
明朝誰結伴。直去泛滄溟。
言フハ、シヨセン、思フニ、コノ國ニハ道ガ行カレヌホドニ、故郷ヘ歸リテモ益ナシ、明朝モシ我トヒトシキ人アリテ、友ノ交ヲ結ブナラバ、コノ淮口ヨリ、スグニ楫ヲ東ニムケテ、滄溟ニ泛ンデ、徐福ナドガヤウニ、日本ノ方ヘ行キタイト思フトゾ、

●村行

姚揆

姚揆ハ、才子傳ニモ載ラヌゾ、又履歷ニモ傳ガナキゾ、イカサマニ、南國ノ人ナルガ、初二下第シテ故國ヘ歸ツテ、又京ヘ上ルトテ、巴陵ニ旅泊シタルガ、日波ヲ待ツ中ニ、漁村ノアタリヲ吟行シマハリテ、コノ詩ヲ設ケタルト見エタゾ、

訓讀 天淡くして雨初めて晴る、遊人恨勝へず、亂山蜀魄啼き、孤棹巴陵に宿す、影は暗し村橋の柳、光は寒し水寺の燈、吟を罷めて故國を思ふ、窓外に漁あり、

天淡雨初晴。遊人恨不勝。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、天淡トハ、天ノ晴レタルヲ云フゾ、淡ヲ晴ニトリ、濃ヲ陰ニトルゾ、ナルホドニ、東坡モ雨奇ヲ濃抹ニ比シ、晴好ヲ淡粧ニ比シタゾ、サテ

詩ノ意ハ、漁村ノアタリヲ吟行スル中ニ、天氣ガ晴レテ、淡淡トアワクシテ、春雨モ、今日初メテハレタゾ、然ラバ、明日ハ出船スベシト喜ブ中ニ、遊人ノ浮レ人ノ身ナレバ、俄ニコタヘラレザル恨ガ出来シタゾ、カク云フテ、恨ノ子細ヲ次ノ二句ニテ述ベタゾ
亂山啼蜀魄。孤棹宿巴陵。
コノ二句ハ、勝ヘザル恨ハ是レゾ、言フハ、吟行スル中ニ巴陵ノ上ナル亂山ニ蜀魄ノホトドキスガ、頻リニ不如歸去ト啼イタ

ゾ、ソノ聲ヲ聞イテ、我が身ノ程ヲ感ジテ、恨ガ俄ニ生ジタゾ、何ト感ジタゾナレバ、世上ノ人ノヤウニ、大船ニモ乗ラズ、漸ク孤舟ニ棹ササセテ、サテ、日波ヲ待ツテ、巴陵ニ旅泊シタルコトノ哀レサヨト感ジタゾトナリ
影暗村橋柳。光寒水寺燈。
コノ二句ハ、巴陵ニテ見ルトコロノ實景ゾ、言フハ、

村橋ノ柳ヲ見タレバ、枝葉シゲリテ、綠陰ガ暗カリシゾ、コレニツケテモ、京都ヘハ上ルマジキト思フゾ、ナゼニナレバ、長安ノ灞橋ノ柳ハ、京ニテ人ヲ送ルコトノシゲキ橋ノホドリニアル故ニ、枝ヲ折り盡クサレテ、葉モシゲラヌゾ、人ノ世ニ在ルモ、カクノ如クナルベシ、我ハ、シヨセン、歸隱シテ、禍ヲノガレテ、身ヲ保タント思フゾ、コレハ、晝ニシテ見ルトコロゾ、又夜ニナリテ、水邊ナル寺ニ燈ヲ立テタルヲ見タレバ、ソノ光ガ水ニウツロヒテ、清寒ニシテ、一入殊勝ニ見エタゾ、サレバ、俄ニ無常ノ意ガ出
罷吟思故國。窗外有漁翁。
言フハ、初二ハ、漁村ノ事ニ來テ、官ニ仕ヘント思フ意ガウスクナリタトゾ
ウイテ詩ヲ吟ジタリシガ、今ハハヤ詩興モ盡キテ、故郷ノ事ヲ思フバカリゾ、サテ、漁人ドモノ窓外ヲ見タレバ、網ヲカケテ置キタゾ、イザサラバ我モコノママ、ココニ留マリテ、共ニ釣漁ノ樂ヲタノシマント思フトゾ、

●題甘露寺

曹松

コノ寺ハ、夏口ニ在ルゾ、前ニ見エタリ、

〔翻譯〕香門巨壘に接し、畫角清鐘に聞はる、北固一に何ぞ峭なる、西僧多くは此に逢ふ、天は垂る無際海、雲は白し久晴の峰、日暮燃燈の外、潮頭蟄龍を振す、

香門接巨壘。畫角間清鐘。

コノ詩ハ、歸題ノ正格ゾ、香門トハ、香積ノ門ト云フ義ゾ、寺ヲ香積ト云フゾ、巨壘ハ石頭城ヲ指スゾ、古シヘヨリノ軍壘ナレバゾ、言フハ、コノ寺ハ石頭城ノ巨壘ニ相ツヅキ立ツタゾ、故ニ巨壘ニテ用心ノタメニ、畫角ヲ吹ク聲ガ寺ノ清鐘ニマジハリテ聞コユルトゾ、清トハ、清ノ義ゾ、梵ノ字

北固一何峭。西僧多此逢。

コノ二句ハ、北固山ニ立ツタゾ、西僧トハ、西ノ僧ト云フ義ゾ、言フハ、コノ寺ノ立ツタル北固山ハ、ナニトシタルコトニ、一スデニ、是ノ如クサガシキノ餘リニサガシキ程ニ、常ノ僧ハエスマヌゾ、サレバ、寺ニテ僧タチニ逢フテ問ヘバ、過半ハ西

天垂無際海。雲白久晴峰。

コノ二句ハ、寺ノ實景ゾ、言フハ、寺ニ上ツテ見タレバ、下ナル海ハ何處トモ知レヌ限リナキ大海チヤゾ、ソノ海

天竺ノ僧チヤト云フトゾ
ノ末ヲ見レバ、天ガ垂レテ海ト一ツニナリタルヤウニアルトゾ、サテ又、雲ハ山ノフモトニ懸リテ、雷雨ナドモ、山ノフモトニテノ事ナルホドニ、寺ノアル峰ハ常ニ晴レキツテ、イカニモ、風景ノ面白キ寺チヤゾ

日暮燃燈外。潮頭振蟄龍。

振ハ本ハ震ゾ、通ジテ振トナシタゾ、震ハ起也、言フハ、コノ寺ニハ、朝夕ニ燈火ヲタツルゾ、ソノ外ニ、又潮ノ滿ツル時ニハ、海神ガ勅シテ、蟄龍ヲ起シテ、龍燈ヲアゲシムルトゾ、

已前共十七首

卷三之四終

增註唐詩五言律句三體家法卷三之五

前實後虛

周弼曰、謂前聯景而實、後聯情而虛、前聯トハ、肩ノ一聯ヲ云ヒ、後聯トハ、腰ノ一聯ヲ云フゾ、虛實ノ沙汰ハ、ハヤ前ニ云ヒ盡シタホドニ、ココニハ云ハヌゾ、サテ、文法ニ頭領腹腰尾ト云フ事ガアルゾ、文ハ詩ヨリ始メタホドニ、詩法ト文法トハ、大體ハ同ジキゾ、サルホドニ、詩法ニテ起頭ノ句ヲ首句トモ云ヒ、篇首トモ云フゾ、サテ、第三第四ノ句ヲ領聯ト云フゾ、本邦ニテハ、肩ノ對ト云フゾ、第五第六ノ句ヲ腰聯ト云フゾ、本邦ニテハ腰ノ對ト云フゾ、第七第八ノ句ヲ篇尾ト云フゾ、コレハ八句體ノ詩ノ沙汰ゾ、長篇ノ詩ニハ、頭領腹腰尾ガ文法ノヤウニ悉ク備ハルゾ、八句體ノ詩ニ、腹ノ沙汰ハナイゾ、私ニ考フルニ、第三ノ句ヲ領ニ配シ、第四第五ノ句ヲ腹ニ配シ、第六ノ句ヲ腰ニ配スレバ、八句體ニモ頭領腹腰尾ノ五法ガ皆備ハルゾ、前重後輕、多流ニ於弱、唐人此體最少、必得ニ妙句、不可レ易、乃就ニ其格、蓋發興盡、則難ニ於繼、前トハ前聯ゾ、實チヤホドニ重キゾ、後トハ後聯ゾ、虛チヤホドニ輕キゾ、前實ニシテ重ク、後虛ニシテ輕キハ、多分詩ノ體ガツタヘテ弱キ方ナル者ゾ、サルホドニ、唐人モ前實後虛ノ體ヲ大事ニシテ、コノ體ノ詩ヲ作ルコトガ稀ナトゾ、自然ニコノ體ノ詩ガアルハ、ソレハ皆必ズ妙句ヲ得ル時ニ、或ハ四實、或ハ四虛ノ體ニ備ヘントスレバ、四實ニモ、四虛ニモ合ハヌ事ガアルゾ、ソノ句格ヲ易フレバ、妙句ガアシクナルホドニトテ、ソノママニ置キタル詩ガ、或ハ前實後虛、或ハ前虛後實ナドノ體ニナルゾ、ソノ詩トモアツメテ、某某ノ體ト出シタゾ、凡ソ詩ヲ作ルニ、發端ニ自然ト妙句ヲ得タト思フニ、サシアヒアリテ、ソノ句格ヲ改ムレバ、吟興ガ盡キテ、後篇ガ繼ガレヌモノゾ、サルホドニ、發興盡則難ニ於繼ト云フタゾ、後聯稍間、以實、其庶乎、上ニ謂フトコロハ、皆前實後虛ノ批判ゾ、コノ一句ハ、周弼ガ意ニ順フトコロゾ、言フハ、後虛ノ中ニ漸クニ

シテ實ヲマジヘタラバ、コヒネガハクハ、ヨイ詩デアラントゾ、

●秋夜獨坐

王維

獨坐雙鬟を悲む、空堂ニ更ならむと欲す、雨中山菓落ら、燈下草蟲鳴く、白髮終に變じ難し、黄金成すべからず、老病を除くを知らむと欲せば、惟だ無生を覺ゆるあり、

獨坐悲雙鬟。空堂欲二更。

コノ二句ハ皆虛ゾ、サレドモ、二ノ句ノ空堂ハ實ゾ、虛ノ中ニ實ヲ含ミタゾ、コハ、前實後虛ノ體ニハカカハラヌゾ、詩ノ意ハ、折フシ秋ノ時分ナルニ、語リ慰ムベキ友ハナシ、宵ヨリシテ獨坐シテ、吾ガ雙鬟ノ皆白クナリタルコトヲ悲ミタリ、サテ、坐シタル處ハト云フニ、人モナキ空堂ゾ、宵ヨリ獨坐シテ居タレバ、漸ク二更時分ニナラントシタゾ、初更ヨリ二更ニ至ル間サへ、長キ夜ト思フタニ、コレヨリシテ、五更ニ至ルマデノ永キ夜ヲ、何トアカサント思フ意、云ハザルニ中ニ聞エタゾ、コノ詩ノ格ヲ、接項ノ格ト云フソ、第一聯ノ上ノ一句ヨリ、中間ノ四句ヲ出シタゾ、サルホドニ、接項ノ格ト云ヘリ

雨中山菓落。燈下草蟲鳴。

コノ二句ハ、聞見スルトコロノ實事ゾ、謂ユル前實ゾ、第一句ノ獨坐ヲ承ケタゾ、詩ノ意ハ、ナリフシ秋雨ノモノスゴキ夜ニ、獨坐シテ有情非情ノ上マデテ感じテ居タレバ、山菓ノ落ツル聲ガ聞コエタソ、ソコニテ、コレハ菓ガ熟シテ重キニ、雨ガフリカカツタホドニ、イトド重クシテ、落ちタコトヲ悟リタゾ、サテ、青燈ノ下ニスゴストシテ居タレバ、又草蟲ノ鳴ク聲ガ近ク聞コエタゾ、ココニ於テ思フタゾ、コノ蟲ハ、庭ヤ砌下ナドニ鳴クベキニ、床ニ近ヅキテ、コトサラ、燈ノホトリニ來テ鳴クハ、ハヤ夜寒ニナツタ故ニテコソアルラント、有情非情ノ上ニテ榮落生死ノ事ヲ感じタゾ

白髮終難變。黄金不可成。

コノ二句ハ虛ゾ、謂ユル後虛ゾ、ナレドモ、上ノ句ハ、白髮ノ二字ニテ、スコシ實ヲ含ミ、下ノ句

ハ、黄金ノ二字ニテ、少シ實ヲ含ミタゾ、コレ謂ユル後聯稍間以實モノゾ、サテ、上ノ句ハ、第一ノ句ノ悲_ム雙_ト云フ三字ヲ承ケタゾ、下ノ句ハ、神仙ノ術ヲツシツテ、七八ノ句ヲ起シタゾ、コノ二句ハ、文法ニテ、決前生後ノ句ノ法_ソ、詩ノ意ハ、我が雙鬢ノ盡ク白クナリタル事ガ、偏ニ悲シキゾ、サラバ、仙術ヲ學ンデ、白髮ヲ變ジテ、黒鬢トナサント思フタガ、イヤソレハ、トテモナルマイゾ、仙術ニハ、イツハリガアルゾ、ムカシ人アリ、神仙ノ鬼神ヲツカヒ土ヲ變ジテ黄金トナス術ヲ學ンデ、天子ニ朝シテ、我ハ能ク土ヲ以テ黄金ヲ作ルト奏シタゾ、サラバトテ、土ヲ集メテ黄金ヲ作ラシメタレバ、ソノシルシガナカツタゾ、是ノ如ク仙術ニハ、僞リガアルホドニ、黒鬢_ヲナドト云フコトモ、僞リデアラウゾト思ヒカヘシテ、仙術ヲ學ビヌゾ、恕ノ抄ノ義ニ、白髮ヲ變ジテ黒クナスコトハ、黄金モナルマイト云フ心ニセラレタレドモ

欲知除老病。惟有覺無生。
 コノ二句ハ皆虛ゾ、前實後虛ノ體ニハカハムラヌゾ、上ノ二句ヲココニテ結シタゾ、言フハ、仙人モ終ニハ死スルホドニ、生老病死ノ苦ヲ免ルルコトハナイゾ、只ダ佛道ヲ學ビテ、無生法ヲ覺ツタラバ、老病ノ苦ヲ免レウゾ、サル上ニハ老ヲ感ズル事モアルマジキホドニ、雙鬢ノ白キヲモ悲ムマジキゾト、秋夜ニ獨坐シテ觀念シタゾ、欲ノ字ヲ、經論家ニテハ、オモフト訓ジタゾ、老病ノ苦ヲ除カント思ハバ、惟ダ佛道ニ入ツテ、無生法ヲ覺エテ、無生法忍ニ任ズベシトゾ、コレヨリ見レバ、王維ハ、教意ヲ學シタル者ト見エタゾ、祖語ニモ、棒下無生忍、臨機不讓_レ師ト云フガアルゾ、一棒ノ下ニテ、無生法ヲ悟ツテ、ソノ法ノ位ニ忍住シタル衲僧ハ、師家ヲモハバカラズ、棒喝ヲ行ズベキニ當ツテハ、便チ行ズルゾ、王維ガ謂フトコロノ無生法ハ、經論家ニ觀ズル底ノ無生法ゾ、サルホドニ、覺ルト云フタゾ、季昌本ニハ、學ブトアルゾ、衲僧家ノ棒下ニテ、大悟大徹シタル無生法忍デハナイゾ、

●秋夜汎舟

劉方平

劉方平ハ、本ト河南ノ人ナルガ、長安ニ在リシ時ニ、林塘ノ邊ニ行キテ、夜遊シテ、此詩ヲ作シタゾ、
 調題 林塘夜舟を汎ぶ。蟲響秋颺、萬影皆月に因り、千聲各秋の爲にす、歲華空しく復た晩る、郷思愁に堪へず、西北浮雲の外、伊川何の處にか流る。

林塘夜汎舟。蟲響秋颺。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、秋ニナリテ、彌ヨ故郷ガユカシキ程ニ、チト出

レバ、蟲モヒビキ、萩モ風ニ吹カレテ、颺トソヨメキテ、イ
 デテ、林塘ノ邊ニ行キテ、舟ヲウカベテ、夜遊シテ旅懷ヲ慰サメントシタゾ、然
 ト下客愁ガマシタトゾ、ココニハ、有情非情ノ二ツヲ述ベタゾ

萬影皆因月。千聲各爲秋。

コノ二句ハ、秋

フハ、萬象森羅ノ影ハ、皆一月ニ因ツテアラハレ、百千萬億一切ノ聲ハ、皆秋風ノ爲ニ起ルトゾ、ココニハ、聲色ノ
 二ツヲ述
 歲華空復晚。郷思不堪愁。
 コノ二句ハ虛ゾ、歲華ハ年光ノ義ゾ、言フハ、今年ノ光陰モ、ハヤ空
 シク晩レテ、秋ニナリタゾ、然レバ、故郷ヘ歸リタキ愁ガコラヘラレ

歲華空復晚。郷思不堪愁。

シク晩レテ、秋ニナリタゾ、然レバ、故郷ヘ歸リタキ愁ガコラヘラレ

西北浮雲外。伊川何處流。

言フハ、アマリニ故郷ガユカシキホドニ、長安ノ林塘ヨリシテ、西北ノ

方ニ當リタル河南ノ方ヲ望ミタレバ、浮雲ノ外ヨリ、ハルバルアナタニ
 キトゾ
 アルゾ、サテ、ソコニテ思ヒタゾ、我が故郷ハ、河南ノ内ナルガ、河東ノ方ヘカタヨリテ、伊川ニ近キ在處ゾ、サレバ
 タリヲリ伊川ニ舟ヲウカベテ、友人ト共ニ遊ビシゾ、今ソノ伊川ヲ思フニ、浮雲ノ外ニテハ、何レノアタリニカ流ルル
 ラン、アラユカシノ故郷ヤト、愁ヒタトゾ、伊、本ハ滯ゾ、通ジテ伊トナシタゾ、滯ハ、河東ノ水ノ名ゾ、

●春日臥病書懷

劉商

才子傳ニ曰ク、劉商、字子夏、徐州彭城人、擢進士第一、貞元中、累官比部員外郎、後出爲汴州觀察判官、辭疾挂

印歸^三舊業^一トイヘリ、然レバ、コノ詩ハ、汴州ニテノ作ナルベキゾ、

楚客年病孤舟人事稀。 楚客年を経て病む、孤舟人事稀なり、晚晴江柳變じ、春暮塞鴻歸る、今日方に命を知る、前年自ら非なりしを覺ゆ、歲計を憂ふるに能はず、限なし故山の薇、

楚客經年病孤舟人事稀

無^レ一事^二老病有^三孤舟^一ト云ヘリ、サテ、本詩ノ意ハ、我ハ本ト楚人ナルガ、旅客ノ旅人トナリテ、今ハ汴州ニ於テ、一兩年ホドウチ續イテ煩ヒタゾ、サルホドニ、我が身ハ、人ニ逢フテ、禮儀ノ人事ヲナスコトハ稀ナルトゾ

晚晴江柳變春暮塞鴻歸

コノ二句ハ、春日ノ實事ゾ有情非情ノ上ニテ、時ヲ感

ジタゾ、言フハ、春日ノ晚ツカタニ、天氣ノ晴レタル頃ニ、江邊ノ柳ヲ見タレバ、時ヲ得テ、一段シゲリテ、綠陰モイヨイヨ暗キゾ、サテ又、晚春ニナリタレバ、歸ルベキ時分ナリトテ、鴻鴈ハ塞ニ歸ルゾ、楊柳ノ如クニ、時ヲ得ル身ニモアラネバ、塞鴻ノヤウニ故郷ヘ歸リタルガマシヂヤ

今日方知命前年自覺非

孔子ノノタマヒシ如クニ

ト、歸歎ノ嘆ヲ起シタゾ、觀察判官ヲ不足ニ思フテゾ
ワレハ、今年ハヤ五十二ナリタゾ、サレバ、天命ノ道理ヲモ知ツタゾ、サテマタ、昔ノ蓬伯玉ガ云ヒツルヤウニ、コレヨリサキノ年ノ四十九ノ非ヲ、ワキマヘ悟リタゾ、然

不能憂歲計無限故山薇

言フハ、歸隱シタリドモ、一年中ノスギハヒ

ル上ハ、歸隱セイデハ叶ハヌコトヂヤト思ヒ定メタトゾ
ヲナス、ソノ歲計ヲモ憂フルベキニハアラヌゾ、ナゼニト云フニ、我が故郷ノ山ニハ、カギリモナキ薇ガアルゾ、ソノ薇ヲ折ツテ、スギハヒヲナスベキ程ニトゾ、

林館避暑

羊士諤

才子傳ニ云フ、羊士諤、貞元元年進士、順宗時、累至宣歙巡官、王叔文所惡、貶汀州寧化尉、ト云ヘリ、コノ詩ハ寧化縣ニ在ル時ノ作ゾ、

池島清陰裏無人泛酒船。 池島清陰の裏、人の酒船を泛ぶるなし、山岫金奏響き、花露水精圓なり、靜勝朝還暮、幽觀白己に支、家山正に此の如し、何ぞ歸田を賦せざる、

池島清陰裏無人泛酒船

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、林館ノホトリナル池水ノ裏ニ小島ガアルゾ、ソノ清陰ノ裏ニ暑ヲ避ケテ居レドモ、邊土ノ事ナレバ、誰ニテモ酒船ヲ泛ベテ尋ネ來

山岫金奏響花露水精圓

コノ二句ハ、林館ノ實事ゾ、言フハ、友ハナケレドモ、別ニ面白キ興トモアルゾ、ソレハ、ナンゾト

ル者ハ一人モナカリシトゾ、カ
ウ云フテ次ノ二句ニカカリタゾ
山岫金奏響、花露水精圓
云フニ、山ノ中ニ鳴ク岫ノ聲ヲ聞ケバ、樂ヲ作ス時ニ打ツ磬ヤナドノ響ノヤウニアルゾ、又花ニ浮ビタル露ヲ見レバ、水晶ノ玉ノ如クニ、圓ニシテ、一段清潔ナルゾ、酒ヲ瑞露珍ト云ヒ、盃ニ水晶盃ト云フモアルホドニ、便チ之ヲ勸盃ト思ヒ、又岫ノ聲ヲ宴遊ノ音樂ト觀ジテ

靜勝朝還暮幽觀白己支

コノ二句ハ虛ゾ、老子經ニ以レ靜勝レ熱トアルゾ、ココニハ借り用キタゾ、白己支トハ

樂ムトゾ、金奏ノ事ハ註ニ見エタゾ
人ガ揚雄ヲソシリテ、玄尙白ト云ヒタル事ガアルゾ、ソノ意ハ、揚雄ガ道ヲ行フハ、タトヘバ、素ヲ染メテ支トナサントスルニ、セメテ、黒色ホドニ染メナセバ好キガ、マダ本ノ白地デアルヤウナゾ、一向道ニハ遠ト云フ心ゾ、サテ、詩ノ意ハ、コノ林ハ靜ナルコトガ常ノ處ヨリモスグレタゾ、朝暮、共ニ是ノ如キゾ、サルホドニ、朝ニモ、暮ニモ、ココニ來テ幽微トフカキ道ヲ觀念スレバ、素キヲ染ムルニ、白ガ己ニ支トナリタルヤウニ、能ク道ニイタリタトゾ、天隱ノ注ノ意

ハアシ
 キゾ
家山正如此何不賦歸田。
 家山トハ、本分ノ境界ヲ指シタゾ、若シ又、教意ナラバ、寂光ノ土ゾ、
 如此トハ、前ノ二句ヲ指シタゾ、言フハ、白己ニ玄トナリヌル處ガ、
 本地ノ風光ゾ、ワレ今世塵ヲ得ハナレヌハ、口惜シキコトゾ、何トシタル意ニテ、我ハ張衡ガ如クニ、歸田賦ヲ作ツテ
 故郷ヘハ歸ラヌゾト、自ラ責メタゾ、

● 柏梯寺懷舊僧

司空圖

舊抄ニ云フ、柏梯寺在華州、昔有道士、於華州之山谷間、欲登仙、遂以柏樹爲輪材、登去、因華州有車箱谷、
 此寺在車箱谷、故名柏梯寺、司空圖、曾在華州、過此寺、今再過、則舊時僧已化、故懷之而作此詩也、
 雲根禪客の居、皆散く舊と昔が塵と、松日金像に明かに、昔藤木魚響く、依棲應に阻てさるべし、名利本來疎なり、縷ひ人
 の相問ふあるも、林間書を拆くに懶からむ、

雲根禪客居皆說舊吾廬。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、雲根ハ石ト云フ義ゾ、言フハ、我再ビコノ寺ニ往キタレバ、
 舊時ノ知音ノ僧ハ、遷化セラレタゾ、サテ、巖石ノ間ニ主人モナキ禪客ノ居處ガア
 ルゾ、コレハ、ナニ人ノ居處ゾト問フタレバ、寺僧衆ガ皆コレコソ足下ノ尋ネ給ヘル舊時ノ僧ノ居處デ候ヨト云フタト
 ズ、吾トハ、舊僧ニ吾ゾ、陶淵明ガ詩ニ、吾
 亦愛吾廬ト云ヒタル故ニ、カク云フタゾ
松日明金像。昔藤響木魚。
 コノ二句ハ、柏梯寺ノ實事ゾ、言フハ
 我が舊知ノ僧ハ、已ニ遷化セラレタ
 ルホドニ、相逢フテ語ルベキ人ハナシ、アナタコナタ見物シテ廻ルマデゾ、サテ、佛殿ノアタリヲ見タレバ、松ノ木ノ
 間ヨリ出タル日ノ光ガ、黄金ニテ作りタル佛像ヲ明カニ照シタゾ、サテ又、彼處ナル藤塔ヲ見タレバ、昔ガ埋ミタゾ、寺
 ニテ、木魚ヲ鳴ラセバ、復タ藤塔ニヒビキタゾ、定メテ、アノ 龍ハ、我が舊知ノ僧ノ影堂ニテアルラント推量シタトゾ

依棲應不阻名利本來疎。

コノ二句ハ、言フハ、佛家ノ上ニテハ、不生不滅ト説カルルホドニ、昔ノ僧
 ノ今御影トナツテ、昔龍ノ中ニスマルルモ、又存生ノ時ニ、禪客トシテ、コノ寺
 ニ依棲セラレシモ、差別ハアルマジキゾ、ソノ本心ハ、キラリトシテ、龍中ニアルベキゾ、タトヘバ、寺ニテウツ木魚
 ノ聲ガ、昔龍ニ響クヤウニアラントゾ、サリナガラ、今龍中ニ在リ、物ヲモ云ハレヌハ、本ヨリシテ、名利ニフケラヌ
 人ナル故ニ、ムヅカシサニ、人ニ
縱有人相問。林間懶拆書。
 言フハ、我が舊知ノ僧ハ、コノ昔龍ノ中ニ儼
 然トシテ居ラレタゾ、シカラバ、此ヲ去ツテ
 後ニ文ヲモ進上シテ、互ニ相問フベケレドモ、本ヨリ名利ヲ嫌ヒタル人ナレバ、今ハ林間ノ龍塔ノ中ニテ、書ヲ開イテ
 見ルコトヲ、ムヅカシク思シメサンホドニ、文ヲモ進上セマイトゾ、畢竟、生死一致ノ境界ヲ云ヒアラハシタゾ、

● 早春

コレモ、司空圖ガ作ゾ、華州ニ在ル時分ノ作ナルベシ、但シ本集ノ題ニハ、早春寄李道士トイヘリ
 懷を傷めて仍ほ客處す。病眼却つて花朝、草嫩くして沙を侵して短く、冰輕、て雨を著けて消ゆ。風光愛すべきを知る、
 客餐相饒さず。早晚丹丘の伴、書を飛ばして背て招かれむ、

傷懷仍客處病眼却花朝。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、司空圖ハ、忠節ノ志ガ深キ者ゾ、黃巢ノ亂後、昭宗在華州、
 召爲兵部侍郎、以足疾、自乞聽還ト才子傳ニアルゾ、コレヨリ見レバ、傷懷ト
 ハ、黃巢ガ亂ヨリコノ方、唐ノ世ノ亡ビントスルコトヲ傷ムナルベシ、言フハ、コノ春ハ萬事ニツケ、我が胃懷ヲ傷マ
 シムルバカリゾ、ソノ上、君モ京ヲ出御アツテ、華州ニマシマセバ、我モ召サレテ華州ニ客居スルゾ、サテ、眼病氣ガ
 以テノ外ニ出來シタゾ、モハヤ、風光ヲ見ルコトハアルマジキカト思フタレバ、却ツテ又、花ノ朝ニ逢フタゾ、却ノ字

ヲ、ソムクト訓ズル點ノ時ハ、病眼ナル故ニ、花ヲ見ヌホドニ、サテ、花ノ朝ニソムキタトゾ、暗ニ昭宗ニ暇ヲ乞ハントスル意ヲ
述ベタゾ
草嫩侵沙短。冰輕著雨消。 コノ二句ハ、早春ノ實景ゾ、言フハ、病身ナレドモ、早春ニ逢ヒタル程ニ、強ヒテ庭前ニ出デテ春ノ氣色ヲ眺メタゾ、然レバ、早春ノ事ナレ

バ、草ノ若ヤカナルガ、沙ヲ破ツテ出タゾ、サテ、ソノ草ハマダ生長セズシテ短キゾ、コレハ、庭ノ氣色ゾ、又池水ヲ見タレバ、氷モ解ケテ、薄氷トナツテ、輕ク浮ビ流ルルゾ、ソノ上、雨ヲ得テ、大抵消エントスルゾ、草ノ嫩ヲ昭宗ノ王子ダチノ幼少ニマシマスニ比シ、氷ノ
消スルヲ黃巢ガ亂ノ治マルニタトヘタゾ
風光知可愛。客鬢不相饒。 コノ二句ハ、春ニ逢ヒタル程ニ、花見ナドヲ企テテ風光ヲ愛スベキ意ハアレドモ、イカニセウモ、白髮ガユルサズシテ、頭ガ雪ノ如クチマホドニ、サモセヌトゾ、暗ニ、君ニ王子ダチモ夥多シマスホドニ、朝ニ仕ヘテ、王子ダチヲモ見ソダテマキラセタクハ思ヘドモ、老病ノ身ト云ヒ、白髮シタルホドニ、君ニ暇ヲ申シ乞ハント思フ意ヲ述ベタゾ、

早晩丹丘伴。飛書肯見招。 丹丘ハ仙境ヲ指シタゾ、事ハコレモ、朱全忠ガ王子ダチヲ殺スベキ機ヲ見テゾ
注ニ見エタゾ、サテ、言フハワレハ老病ノ身ナレバ、君ニ仕ヘ奉ルコトモナラヌゾ、サテ、イツカ丹丘ノ友ヨリ鶴ニ書ヲ傳ヘテ、決定シテ來レト招カレテ、歸隱スルコトヲ得ト願フタゾ、カク云ヒシガ、ヤガテ中條山ヘ歸隱シタゾ、

●江 行

コレモ司空圖ガ作ゾ、才子傳ヲ考フルニ曰ク、王凝爲宣歙觀察使、辟置幕府、召拜殿中侍御史、不忍去、凝府臺、効左遷、主簿盧相携還朝、過陝、訪圖、深愛重留、詩曰、氏族司空貴、官班御史雄、老夫如且在、未可歎途窮、就屬於觀察使盧渥曰、司空御史高士也、渥遂表爲僚佐、携執政、召拜禮部員外、尋遷郎中、トイヘリ、コレニヨリ見レバ、宣歙ノ間ヨリ、陝、方左遷セララルル時ニ、吳楚ノ間ヲ通ルトテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、
レニヨリ見レバ、宣歙ノ間ヨリ、陝、方左遷セララルル時ニ、吳楚ノ間ヲ通ルトテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、
甚し、何時ガ京洛ノ路、馬上に人煙を見む、

レニヨリ見レバ、宣歙ノ間ヨリ、陝、方左遷セララルル時ニ、吳楚ノ間ヲ通ルトテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、
甚し、何時ガ京洛ノ路、馬上に人煙を見む、

地潤分吳塞。楓高映楚天。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、宣州ハ本ト吳ノ宣城郡ゾ、隋ニ宣州ト改ム、歙縣ハ丹陽ニ在リ、今ノ新安郡ゾ、サルホドニ、宣歙ハ皆古シヘハ吳地ヂヤゾ、詩ノ意ハ、宣州ヨリ左遷サラレテ、陝、方ヘ行ケバ、地方潤クシテ、行路ガ遠キゾ、漸ク吳地ヲ行キ盡シタレバ、コレマデガ吳ノ國ノ分ヂヤト云フ塞ニ至リタゾ、サテ、ソノ塞ヨリ見タレバ、楚山ノ楓樹ガ高クシテ、ソノ紅葉ガ天ノ碧ナル色ニ映ジテ見エタゾ、サテ又、アノ楚地ノ廣ウシテ無邊ナルヲ通リテ、謫處ノ陝州ヤ虢州ノ間ニ行カンコトノ恨メシサヨトゾ

曲塘春盡雨方響。夜深船

コノ二句ハ、江邊ニシテ見聞スルトコロノ實事ゾ、春盡トハ花盡ト云フ意ゾ、言フハ、吳江ノアタリヲ通レバ、處處ノ曲塘ニアリシ荷花杜蘅ヤ、ソノ外ノヨロゾノ水草ノ花ドモハ、皆零落シ盡キテ、シカモ雨フツテ、蕭蕭トモノ凄ウシテ、イトド旅懷ガマシタトゾ、方響ハ樂器ゾ、註ニ見エタゾ、言フハ、黃巢ガ餘黨ドモガ、今モ州州ニアルホドニ、吳江ノアタリニテハ、用心ヲシテ、番ブネヲ置イテ、夜ノ深クアルマデニ、方響ヲ吹クゾ、ソノ聲ヲ聞イテ

行紀添新夢。羈愁甚往年。

コノ二句ハ、江邊ニシテ見聞スルトコロノ實事ゾ、途中心ノ事ヲ記シタル卷物ヲ云フゾ、紀行トモ云フゾ、杜子美ヤ東坡ナドガ詩集ニモ、紀行ノ部ガアルゾ、詩ノ意ハ、我が途中ノ行紀ニハ、別ナル事ヲバ記サヌゾ、唯ダ君ヨリ召シ返ヘサルト云フ目出度キ夢バカリヲ夜夜ニ見ルゾ、ソノ夢ヲ書キ添フルバカリヂヤトゾ、新夢トハ、一昨夜ノ夢ヨリ外ニ、又昨夜ノ夢ヲ書キ添フルホドニ、新夢ト云フタゾ、羈ハ本ハ羈ナリ、通ジテ羈ト作シタゾ、羈ハ旅寓ナリ、寓ハ寄ナリ、旅ニテ寄宿スルヲ旅寓ト云フゾ、言フハ、過ギシ年月ハ、旅寓ノ身ニテ、愁ハア

リシカドモ、凝ニネンゴロヲウケタル程ニ、アマリニ悲シキ事ハナカリシゾ、今茲ハ左遷ニ遇ヒタルホドニ、一入愁ガ甚
 ジキ
何時京洛路馬上見人煙。
 言フハ、唯今左遷セラレテ行ク路ハ、邊土ナレバ、人家モナキ處ヲ通ルゾ、
 トゾ
 サテ、イツカ召シカヘサレテ、京洛ノ路ニオモムキテ、ユウシキ人家ニ炊煙
 ノ起ルヲ見ントゾ、左遷ニハアヒタレドモ、君ヲ恨ミヌゾ、ナゼニナレバ、君ヨリ召サレタレドモ、辭退シテ、京都へ
 上ラザル罪ニテ流サレタホドニゾ、カク忠信アル故ニ、ヤガテ召シカヘサレタゾ、

●春 日

李咸用ハ隴西ノ人ゾ、履歷ニモ委シキ傳ハナキゾ、

李 咸 用

浩蕩たる春風の裏、徘徊視むと、こゝろなし、危城三面の水、古木一邊の春、衰世道を行ひ難し、花時貧に稱はず、滔滔たり天
 下の者、何の處か通津を問はむ、

浩蕩春風裏徘徊無所親。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、浩蕩ハ二字共ニ廣大ノ貌ゾ、孟子ニ浩然之氣ト云フ、注ニ
 浩然ハ廣大ノ貌也ト注シタゾ、論語ノ注ニ、蕩蕩大也トシタゾ、又尙書ニ、蕩蕩
 懷山襄陵ト云フ、注ニ蕩蕩廣平貌也、言水勢源流無所復見トシタゾ、サルホドニ、浩蕩トハ、廣大平遠ニシテ、ド
 コヲ限リトモ見ワケヌト云フ義ゾ、サテ、詩ノ意ハ、浩蕩ト大ニシテ、ドコヲ限リトモ知ラザル世間ニ、シカモ、春
 風ノ穩ニ吹ク時分ニ、アナタコナタヘ徘徊トタチ息ラヘドモ、ソノ中ニ親シウスルトコロノ人ハ一人モナイトゾ、己ガ
 貧シキ故ニ、知音ナ
 キコトヲ恨ミタゾ
危城三面水。古木一邊春。
 コノ二句ハ、隴西ノ實景ゾ、言フハ、隴西ノ郡城ハ、高クシ
 テ孤危ナルガ、三方ニハ河ガアツテ、城ノ正面ノ一方バカリ
 ガ平地ゾ、一邊トハ一方ト云フ義ゾ、四方ヲ四邊ト云フ類ゾ、古木ナル故ニ、ハヤ枯レナントシタルガ、春ニ逢ヒテ、イ

衰世難行道花時不稱貧。

コノ二句ハ、唐ノ世
 ハ、ハヤ末ニナリテ、オトロヘハ
 マダ枯レハセヌトゾ、三面ノ水ヲバ、小人ノ
 多キニ比シ、古木ヲバ、己ガ身ニタトヘタゾ
 テタゾ、サル程ニ、道ヲ行フコトハ成リガタキゾ、道ガ行ハレヌホドニ、我ハ朝ニモ仕ヘヌゾ、朝ニ仕ヘザレバ、知行
 ナモ給ハラズシテ、マトシキゾ、サルホドニ、春ニ逢フテモ、花見ナドヲ企ツルコトガナキゾ、サテ、春花ノ時節ハ、
 貧シキ者ノ意ニ
滔滔天下者何處問通津。
 滔滔ハ周流ノ貌ゾ、論語集註ニハ、流而不返之意ト云ヘリ、論語
 ハカナハヌトゾ
 ニ曰ク、長沮桀溺耦而耕、孔子過之、使子路問津矣、桀溺曰、子
 爲誰、曰、仲由、曰、是魯孔丘之徒與、對曰、然、曰、滔滔者天下皆是也、而誰以易之、註ニ云フ、天下皆亂、將誰與變、易之
 トイヘリ、サテ、本詩ノ意ハ、滔滔トヒタタヘテ水ノ流レテ再ビ還ラザル様ニ、天下ノ者ハ、周ク不善ノ道ニオチ入り
 タゾ、サル上ハ、孔子ノ如ク、州州ヲメグリテ、河ノワタルベキ瀬ヲ問フテ廻ルコトヲセマジキトゾ、コレハ、李咸用
 ガ隴西ニ於テ、春日ニ思フトコロノ心事ゾ、

●雲居長老

王 貞 白
 コノ詩ハ、王貞白ガ雲居寺へ上ツテ、長老ニ參見シテ、ソノ謝ニ作ツテ長老へ獻ジタル詩ゾ、雲居寺ハ、江州
 ニ在ルゾ、

巖路躡雲上。來參出世僧。
 巖路雲ニ躡んで上り、來つて出世の僧に參す、松は欲つ半巖の雪、竹は覆ふ一溪の冰、有爲の法を説かず、無盡の燈を傳ふ
 るに非ず、了然たる方寸の内、應に祇だ南能を見るべし、

巖路躡雲上。來參出世僧。

コノ詩ハ、交股ノ格ゾ、巖トハ、上ハ大ニシテ下ハ小ナル山ヲ云フゾ、天上ノ雲居
 トテ、コノ寺ハ、高山ノ頂ニ立ツタゾ、出世ニ二ツアリ、世ニ出ヅルト、世ヲ出ル

トゾ、佛ノ出世ト云フハ、世ニ出テ給フヲ云ヒ、出世ノ法ト云フハ、世間ヲ出テタル法ト云フ義ゾ、此ニテ、出世ノ僧ト云ヒタルハ、世間ヲ出タル僧ト云フ義ゾ、詩ノ意ハ、コノ寺ヘ行クニハ、嚙路ノ中ヲ雲ヲフミテ上ルゾ、然ル處ニ來テ、出世間ノ長老ニマミエタトゾ

松欵半巖雪。竹覆一溪冰。

コノ二句ハ、雲居寺ノ實景ゾ、貞白ガ寺ヘ上リタル時分ガ冬ニテアルベキゾ、言フハ、松ノ欵チタルヲ、雪ノ覆ヒタルヲ見レ

バ、松ガ雪ヲソバタテタルヤウナトゾ、半巖トハ、巖ノ半分ニ雪ノアルヲ云フゾ、サテ又、竹ガ雪ニ推サレテ靡キタルガ、一溪ノ氷ヲ打チ掩フタトゾ、イ

不説有爲法。非傳無盡燈。

コノ二句ハ、法ニ有爲無爲ノ法ガアルゾ、無盡燈トハ、這箇ノ心燈ヲ指

シタゾ、言フハ、コノ長老ハ、活僧ニテ、世間有爲ノ法ヲ説イテ、人家ノ男女ヲ魔魅スル類ニテハナキゾ、シカノミナラズ、佛法ヲ傳授スナドト云フコトモ嫌ハレタゾ、ナゼニト云フニ、佛祖不傳ノ宗旨ヂヤホドニゾ、不盡ノ燈ヲモ傳ヘハセラレヌゾ、本來具足シ

了然方寸內。應祇見南能。

了ハ悟ゾ、然ハ助字ゾ、方寸ハ智ゾ、南能トハ、六祖惠能禪師ハ、南蠻人ナル故ニ南能ト云フゾ、言フ

ハ、コノ長老ハ了悟シ給ヒタホドニ、北宗ノツレノ見解デハナイゾ、ソノ方一寸ナル胸ノ中ニアル心目ヲ以テ、常ニ南能ノ本來無一物ト云レタル端的ヲ見タマフラントゾ、

送許棠

張喬

許棠ハ宣州ノ人ゾ、張喬ハ池州ノ人ナルガ、後ニ九華山ニ隱居シタゾ、季昌曰ク、此詩以ニ許棠張喬之時ヲ致レ之、自ニ歸宗ニ至唐末ニ干戈之亂不レ一、詩中不明指其處、難以槩舉也トイヘリ、イカサマニ、許棠ガ南蠻ノ方ヘイクサダチシテ、數年ヲ經テ、亂ヲサマリテ故郷ノ宣州ヘ歸ルトテ、張喬ガ隱處ヘ立チヨリテ、一宿シテ、今故

郷ヘ歸ルトゲナゾ、コレヲ送ニ許棠ト云フタゾ、

調 郷を離れて歳年を積む、歸路遠くして依然、夜火山頭の市、春江樹杪の船、干戈鬢の改まるを愁ひ、瘴癘身の全きを喜ぶ、何の處か甘旨を營まじ、波濤薄田を浸す、

離郷積歳年。歸路遠依然。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、依然トハ、舊ニ依ツテ、イツモノ如クナルヲ云フゾ、然ハ助字ゾ、言フハ、コノ人ハ故郷ヲハナレテ、イクサダチシテ、南蠻ニテ數年ヲ送ラレシガ、亂ヲサマリテ、今故郷ヘ歸ラルルゾ、然レバ、ソノ路ハ始メニ陣ヘ立タレシ時ノヤウニシテ、相變ラズ遠カルベシ

夜火山頭市。春江樹杪船。

コノ二句ハ、途中ノ實景ゾ、言フハ、夜ニナリテ、映中ヲ行キ給ハン時ニハ、山頭ニ火ノ見エタランヲ以テ、アソコニハ、市ガアラント、推量セラルベシ、

晝ニナリテ映中ヲ通り給ハン時ニハ、春江ニ往來スル船ノ梢ニ在ルガ如キヲ見給フベシトゾ、又陸行ノ時ニハ、夜火ヲシルベトシテ、山頭ノ市ニ往キテ宿ヲカリ、水行ノ時ニハ、船ノ高キ灘ヲ通ル時ニ、樹杪ニアルガ如キ舟ニ乗リテ苦勞セラル

干戈愁鬢改。瘴癘喜身全。

瘴癘ノ事ハ註ニ見エタゾ、瘴ハ、キリノヤウナル物ノ熱毒ノ氣ゾ、言フハ、故郷ヘ歸リツカレタラバ、コノ年來ノ干戈ノ苦勞ニ縁ナリ

シ鬢髮ノ色が改マツテ白クナリタルヲ見テ、父母ノ憂ヒ給ハンゾ、サリナガラ、南蠻ニテ、瘴癘ノ熱病ニモ侵サレズ、身命ヲ全ウシテ歸ラレシコトヲ喜ンデ、サザメカルベシトゾ

何處營甘旨。波濤浸薄田。

言フハ、故郷ヘハ何事ナク歸ラレベキガ、笑止ニハ、甘旨トムマキ食物ヲイトナミテ、父母ヲ養ナ

ハルルコトガ難カルベキゾ、ナゼニナレバ、宣州ハ、モトヨリ水國ニテ、田地ノアシキ處ゾ、然ルニ、近年ハ、海神ガアレテ波濤ヲ大ニ起ス故ニ、潮ガ薄田ニサシ入ツテ、稼苗ヲカラスホドニゾ、暗ニ賊黨ガ天下ニ横行スルニタトヘタゾ、

已前共十首

●穆陵關北逢人歸漁陽

劉長卿

季昌曰ク、穆陵關在沂州沂水龍山北、又屬唐河南道ト云ヘリ、才子傳ヲ考フルニ、劉長卿ノ傳ニ曰ク、吳仲孺誣奏、非罪繫姑蘇獄、久之貶潘州南、尉、會有爲辯之者、量移睦州司馬、終睦州刺史トイヘリ、睦州へ行ク時分ノ作ナルベシ、劉長卿ハ肅宗ノ時代ノ人ゾ、

君に逢ふ穆陵の路、匹馬桑乾に向ふ、楚國蒼山古り、幽州白日寒し、城池百戦の後、書舊幾家が残る、處處蓬蒿遍し、歸人涙を掩うて看む、

逢君穆陵路。匹馬向桑乾。

楚國蒼山古。幽州白日寒。

コノ詩ハ、雙踏ノ格ゾ、言フハ、我ハ睦州ヘ行カントテ、穆陵關ヲ通レバ、路ニテコノ人ノ漁陽ヘ歸ラントテ、匹馬ニウチノツテ柔乾ノ方人向ハルルニ、ハタト行き逢フタトゾ、
コノ二句ハ、今眼前ニ見ルトコロ、又コノ人ノ漁陽ニ行クノ實景ゾ、言フハ、唯今相逢フ處ハ楚地ナレバ、楚山ノ蒼蒼トシテ古リタルガ見ユルゾ、又足下ノ歸リ給フ漁陽ハ、幽州ノ地ナルガ、祿山ガ亂ヲ起シタル故ニ、漁陽ノ者ハ、皆ウチ殺サレテ空地トナリタルホドニ、白日ノ照ラス時モ、自ラ凄寒トシテ、物スサマジカルベシトゾ、コノ穆陵關モ、亂後ニテ何事モ昔ニ變リタルガ、楚山バカリ蒼蒼トシテ、昔ニ變ラヌト云ハシタメニ、蒼山古ト云フタゾ、
城池百戦後。書舊幾家殘。
コノ二句ハ虛ゾ、祿山ガ亂ヲ起シタル以後、漁陽ニテハ、百度バカリモ合戦ガアリシ故、古老ノ人ノ棲ミタル家ハ、今ハ即チイクバクモ殘ラヌトゾ、書舊トハ、宿老ヲ云フゾ

處處蓬蒿遍。歸人掩淚看。

言フハ、漁陽ハ荒地トナリタル程ニ、故郷トテ歸リ給フトモ、袂ヲ顔ニアテテ啼ク見給フベシトゾ、

●早行寄朱放

戴叔倫

朱放ハ履歷ニ傳ナシ、才子傳ニ云フ、戴叔倫、潤州人、與處士張家甫朱放素厚トイヘリ、又曰ク、叔倫初以淮汴寇亂魚肉江上、携親族、避地來鄱陽、隸業勤苦、志樂清虛、閉門却掃トイヘリ、鄱陽ハ饒州ノ縣ノ名ゾ、饒州ノ薦福寺ノ内ニ、叔倫ノ舊宅ガ在ルゾ、然レバ、コノ詩ハ、鄱陽ヘ行クトテ、朱放ガ居タルアタリヲ通ル次ニ寄セタル詩ト見エタゾ、朱放モ、ソノ時分ニ剡溪ニ居住シタゲナゾ、

山曉けて旅人去る、天高うして秋氣悲む、明河川上に没し、芳草露中に衰ふ、この別又た千里、少年能く幾時ぞ、心知剡溪の路、聊か且つ前期を寄す、

山曉旅人去。天高秋氣悲。

明河川上没。芳草露中衰。

コノ詩ハ、接項ノ格ゾ、山トハ越山ヲ指シタゾ、天高トハ、秋ハ景氣ガ澄ムホドニ、天ガ高ク見ユルゾ、言フハ、路ヲ急グホドニ、山ガアカツキ方ニナレバ、旅人ハ早ヤ旅家ヲ出デ去ルトゾ、旅人トハ、自ラ稱シタゾ、サテ、亂逆ノ時分ト云ヒ、秋ト云ヒ、カレコレ我が心ガイタマシキ故ニ、景氣ガ一入悲シキトゾ、
コノ二句ハ、早行スル時分ノ實景ゾ、言フハ、サキマデハ天河ノ影ガ水上ニ移リテ、星ノ影ナドモ見エツルガ、早ヤ夜ガ明クルホドニ天河ノカゲモカクレテ見エヌトゾ、以テ唐ノ世ノ末ニナリタルニ比シタゾ、サテ又、芳草ノ衰ヘタルヲ、己ガ身ニタトヘタゾ、言フハ、カシコナル汀洲ノアタリヲ見タレバ、芳蘭杜若ノ薰草ノ類ハ、時ヲ失ヒテ、霜露ノ中ニ衰ヘテ居タトゾ、
此別又千里。少年能幾時。
コノ二句ハ虛ゾ、言フハ、少カリシ時ヨ

リノ知音ナリシガ、浮世ニツレテ、一處ニモ居ズシテ、別レワカレニナリテ、ワレハ淮汴ノ間ニ旅寓シ、未放ハ剡溪ノアタ
 リニ旅寓セラレタゾ、今又ワレハ鄱陽ノ方ヘ行クホドニ、又別ルルゾ、コノ別ハ、千里ノ遠クニ行クナレバ、一入名殘惜
 シク思フナリ、人生ノ年少ナルコトハ、イカ程モナキ者ゾ、然ル上ハ、朱放モ我モ、ヤガテ老人トナルベシ、年老イタ
 ラバ、死センコトハ必定ナリ、命ノ中ニ、今
 一度逢フコトモガナト願フバカリヂヤトゾ
 心知剡溪路。聊且寄前期。
 心知ハ友ト云フ義ゾ、聊トハ、又ト
 云フ心ゾ、言フハ、心知ノ友ニテマ
 シマス朱放殿ハ、今剡溪ニニ居タマヘリ、我鄱陽ヘ行クトテ、幸ニ其路ヲ通ルホドニ、サテ、コレヨリサキノ契リノ情
 思ヲ詩ニ述ベテ寄スルトナリ、前期ハ、サキノチギリゾ、

●陝州河亭陪韋大夫眺望

劉禹錫

才子傳ニ曰ク、禹錫、字夢得、中山人、貞元九年進士、又本詩ノ註ニ、德宗建中間ニ朱泚ガ京師ヲ犯セシコトヲ
 引ケリ、私ニ云フ、貞元モ德宗ノ年號ゾ、建中ハ貞元ヨリ五年前ノ年號ゾ、コレヨリ見レバ、禹錫ガ未ダ及第
 セザル以前ニ、朱泚ガ亂ヲ避ケテ陝州ヘ行キテ、河亭ニテ韋大夫ニ陪シテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、
 雪霽太陽津。城池表裏春。
 雪ハ霽ノ太陽津、城池表裏春ナリ、河流馬頰を添へ、原色龍鱗を動かす、萬里思歸の客、一盃故人に逢ふ、高き因つて西
 に向つて望めば、關路正に塵を飛ばす、

雪霽太陽津。城池表裏春。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、太陽津ハ、河亭ノ在ル處ゾ、河ノホトリニ在ル亭ヂヤホド
 ニ、河亭ト名ヅケタゾ、言フハ、ナリフシ春ニナリタレバ、太陽津ノホトリニ雪ガ
 消エタル故ニ、河亭ノアルトコロノ城池ハ、ウラモ、オモチモ皆春ノ氣色ニナリタトゾ、季昌曰ク、唐陝州、陝縣有太陽故
 關、即茅津、一日陝津ト云ヘリ、コレヨリシテ見レバ、韋大夫ハ陝縣ノ令官ニテアルベキゾ、河亭ハ、陝縣ノ太陽津ノ

ホトリニ在
ルベキゾ

河流添馬頰。原色動龍鱗。

コノ二句ハ、河亭ヨリシテ眺望スルトコロノ實景ゾ、馬頰ハ、禹貢
 ニ、九河ノ一トシタゾ、言フハ、河亭ノホトリニ、春雪ガトケタル故
 ニ、河ノ流ガ増シタゾ、定メテ、コノ流ハ、馬頰河ノ水ヲ添ヘコソセメト推量シタトゾ、コレハ、水邊ノ氣色ゾ、サテ
 原野ノ邊ヲ眺望スレバ、草ノ春色ヲウケタルヲ風ガ吹キ動カセバ、龍ノ鱗ヲ動かカスガ如クヂヤトゾ、コノ二句ハ、逆亂ノ
 徒黨ノ多キ
 萬里思歸客。一盃逢故人。
 コノ二句ハ、言フハ、今我亂ヲ避ケテ故郷ノ山中ヲ出デテ、陝州
 へ來テ、萬里ノアナタナル方ヘ歸リタキ意バカリナル旅客ニテ、目ヲ
 ニ比シタゾ
 因高向西望。關路正飛塵。
 言フハ、コノ高キ處ヨリシ
 テ、故郷ノ方ヲ西ニ向ツテ

カクル人モナカリシニ、不思議ニ古人ノ韋大夫殿ニ
 逢フテ、共ニ一盃酌ミカハスコトノ嬉シサヨトゾ
 眺望シタレバ、姚令言ヤ朱泚ヤナドガ逆黨ノ、兵馬ノ塵ガ飛揚スルバカリニテ、中原ノ方ハ、イヅクトモ分チガタキトゾ、

已前共二首

●巴南舟中

岑參

履歷ニ曰ク、岑參、南陽人也、登天寶進士第、杜鴻漸表參、待御史、列於幕府、使罷寓於蜀、中原多故、卒死
 於蜀ト云ヘリ、コノ詩ハ、蜀ヘ行ク時ニ、巴南ノ舟中ニテ作スルナラン、
 關 渡口黃昏ならむと欲す、歸人渡を争つて喧し、近鐘野寺に清く、遠火江村に點す、雁を見て郷信を思ひ、猿を聞いて淚痕を
 積む、孤舟萬里の夜、秋月論ずるに堪へず、

渡口欲黃昏。歸人爭渡喧。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、巴南ヲ通ルトテ、舟ヲ渡ノホトリニ泊メタレバ、
 日モ早ヤ黃昏ノユフツクキニナラントシタゾ、然ラバ、歸來ノ人ドモガ、貴トナク

賤トナク、我サキニ渡ラントテ、渡シ舟ヲ争フテ口論スルガ、喧シク聞コエタトゾ、黄昏ヲ以テ天下ノ暗昧ニタトヘ、
歸人ヲ以テ、利欲ヲ貪リ

近鐘清野寺。遠火點江村。

コノ二句ハ、舟中ニシテ聞見スルトコロノ實事ゾ、言フハ、歸人ノ渡ヲ争フテ喧シキニハ、ウチ變ツテ、又清

閑ナル趣モアルヨ、近キヲ聞ケバ、鐘聲ノ野寺ノ邊ニ清ク聞コエ、又遠キヲ見レバ、漁火ノ江村ノアナタニ、一點ヤ兩

三點ヤ見ユルアリ、ココニテ、浮世ノ事ガイトハレテ

見雁思鄉信。聞猿積淚痕。

コノ二句ハ、言フハ、サキニ見聞セシニ

佛道修行ヲヤセン、漁父ノ業ヲヤ樂シマント思フトゾ

引キカヘテ、却ツテ哀レナル事ガ、フト耳目ノ間ニ出來リタゾ、ソレヲ何ゾト云ヘバ、入相ノ比モ過ギテ、聲色モ收マ

ツテ、沈深トシタル折カラニ、天清ク月明ナルニ、旅鴈ガ一行見エタゾ、故郷ノ書信モヤ傳ヘ來リヌラント思フトレ

バ、ソレハ、サモナクテ、結局、猿ノ聲ガ哀

孤舟萬里夜。秋月不堪論。

言フハ、我ハ故郷ヲ別レテ、萬里ノ海上ヲ孤舟ニ打乗ツテ、コノ巴南ニ

夜泊シテ、客愁ガ身ニ餘リタルホドニ、秋月ノ面白キヲモ評論スルコトガ得ナラヌトゾ、

宿關西客舍寄嚴許二山人

コノ詩モ岑參ガ作ゾ、長安以西謂之關西ト注ニアルホドニ、蜀ヘ行クトテ、關西ノタビヤニ宿シタル夜ニ、
コノ詩ヲ作ツテ、二山人ニ寄セタルベキゾ、

雲は送る關西の雨、風は傳ふ渭北の秋、孤燈客夢を燃し、寒杵鄉愁を搗つ、灘上嚴子を思ひ、山中許由を憶ふ、蒼生今望あり、詔を飛ばして林丘に下さむことを。

雲送關西雨風傳渭北秋

コノ詩ハ、句應句ノ格ゾ、第一句ト第二句ト應ジ、第二句ト第四句ト應ジ、第五句

ト第七句ト應ジ、第六句ト第八句ト相應ジタゾ、サテ、詩ノ意ハ、纔ニ雲ガ起ル

ヨト見タレバ、ヤガテ關西ノ客舍ニ雨ガ降り來タゾ、サテハ、コノ雨ヲ雲ガ送リタト思フトレバ、又風ガ吹イタゾ、ソコ

ニテ、渭北ノ邊ノ長安ニモ秋風ガ起リコソスララント思ヒ出シタルホドニ、只今ノ秋風ガ、渭北ノ秋ヲコノ客舍ヘ傳ヘ

來タルカト思ヒ、一入京ヲ床シウ思ハルルトゾ、雲雨ヲ以テ朱訛ヤナドガ賊黨ニ比シ、秋風ヲ唐ノ世ノ衰ヘタルニ比シ

テ悲ミ

孤燈燃客夢。寒杵搗鄉愁。

コノ二句ハ、客舍ノ實事ゾ、言フハ、旅宿ノ事ナレバ、物アハレナル體

ニテ、燈一トスチトモシテ、獨宿シテ、或ハ夢ヲ見ツ、或ハ眠サメツナド

シテアレバ、サナガラ、燈ガ夢ヲモヤサウナゾ、然ル折カラニ、砧杵ノ聲ガ冷ク聞コエタゾ、ソノ聲ハ我が鄉愁ヲウ

ツヤウ

灘上思嚴子。山中憶許由。

コノ二句ハ、嚴子陵ト許由トニ比シタゾ、言フハ、

コノ二山人ヲ思フニ、子陵ガ灘上ニ釣ヲ垂レ、許由ガ山中ニ隱居シタル

ガ如クチャトゾ、コレハ、客舍ニテノ情思ゾ、サテ、コノ二山人ガ關西ニ隱居シテ、世ヲ救ハザルコトヲ惜ミテゾ

蒼生今有望。飛詔下林丘。

蒼生トハ、天下ノ人民ノ愁苦辛勤シテ、顔色ノ青サメタル者ヲ云フゾ、飛詔

トハ、隱士ヲ召ス詔書ヲ鶴書ト云フホドニ、サテ、飛ト云フタゾ、詩ノ意ハ、

天下ノ蒼生トモガ望ガアルヨ、ソレヲ何ゾト云フニ、君ノ詔書ヲ鶴ニ含マセテ、彼ノ二山人ノ隱レテ居タル林丘ヘ下シ

給ヒテ、召シ出シテ、天下ノ政ヲサセ給ヘカシト願フトゾ、注ニ云フ、本集題云、七月三日在內學見存高道舉徵

季昌曰ク、按天寶六載、上欲廣求天下士、命通一藝以上皆詣京師、李林甫恐草野之士對策斥言其姦惡、乃令郡

縣試練取名實相副者、聞奏、既至、皆試以詩賦論、遂無一人及第者、林甫乃上表、賀野無遺賢ト云ヘリ、コノ詩ノ末

ニ飛詔ト云フタハ、暗ニ右ノ事ヲ用キタゾ、

●夜宿龍吼灘、思峨嵋隱者

コレモ岑參が作ゾ、龍吼灘ハ、嘉州ノ峨嵋縣ニ在ルト注ニモシタゾ、然レバ、岑參が嘉州ノ刺史タリシ時ニ、峨嵋縣ニ行キテ、龍吼灘ノホトリニ在ル官舎ニ宿シテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、

官舎江口に臨む、灘聲已に聞くに慣ふ、水烟晴れて月を吐き、山火夜雲を燒く、且つ方士を求めむと欲す、使君を戀ふに心なし、異郷何ぞ住すべき、況んや復た久しく群を離るるをや、

官舎臨江口、灘聲已慣聞。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、官舎トハ、峨嵋縣ノ令官ノ舎ゾ、言フハ、我ハ嘉州ノ守護
ヂヤホドニ、峨嵋縣ノ官舎ニ再來テ宿スルゾ、然レバ、ソノ官舎ハ、江邊ニ臨
ンチ立ツタゾ、ソノ江ニ龍吼灘ト云フ灘ガアルゾ、節節コノ官舎ニ宿スルホドニ、灘聲ヲ聞キナラフタゾ、始ニハ喧シ
キコトヲ厭ヒシガ、今ハサモナキゾ、サレドモ、灘聲ガ喧シキホドニ、睡ルコトヲ得ズシテ、種種ノ事ガ思ハルゾ、
就中、世ヲノガレテ、峨嵋山ニ隱居シテ樂マルル故人ノ事ガ、偏ニ思ハルゾ、ナゼニト云フニ、今ハ早ヤ世モ衰ヘテ、
道ヲ行フコトモ成リ難キホドニ、我モ隱居セバヤト思フホドニゾ、カク云ヒツルヤウニ、後ニハ蜀ノ國ニ引キ籠リテ一
世ヲハタ
水烟晴吐月、山火夜燒雲。
コノ二句ハ、龍吼灘ニシテ見ルトコロノ實景ゾ、言フハ、灘聲ヲ聞キナ
ラフタルホドニ、厭ヒハセネドモ、睡ルコトハ成リガタキゾ、然ル間
夜モスガラ官舎ニ在リテ、種種ノ事ヲ思ヒナガラ、四方ノ氣色ヲ眺メタレバ、面白キ風景ドモガアルゾ、江邊ヲ望メバ
水煙ノ少シ晴レタル間ヨリ、月ガホノカニ出タゾ、ソレハサナガラ、煙ガ吐キ出シタルヤウナゾ、又山上ヲ望ミタレバ、
山家ニタケル火ノ光ガ高ク見エタゾ、ソノ火ハ、サナガラ雲ヲ燒クカト思ハルゾ、ソコニテ、アノ峨嵋山ニコソ我ガ知
音ノ人ノ隱レテ居ラルルト聞ケルガ、ソノ人ノ家ニタケル火ニテヤアルラン、アラ羨ヤマシヤ、我モ、イツカ、アノ如

水烟晴吐月、山火夜燒雲。

クニ、世ヲノガレテ山
居セント願フタトゾ
且欲求方士、無心戀使君。
コノ二句ハ、虚ゾ、方ハ道ゾ、方士トハ道士ト云フ義ゾ
言フハ、我、夜モスガラ、イネズシテ、能ク能ク身ノ上
ヲ思案スルニ、有爲轉變ノ世ニアリナガラ、榮華ニ誇ルコトハ嫌ヤゾ、只ダ山居シテ、仙道ヲ求メタルガマシヂヤゾ
然レバ、ヨキ方士ヲ尋ネ求メテ、長生不死ノ術ヲ學ビナント思フゾ、サテ、州ノ使君ヤナドヲ願戀スル心ハ、イササカモ
ナキゾ、只ダ峨嵋ノ山人ヲユ
カシク思フバカリヂヤトゾ
異郷何可住、況復久離群。
言フハ、我ハ年來久シク長安ニ在リシガ、不慮ニ
嘉州ノ守護ニ移サレテ、サテ、異郷ニ住シタゾ、モ
ハヤ、異郷ニ住ミアキタゾ、シカモ況ンヤ、故郷ノ南陽ヲ出デシヨリ、久シク一門ノ羣類ヲ離レテ、異郷ニ住スルヤ
ヤ、カレコレ思ヒ合スレバ、嘉州ニテノ三年ノ守護職ガ滿ジタラバ、ヤガテ、蜀ノ國ノ南陽ヘ歸隱セント思ヒ定メタト
ゾ、カク云ヒシガ、終ニ蜀ヘ歸隱シテ一世ヲ送リタゾ

且欲求方士、無心戀使君。

コレモ岑參が作ゾ、本集ノ題ニハ、趙少尹南亭送鄭侍御歸東臺トアルゾ、推量スルニ、岑參が蜀ニ在リシ比
鄭氏ノ人ガ始ニ御史タリシガ、蜀ノ州ヘ謫セラレテ、今マタ、本ノ官ニ召シカヘサルルゲナゾ、サテ、趙少尹
ガ處ヘ來テ、暇乞スルゾ、ソノ時ニ、南亭ニテ名殘ノ宴ガアリツルニ、岑參モ、ソノ坐ニアリテ、コノ詩ヲツ
クリテ送行シタト見エタゾ、

●南亭送鄭侍御還東臺

江亭酒盡香し、白面繡衣の郎、初冷にして蟲坐に喧しく、塵疎にして月床に到る、鐘は離興を催して急なれども、絃は醉歌
を緩うして長し、關樹塵に先づ落つべし、君に隨ふ滿路の霜、

江亭酒盡香し、白面繡衣の郎、初冷にして蟲坐に喧しく、塵疎にして月床に到る、鐘は離興を催して急なれども、絃は醉歌
を緩うして長し、關樹塵に先づ落つべし、君に隨ふ滿路の霜、

江亭酒甕香。白面繡衣郎。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、江亭トハ、コノ南亭ガ蜀江ニ臨ンデ立ツタルホドニ、サテ、江亭トシタゾ、又紅亭トモアルゾ、白面トハ、凡ソ少年ノ美ナルヲ云フゾ、コノ鄭侍御ハ美少年ト見エタゾ、サテ、詩ノ意ハ、趙少尹殿ノ南亭ニテ、酒ノ香美ナルヲ出シテ、宴遊ヲ催サレタゾ、ソレハ何ノ爲ゾト云ヘバ、彼ノ鄭侍御殿ノ白面ノ郎ニテマシマスガ、京ヘ召シカヘサルルトテ、繡衣ノイツクシキヲ著テ、暇乞ニ來リ給ヒシ、ソノ名殘ノ宴ノ故ナリトゾ

砌冷蟲喧坐。簾疎月到床。

コノ二句ハ、南亭ニシテ別レテ惜ム時分ノ實事ゾ、言フハ、今鄭侍御殿ノ京都ヘ上ラルル時分ハ、秋ノ末ツカタゾ、別テ惜ムニハ、常サヘモノウキニ、特ニ秋ニテ南亭ノ砌下ノ冷キ折カラニ、蟲ノ音ノ悲シキガ、坐敷ニ近ヅイテ喧シキホドニ、イトド別レノ恨ガマシタトゾ、サテ、疎簾ノ下ニテ別レテ惜ミテ、名殘ノ盃ヲサシツササレツシテ、兎角スル中ニ、早ヤ夜ガ深ケテ

鐘催離興急。絃緩醉歌長。

コノ二句ハ、言フハ、ハヤ曉ガタニナリテ、鐘聲ハ急ニシテ、離別ノ興ヲ催セドモ、座中ノ人人ハ、管絃ヲユルユルト奏シテ、

關樹應先落。隨君滿路霜。

言フハ、御史ハ刑官ニテ、霜臺ヂヤ醉人ノ歌曲ノ長キニ合セテ別レテ惜ムトゾ、ホドニ、君ノ行キ給ハンサキノ關門ノ樹木ドモハ、未ダ冬ニナラザルサキニ、落葉スベキゾ、ナゼニナレバ、實相應ジテ、君ノ行ニシタガツテ、霜ガ路ニ滿ツベキホドニナリ、畢竟ハ、コノ人ノ威勢ヲ天下ノ人民ガ恐レテノクベキト云フ義ゾ、又美少年ヂヤホドニ、路次ニテ見ン者ハ、皆魂ヲ斷ツベキト云フ意モアルゾ、

南溪別業

コレモ岑參ガ作ゾ、蜀ニテノ事ナルベキゾ、南溪ト云フ處ニ、岑參ガ別業アルベキゾ、

逍遥自得の意、腹を鼓して醉中に遊ぶ、
關樹字を結んで青嶂に依り、軒を開いて翠嶂に對す、樹交つて花兩色、溪合して水重流す、竹塢春來つて掃ふ、蘭樽夜收めず、

結宇依青嶂。開軒對翠嶂。

コノ詩ハ、變中變ノ正格ゾ、詩ノ意ハ、南溪ノホトリニ一字ノ茅屋ヲ結ンデ、青嶂ニ依リ近ヅイテ居タリシガ、溪邊ニ山田モアルゾ、然レバ、軒ヲ開イテ見レバ、田疇ニ禾苗ヤナドガ青青タル、ソノ翠嶂ニ向ヒタルトゾ

樹交花兩色。溪合水重流。

コノ二句ハ、南溪ノ實景ゾ、言フハ、本ヨリ蜀ノ國ハ山中ナレバ、南溪ノアタリニモ、樹ドモガ多クシテ茂リ合フタゾ、然レバ、一樹ノ花ナレドモ、別ノ樹ノ枝ガ交ハリタル故ニ、兩色ノ花ガアルトゾ、又溪ノ水ニ溪水ガ落カカルホドニ、水モ重ナリテ流ルルトゾ、別業ニ風景ノ多キニホコリタゾ、隱居シスマシタトノ自負ゾ

竹塢春來掃。蘭樽夜不收。

コノ二句ハ、言フハ、吾ガ別業ハ、溪ノ曲ニ在ルガ、四壁ニ竹ドモガ多クシテ茂リアフトゾ、コノ竹塢ヲ常ニハ掃地スルコトモナケレドモ、春ガ來ルト云フホドニ、ニハカニ掃地シテ春ヲ迎ヘタゾ、サテ、蘭樽ヲ開イテ、花見ヲシテ、夜モスガラ收メタトゾ、自得逍遥シタル體マデゾ、鼓腹ト云フ語ハ、莊子ニ在ル語ゾ、

逍遥自得意。鼓腹醉中遊。

コノ二句ハ、別業ニ於テ自得シテ逍遥ト樂ミタル體マ

泊舟盱眙

常建

盱眙ハ縣ノ名トバカリ、韻書ニ記シタゾ、本詩ノ一ノ句ヨリ見レバ、イカサマニ、淮南道ニ在ル縣ナルベキゾ、履歷ニ、常建ガ盱眙ノ令官ニナリタル事ヲシルシタゾ、イカサマニ、盱眙縣ノ官舎ニ移ル時ニ、始メテ舟ヲ淮水ノホトリニ泊メテ、コノ詩ヲ作りタルベキゾ、又盱眙ノ令官トナリテ居タルヲ、旅泊ニタトヘテ、題ヲ泊舟盱

一ト措キタルコトモアルベキゾ、

【調】舟を泊す淮水の次、霜降つて夕流清し、夜久しうして湖岸を侵し、天寒うして月城に近し、平沙雁の宿するに依り、旅館雞鳴を聽く、鄉國雲霄の外、誰か羈旅の情に堪へむ。

泊舟淮水次。霜降夕流清。

コノ詩ハ、歸題ノ格ゾ、言フハ、盱眙縣ヘ行カントテ、淮水ノホトリニ舟ヲ泊メタレバ、折フシ秋ノ末ツカタニテ、霜ガフリテ、淮水ノ流モ、一段ト清潔ナゾ、

夕流トハ、流水夕陽ト云フ古語ヲ用キテゾ

夜久潮侵岸。天寒月近城。

コノ二句ハ、盱眙ノ實景ゾ、言フハ、旅泊ノ事ナレバ、睡ルコトモナウテ、久シク夜坐シタゾ、然レバ、夜フケガ

タニ、潮ガサシ來テ岸ヲ侵シタゾ、侵トハ、コマジキ處マデニ來ルヲ云フゾ、天寒トハ、天ノサエタルヲ云フゾ、天ガサエタル故ニ、月モ近ク盱眙ノ城上ニアルヤウナトゾ

平沙依雁宿。旅館聽鷄鳴。

コノ二句ハ、情思ガ句中ニコモリタルホドニ虚ゾ、言フハ、我今淮水ノホトリニ舟ヲ止メテアレバ、雁

ノ宿スル平沙ニ依ツタゾ、然レバ、我が身ハ、平沙ノ落鴈ノ如クナゾ、サテ、旅館ニ宿シタル故ニ、夜モ一入永キゾ、ヤレ今夜ハコノママアクマジキカト思ヒタレバ、不思

鄉國雲霄外。誰堪羈旅情。

言フハ、我が故郷ハ雲霄ノ外ニ在リテ、コレヨリハ、

ハルバル遠キゾ、タトヘバ、情懷ヲ忘ルル聖人ナリトモ、故郷ヲバユカシク思フベキゾ、サテ、ソノ外ノ人、誰カハ羈旅ノ愁情ヲコラヘテ愁ヒザランヤトゾ、

江南旅情

祖詠

祖詠ガ事ハ、才子傳ニ委シク記シタゾ、一生不偶ノ人ナルガ、後ニハ移家歸汝濱間、業以漁樵自終トイ

ヘリ、サテ、汝濱ハ楚地ニテ、江南道ノ中ゾ、然レバ、汝濱ニ在リシ時ノ作ナルベキゾ、祖詠、モトハ洛陽ノ人ゾ、

【調】楚山極むべからず、歸客自ら蕭條、海色晴れて雨を看、江聲夜潮を聽く、劍は南斗に留まつて近く、書は北風に寄つて遠なり、爲に報す空潭の橋、洛橋に寄するに謀なし、

楚山不可極。歸客自蕭條。

コノ詩ハ、歸題ノ正格ゾ、歸客トハ、歸隱シタル旅客ト云フ意ゾ、言フハ、江南道ノ楚山ハ、ソノ遠近ヲ極メガタキ大山ゾ、サルホドニ、故郷ノ洛陽ヲ望ムニモ見

エヌゾ、サル間、歸隱シテ旅客トナリタル我が身ハ、イツモ蕭條トサビシキマデゾ、自トハ、事ユエナキニ、自然トサビシキヲ云

海色晴看雨。江聲夜聽潮。

コノ二句ハ、江南ニテ見聞スルコロノ實事ゾ、言フハ、海上ノ氣色ヲ望メバ、天氣ハ晴レタレドモ、楚山ノ樹影ガ水ニウツリテ、四面ニハ山ガ打

チ掩ヒタルホドニ、海色ハイツモ雨ノフルヤウニ見ユルトゾ、コレハ日中ニ見ルトコロゾ、サテ、夜ニナレバ江聲ガ高ク聞コユルゾ、ソコニテ潮ガサシクルヨト推量シタゾ、目ニハ見ヌホドニ、潮ヲ聞クト云フタゾ、見ルニツケ聞クニツケテモ、愁バカリチヤトゾ、潮ヲ聞キテハ、郷信ヲ思フホドニゾ

劍留南斗近。書寄北風遙。

コノ二句ハ虚ゾ、言フハ、豐城劍氣ガ斗牛ヲツキシ事ガ昔アリツルガ、今マデモ、ソノ氣

ハ留マツテ、我が歸隱シタル處ニ近クアルゾ、サテ、書ヲ北風ニ寄セテ我ヲ問フ人ハナキゾ、ナゼニト云フニ、路ガハルカナルホドニゾ、豐城ノ劍ヲ以テ、己ガ雄氣ニ比シタゾ、書ヲ寄スルコトノナキハ、天子ヨリ詔書ヲ賜ハラザルニ比シタゾ、北風トハ、江南ヨリシテ洛陽ハ北ノ方ナレバゾ

爲報空潭橋。無媒寄洛橋。

報トハ、告グルト云フ義ゾ、空潭ノ橋トハ、洛ニテハ橋ガ稀ナルホドニ、人人ガ賞翫シテ園林ヤ軒端ヤ

ナドニ種ユルガ、江南ニハ橋ガ多クシテ、生エマジキ處ノ空潭ノホトリマデニ、橋ガ生ジテ、シカモ其實ガ佳ナルゾ、

サテ、コノ橋ヲ洛陽ノ友人タチヘ送リマキラセタクハ思ヘドモ、イカニセウモ、便ガナキホドニ、サモナキト、誰トモナシニ、洛陽ノ人ニ告ゲタゾ、空潭ノ橋ヲ以テ、己ガ操ヲ守リテ、サテ、江南ノ邊土ニ流落シテアルニ比シ、無_レ媒ヲ、洛陽ニ知音ナキニ比シタゾ、

●冬日野望

于良史

良史ハ肅宗ノ朝ノ人ゾ、履歷ニハ、爲_ニ張徐州建封從事ト記シタゾ、然レバ、コノ詩ハ、ソノ時ノ作ナルベキゾ才子傳ニ曰ク、良史、至德中爲_ニ侍御史、詩體清雅、工_ニ於形似、又多_ニ警句、雖_ニ平生似_ニ味、而篇什多、傳トイヘリ、冬日野望トハ、冬至ノ後ノ野望ト云フ義ゾ、暗ニ祿山ガ亂ノ治マリタル體ヲ述シタゾ、

地際朝陽滿、天邊宿霧收。コノ詩ハ、句應句ノ格ゾ、地際トハ、天下ト云フ義、天邊ハ天涯ト云フ義ゾ、言フト云ヘドモ、コレハ只ダ朝陽ノ二字ヲ借用キテ、陽氣ヲ云ヒタルマデゾ、サテ朝陽ガ天下ニ滿チタレバ、盡ク天涯ノ宿霧ガ皆ヲサマリタトゾ、宿霧トハ、昨夜ヨリ今朝マデニタナビキタル霧ヲ云フゾ、朝陽ヲ以テ、肅宗ノ威光ニ比シ、宿霧ヲ以テ、祿山ガ賊黨ニ比シタゾ、于良史ハ、典故不_レ群、詞苑增_レ價ト才子傳ニモ記シタゾ、サルホドニ、張建封ガ從事トナツテ徐州ニ在レドモ君ヲソシラヌゾ

風兼殘雪起、河帶斷冰流。

コノ二句ハ、冬日ノ實景ゾ、言フハ、冬至ニ陽氣ガ來復シタレバ、ハヤ雪モ大抵消シタゾ、サレドモ、マダ雪ガ殘リタホドニ、風ハ殘雪ヲ兼ネテ吹き起リタトゾ、兼トハ、添フルト云フ意ゾ、斷氷トハ、氷ノトケテ片片トナタルリヲ云フゾ、詩

ノ意ハ、陽氣ガ來復シタレバ、河水ハ斷氷ヲ帶ビテ流ルルトゾ、帶ノ字ヲ添フルト訓ジタゾ、徐州ハ南國ナル故ニ、冬至ヨリ後ハ、ヤガテ暖氣ニナルゾ、サルホドニ、カク云フタゾ、殘雪斷氷ヲ以テ、祿山ガ餘黨ニ比シ、風ト河トヲ以テ、世人ニ比シタゾ

北闕馳心極、南圖尙旅遊。

コノ二句ハ、北闕ハ内裏ヲ指シタゾ、極ハ中ゾ、心極トハ心中ト云フ義ゾ、南圖ハ大鵬ノ故事ゾ、圖ハ謀ゾ、南ノハカリゴトト云フ義ゾ、言フハ、吾ガ中心ハ、イツモ帝京ノ北闕ノアタリヲ走セ廻レドモ、心ノママニモナラネバ、大鵬ノ南ヲハカル如クニシテ、張建封ニ從ツテ、南國ノ徐州ニ旅遊ストゾ

登臨思不已、何處可消憂。

言フハ、帝京ヲユカシク思フホドニ、立ち出デテ四方ヲ望ンデ、意ヲ慰メントテ、高キ處ニ登ツテ、アナタコナタヲ望ミ見レドモ、更ニ京ヲ床シク思フ心ハヤマヌゾ、サテ、何ノ處ニテカ遊覽シテ憂ヲ消スベキコトヲナサントゾ、

●早行

劉洵伯

舊抄ニ、劉洵伯ハ成都ノ人ナルガ、長安ニ在ツテ、今又成都ヘ歸ルトテ、蜀地ニテ作シタト云ヘリ、サモアリサウナゾ、

鐘靜にして人猶ほ寝れず、天高うして景自ら涼し、一星深戍の火、殘月半橋の霜、客老いて城下に感ひ、蟬寒くして路傍に、怨む、青山舊色に依る、宛ら是れ馬羶が郷、

鐘靜人猶寢、天高景自涼。

コノ詩ハ、賦兼興ノ格ゾ、言フハ、ワレ今故郷ノ成都ヘ歸ルトテ、路次ヲ急ギ早行リタレドモ、路邊ノ人家ニハ、朝寢シテ、門戸ヲモ未ダ開カヌゾ、サテ秋ノ比ナレバ、雪氣モサエテ、天ガイト高ク見エテ、風景モ自然ニ清涼トスズシキトゾ

一星深戍火、殘月半橋霜。

二句ハ、早行スル路次ノ實景ゾ、言フハ、深茂ノ深キマモリヤニ、篝ヲタキケル其火ハ、曉ニ成リタルホドニ、ハヤ焚キヤンデ、漸ク一星バカリ残りテ見ユルゾ、サテ、アナタナル板橋ニハ、半分バカリ霜ガフリ積リタルヨト思ヒツツ、行キテ見タレバ、残月ノ影ニテアリツルヨトゾ

客老愁城下。蟬寒怨路傍。

コノ二句ハ虚ゾ、言フハ、我ハ久シク長安ニ在リシガ、シカジカノ官位ニモアツカラヌホドニ、イザサラバ故郷

ヘ歸隱セント思フテ、成都ヘ歸ルゾ、サテ、成都近クニナリテ、我ガ身ヲカヘリミテ、ソコニ愁ヒタゾ、ナニゴトゾト云フニ、年ウチヨリテ官位ニモ備ハラズシテ、故郷ヘ歸ルコトノ面目ナサヨト愁ヒタゾ、又ソコニテ、顧ミタルコトガアルゾ、ナンゾナレバ、寒蟬ガ時ヲ失シテ、コゴエ死ニサウナル聲ニテ、路傍ニ鳴クヲ聞キテ、人間ノミナラズ、蟲ノ類マデモ、時ヲ得、時ヲ失フコトハ、自然ノ理チヤト觀ズレバ、サノミ悲シクモ思ハヌトゾ

青山依舊色。宛是馬卿鄉。

馬卿トハ司馬長卿ゾ、司馬長卿ガ故郷ハ成都ゾ、宛トハ、サナガラ

ト云フ義ゾ、言フハ、夜ガアケタホドニ、ヤレト思フテ四方ヲ見タレバ、山色ガ青クシテ、舊ノヤウニシテアルゾ、サテハ、ハヤ成都ヘ行キ著キタルカト、ヨロコバシク思フタトゾ、依舊色トハ、ムカシ蜀ヲ出デシ時ノヤウニアルト云フ意ゾ、

逢潘公

周賀

周賀、初メニハ僧ニテアリツルヲ、姚合ガススメテ還俗セシメタゾ、才子傳ニ云フ、清寒、字南卿、居廣嶽、爲浮屠、客南徐亦久、後來少室終南、俗姓周、名賀、工爲近體詩、格調清雅、姚合守錢癖、見其哭僧詩云、凍鬚亡夜剃、遺傷病中書、太愛之、因加以冠巾、使復姓字、時夏腐已高、榮望落落、竟往依名山諸尊宿、自終トイヘリ、コノ詩ハ、還俗ノ後ニ、終南山ヤナドニ引キ籠リテ居タル時分ニ、潘公ガ尋ネテ來リシヲ謝シテ作シタト見え

タゾ、

病を帯びて相見ること稀なり、西城早晩か來らむ、山衣風帛を壞り、香印雨灰を沾す、坐久しくして鐘聲盡き、禪餘岳影回る、却つて思ふ同宿の夜、枕を高くして天台を説くことを、

帶病稀相見。西城早晩來。

コノ詩ハ、節節生意ノ格ゾ、西城ハ長安ヲ指シタゾ、潘公ハ長安ノ僧ト見えタルコトガ稀ナゾ、サテ、イツカ西ノ方ノ長安城ヨリ、潘公ノ來リ給ハント待チツルニ、今度ノ御來儀ハ、一入蒸ク存ズ

山衣風壞帛。香印雨沾灰。

コノ二句ハ、潘公ト對坐スル處ノ實事ゾ、山衣トハ、山野ノ僧ノ著ケル布帛ゾ、香印トハ、定香ヲ推シツケテ置キタルデ云フゾ、言フハ、潘公ノ風

標ヲ見タレバ、破レタル布衣ヲ著テ來リ給フガ、風ガ其衣ヲ吹ケバ、破レ目ガ飄飄トアガルホドニ、風ガ吹キ破リタルカト思ハルルトゾ、コレハ潘公ノ風標ゾ、サテ我ガ居タル座中ニ、定香ヲ燒イテ置キタルバ、折フシ雨が降ル故ニ香爐ノ灰モシメリテ、火モ消エタゾ

坐久鐘聲盡。禪餘岳影回。

コノ二句ハ虚ゾ、言フハ、タマタマニ逢フタルコトノ嬉シサニ、對談シテ坐スルコトガ久

シキ中ニ、半夜ノ鐘ヲモツキアケタゾ、サラバ坐禪セントテ、共ニ禪定ニ入りタゾ、サテ、坐禪三昧ノ餘力アル時ニ、庭前ヲ見タレバ、宵ニハ東ヨリ出ヅル月ニ照ラサレテ、山岳ノ影ガ西ニアリシガ、夜アケ方ニナリタレバ、月ガ西ニ流レタルホドニ、岳影ガ東ニメグリタトゾ、又月ガ中天ニ在ル時ニハ、岳影ガイヅクヘ往キタルヤラン見エナシダガ、禪餘ノ時分ニ見タレバ、残月ニ照ラサレテ、岳影ガ庭ニカヘリ來リタルゾ

却思同宿夜。高枕說天台。

言フハ、ムカシ我モ僧タリシ時ニ、遍參ノ内ニ、江湖寮ニテ、夜ハ同床シテ、高枕ノ

體ニテ、天台山ノ事ナドヲ雜談セシコトヲ、今思ヒ出セバ、マコトニ、昨ヤ今ノ如クニ覺ユルトゾ、

●暮過山寺

賈島

衆岫聳寒色。精廬向此分。流星透疎木。走月逆行雲。一僧年八十。世事未曾聞。

精廬ハ精舎

流星透疎木。走月逆行雲。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、衆岫ノ聳エタルガ、ソノ色モ、寒キヤウニ見エテ、一段險阻ナル境致ガアルゾ、ソノアタリヨリ、路ガ分レテ、コノ小寺ヘハ行クゾ

ナリタゾ、山寺ノ麓ヲ行ケバ、ハヤ星ガ出タゾ、ソノ中ノ流星ヤナドヲ見レバ、疎ナル木ノ間ヲ飛ンデ通ルヤウナゾ、サテ、木ノ間ヨリ月ヲ見レバ、月ノ西ヘ移ルコトガ走ルヤウナゾ、雲ハ東ヘ飛ビ、月ハ西ニ流ルルホドニ、サカフト云

絶頂人來少。高松鶴不羣。

コノ二句ハ、山寺ノ實景ゾ、言フハ、暮レ時分ニチト山寺ヘ行キテ、見セントテ、思ヒ立ツタレバ、未ダ寺ヘ行キ著カザルニ、ハヤ夜ニ

少ナルト見エタゾ、ソレノミナラズ、鶴ノ棲ミサウナル大木ノ松ハアレドモ、鶴サヘ棲マズ、棲ムトテモ、只ダ一ツヤ二ツバカリニテ、多クムラガリハセヌ

トゾ、畢竟、山ノ高キヲ云ハントテ、一僧年八十。世事未曾聞。コノ山寺ハ、アマリ高山ニタチタルホドニ、僧達モ住マヌゾ、寺中ヲアナタコナタ見物スレドモ、出デ逢フ者ハ一人モナカリシゾ、ヤヤアリテ、八十バカリノ老僧ガヨロボヒ出タゾ、サテハ、幸ヂヤト

思フテ、物語ヲセントテ、浮世ノ事ヲ問ヘドモ、曾テ知ラヌト云ハレタゾ、サテ、物語スルコトモナク、空シク歸ツタトゾ、畢竟、僧ノ行李ヲホメタゾ、

●懷永樂殷侍御

馬戴

殷侍御ハ殷亮藩ゾ、嘗爲永樂令、後以侍御官江南、履歷ニアルゾ、季昌曰ク、衆妙集、作集宿姚侍御宅、懷永樂宰殷侍御、コレニテ、七八ノ句ノ意ガ聞コエタゾ、

石田虞芮接。種柳白雲陰。

石田虞芮接。種柳白雲陰。

コノ詩ハ、藏頭ノ格ゾ、石田トハ、沙石多クシテ耕スベカラザル田ゾ、永樂ハ古シ

永樂縣ハ、虞芮ト相ツヅキタル地ゾ、サテ、ソノ田地ハ沙石ガ多クシテ、薄田ヂヤトゾ、サテ、殷侍御ハソノ薄田ニモカマハズ、白雲ノ深キ處ニ柳ヲ種エテ、陶淵明ナドガヤウニシテ、令官トナツテ居ラレタゾ、種柳ト云フテ、令官ニナリタルヲ

穴閉神蹤古。河流禹鑿深。

コノ二句ハ、永樂縣ノ實事ゾ、穴ヲバ、天隱ハ禹穴ト注セラレタゾ、季昌ガ注ニハ、銅穴トシタゾ、コレガ好キゾ、季昌曰ク、解縣本虞郷、

縣有銅穴十二ト云ヘリ、詩ノ意ハ、永樂縣ノ近處ニ虞郷ト云フ處アリ、ソコニ、ムカシ神人ガ來テ銅ヲホリタル跡ガ十二處アリ、コレヲ銅穴ト云フテ名處ナルガ、今ハ早ヤソノ銅穴モトヂフサガツテ、神人ノ蹤跡モ古リタト聞キ及ンダゾ、又永樂縣ハ河中府ニ在ルガ、河中府ノ龍門縣ハ、ムカシ夏ノ禹ノ溝ヲホツテ、洪水ヲ治メラレシ舊跡ガアルゾ、何レニ、殷侍御ノ居ラレタル處ハ、舊迹ノ多キ處ゾ、アハレ一度往イテ見物スルコトガナト願フタゾ、サテ、河流トハ、禹ノ龍門ヲホツテ、洪水ヲ黄河ヘ流シ入レラレシヨリ

樵人應滿郭。仙鳥幾巢林。

コノ二句ハ、永樂縣ノ様子ヲ思ヒヤリテ云フタホ

ドニゾ、仙鳥ハ鶴ゾ、言フハ、永樂縣ハ山林ノ間ニ在ルト聞キ及ビタゾ、樵人ヤナドモ城外ニ滿チテアルラン、サテ、林木ニハ、鶴ドモガ幾多ト云フ數ヲ知ラズ、巢ヲカケテゾアルラント推量シタトゾ、縣ノ名ガ永樂チヤホドニ、カク云フ

此會偏相憶。曾供雪夜吟。

此會トハ、姚侍御ガ宅ニテノ會ヲ指シタゾ、イカサマニ、雪夜ニ會シテ、般侍御ガ事ヲ評論シタルモノゾ、サテ、詩ノ意ハ、今雪夜ニ姚侍御ガ宅ニ會シテ、酒ヲ酌ミ、詩ヲ吟ジテ、我モ、人モ、般侍御ガ事ヲノミ相憶フバカリゾ、又ソレヲ音ニ合セテ相思ヘバ、王徽之ガ左思ガ詩ヲ以テ、雪夜ノ吟ニソナヘテ、戴逵ヲ思ヒタルガ如クチヤトゾ、供トハ、ソナフト云フ義ゾ、即チ供ノ字ヲソナフト訓ジタゾ、ムカシ、王徽之ガ左思ガ詩ヲ雪夜ノ吟ニ供セシモ、カクコソアリツラント、今相憶フトゾ、

韋處士山居

許 渾

藥を割て去つて還た歸る、家人半ば扉を掩ふ、山風藤子落ち、溪雨豆花肥えたり、寺遠くして僧の來ること少なり、橋危くして客の過ぐるこ稀なり、砧杵の動くを聞かず、應に荷衣を製することを解すべし、

劇藥去還歸。家人半掩扉。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、韋處士ガ山居ヲタゾネテ行キタレバ、好キ時分キアヒテ、サテ、ツレテ内ヘ入りタレバ、ソノ妻女ガ隱居ノ戸ヲ半分バカリ引キ掩ツテ居タゾ、コレハ、未ダ家ノ内ヘ入ラズシテ庭ヨリ見タル體ゾ

山風藤子落。溪雨豆花肥。

コノ二句ハ、山居ノ實事ゾ、言フハ、内ヘ入ツテ暫ク坐シテ、山居ノ體ヲ見レバ、特ニ隱居ノ樂ノ様子ガ羨シク思ハルルゾ、ソレヲ如何ニト云フニ、藤ノ實ガ熟シテ、人ハ落サネドモ、風ニ吹カレテ自然ニ落ちタゾ、コレヲ拾ヒテ食物ニアテラレベキゾ、又溪邊ニ雨ノ降ルヲリフシ、豆花ノ肥エタルガ見エタゾ、コレヲモ隱者ノ栽エコソセラレツラン、花ガ肥エタルホドニ、實モ

寺遠僧來少。橋危客過稀。

コノ二句ハ虛ゾ、言フハ、山居ノアリ處ヲ見タレバ、寺ガハルバルアナタニ在ルゾ、サテハ、僧ノ來ルコトモ少ナルベシト推量シタゾ、サテ、門前ノ溪ニカケタル橋モ、獨木ニテ危キゾ、然ラバ、山居ヲ尋チ來ル賓客モ、稀ナルベキゾ、イヅレニ、深閑ナル山居チヤトホメタゾ

不聞砧杵動。應解製荷衣。

言フハ、家人ハアレドモ、砧ヲパウタヌゾ、然ラバ、コノ人ハ、荷葉ヲ以テ衣ヲ作りテ著セラルルカト疑ヒタトゾ、許渾ガ山居ヘ行キシ時分ガ、秋ノ末ニテアルベキゾ、サテ、砧杵ノ事ヲ云ヒタルモノゾ、

瀑布寺貞上人院

鄭 巢

本集ニハ、過瀑布寺貞上人院ト、題ヲ置イタゾ、

林疎にして暮蟬多し、師去つて山烟に宿す、古壁燈畫を蕭じ、秋琴雨弦を慢す、竹間遠鶴を窺ひ、巖上寒泉を取る、四岳に莎房在り、歸期更に幾年、

林疎多暮蟬。師去宿山烟。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、タマタマ上人ヲ尋ネテ行キタレバ、留守ニテ逢ハヌゾ、サテ、ソコニテ推量スルニ、折フシ秋ノ初ノ時分ナルガ、院ノ四壁ノ林ハ疎ニシテ、樹木ハ多クナキニ、蟬ドモガ多ク集マリテ鳴ク聲ガ喧シキゾ、コレヲ嫌ヒテ、上人ハ院ヲ去ツテ、蟬ノナキ處ノ山煙ノ中ニ宿シテ居ラルベキゾ、サテ、我ハ惡キ時節ニ來タル者カナト云ハヌバカリゾ、暮蟬トハ、鄭巢ガ院ヘ行ツキタルコロガ暮ニテアリタホドニゾ

古壁燈熏畫。秋琴雨慢弦。

コノ二句ハ、院ノ實事ゾ、言フハ、上人ハ留守ニテ物語ヲスベキ人ハナシ、餘リノ事ニ、院ノ様子ヲアナタコナタ見物シタレバ、古壁ノ間ニ定燈ヲトモサレタルガアルゾ、ソノ燈ノ煙ニフスベラレテ、畫像モマツ黒ニナリタルガ在ルゾ、サ

テ、殊勝ニ思フテ立チヤスラフ中ニ、秋雨ガ降り來リタゾ、ソノ聲ヲ靜ニ聞キケレバ、絃ヲユルメテ琴ヲ彈ズルヤウナ
ゾ、サナガラ、佛前ニテ音樂ヲ奏スルガ
如クニシテ、一段殊勝ニ思ハルルトゾ
竹間窺遠鶴。巖上取寒泉。
コノ二句ハ虛ゾ、言フハ、立チヤスラ
フ中ニ、竹林ヨリアナタニ、何物ヤラ

ン見エタゾ、竹間ヨリ窺ヒ見タレバ、遠鶴ニテアリツルゾ、ソノ鶴ノ遠キ處ニ飛ブヲ見テ、上人ノ巖上ニ行キテ寒泉ヲ
汲ミ取ラルルカト思フタゾ、又竹間ヨリ遠鶴ヲ窺ヒ見テ、上人ノ歸リ給フカト喜ビタレバ、ソウデハナキゾ、サテ、ア
マリノ事ニ、巖上ニ行キテ寒
泉ヲ取ツテ渴望ヲ蘇シタトゾ
西岳莎房在。歸期更幾年。
言フハ、院ノ西ニアタリテ、岳ノ邊ニ庭ニ莎草ヲ種
エタル僧房ガアルゾ、サテ、我モ今ヨリ以後、幾年

ラスギテカ、上人ト歸休ノチギリヲ結ンデ、アノ僧房ニ半檐ヲ借ランヤトゾ、
已前共十四首

送龍州樊史君

曾て印人の説くを見く、龍州地未だ深からず、碧溪白鳥を飛ばし、紅旆青林に映ず、土産惟だ薬に宜しく、王租只だ金を賈す、政成つて開宴の日、誰か使君の吟に伴はむ、

許棠

曾見印人説。龍州地未深。

コノ詩ハ、聞説ノ正格ゾ、印ハ印州ゾ、劍南道ニ屬シタル州ゾ、龍州モ劍南道ニ
屬シタル州ゾ、サルホドニ、印人ノ説ヲ用キタゾ、言フハ、我ムカシ印人ノ言ヒケ
ルコトヲ聞キシガ、龍州ハ餘リニ引キコミタル州ニテハナウテ、如何ニモ、ウチクツロギタル州ニテアルト云フタゾ、
第二ノ句ヨリ第六ノ句マデハ、皆
印人ノ言ヒタルコトバヲ述ベタゾ

碧溪飛白鳥。紅旆映青林。
コノ二句ハ、龍州ノ實景ゾ、コレモ印人ノ言葉
ヲ述ベタゾ、言フハ、印人ノ云ヒケルヤウハ

龍州ハ一段ト好キ州ゾ、ソレヲ如何ニト云フニ、碧溪ニハ、イツモ白鷗ヤナドガ飛ビツラナリ、サテ使君ノ紅旆ハ、青
林相映ジテ、ユウシキ州ヂヤト云ヒツルゾ、今ノ樊使君モ、必ズカクアルベシト云フテ、樊使君ガ情思ヲ慰メタゾ、映ト
ハ、互ニ相照
土産惟宜薬。王租只貢金。
コノ二句ハ、實ノヤウナレドモ虚、ニテアルベキゾ、惟ノ字ト只ノ
字トヲ以テ、虚ニ云ヒナシタゾ、龍州ノ土産ハ薬ト金トバカリニテ
ハアルマジキチ、惟宜薬、只貢金ト云フタハ虚ゾ、季昌曰ク、按唐書、龍州土貢鐵金酥鉛羊角葛粉厚朴附子大雄側子烏
頭トイヘリ、言フハ、龍州ハ土地ガ好クシテ藥種モ多ク、金鐵モ多キ州ヂヤト、印人ガ委シク云ヒシコトヲ、我ムカシ詳
シク聞イタゾ、使君ノ赴キシ州ハ、一段頂上ノ州ナリ、カマヒテ、遠國ヘ行クトテ、恐怖シ給フナト、勇メタゾ、コレマデ
ハ、印人ノ物語リ
政成開宴日。誰伴使君吟。
言フハ、龍州ニテ守護ノ政ヲ行ヒスマシテ、餘力アラン時ニハ
必ズ父老ドモヲ招イテ、酒宴ヲ催シテ、閒遊セラレベキゾ、ソ
ノ時ニ酒トモダチハアルベキカ、恐ラクハ使君ノ吟ニ相伴シテ詩ヲ作ラン人ハアルマジキゾ、サテ誰カアランヤトゾ、

送人尉黔中

周絲

山を盤つて幾驛にか行かむ、水路復た巴に通ず、峽には三川の雪を漲らし、園には四季の花を開く、公庭白鳥を飛ばし、官
俸丹砂を請けむ、知んぬ黔人に尉として後、高吟物華を採らむことを、

盤山行幾驛。水路復通巴。

コノ詩ハ、藏頭ノ格ゾ、言フハ、コレヨリ黔中ヘハ、峽中ヲ通リテ行クホドニ、
或時ハ陸地ヲ行キ、或時ハ船路ヲ行カルベキゾ、ソノ中ニテ、陸行ノ時ニハ、
山ヲメグリテ幾多ノ驛路ヲ通ラレベキガ、イカホドト云フ數ハ知ラレヌゾ、サテ、舟行セラレン時ニハ、巴國マデニ通
ジタル水路ヲ通ラレベキゾ、イヅレニ、路次ノ劬勞ハカリ知ルベカラズトゾ、復ノ字ニ意アルゾ、陸行ノ上ニ、マタ水行

セラレン
ホドニゾ

峽漲三川雪。園開四季花。

コノ二句ハ、黔中ノ實景ゾ、言フハ、巴江ヲ通り給ハン時ニハ、蜀ノ三川ヨリ流レ來ル雪浪ヲ凌ギテ、苦勞セラレベキガ、黔中ヘ行キ著キ

給ヒタラバ、ヤガテ、ソノ苦勞ヲ忘レラレベキゾ、ナゼニト云フニ、黔中ハ楚地ニテ南國ナルホドニ、四季共ニ開花アルゾ、ソノ花ヲ見テ意ヲ慰メラレンホドニゾ

公庭飛白鳥。官俸請丹砂。

コノ二句ハ、公庭ニ飛ビツラナルベキゾ、サテ、辰州ノ光明山ハ、丹砂ノ名處ナルトナツテ行カルル國ハ、江南道ニテ、シカモ、コノ人ハ無

心ナルホドニ、公界ムキノ門庭マデニ、白鳥ガ馴レテ飛ビツラナルベキゾ、サテ、辰州ノ光明山ハ、丹砂ノ名處ナルガ、黔中ニ屬シタゾ、シカレバ令官ノ月俸ニハ、丹砂ヲ請取ラルベキトゾ、コレヲ服セラレタラバ、延命ナルベシト祝シ

知尉黔人後。高吟採物華。

物華トハ、景物ノハナヤカナルヲ云フゾ、言フハ、コノ人、黔中ニテ人民ヲ慰メナヅケテ後ニ、閒暇アラン時ニハ、前ニ云ヒツル件ノ景物ドモヲ見テ、

高吟シテ、花ナドヲ手ニ取り、サテ、手ニ取ラレザル物ヲバ、心ニ吟取セラレントゾ、

道院

王周

王周ハ、五代ノ人トバカリ履歷ニ記シタゾ、サルホドニ、何ノ州ノ官府ノ道院トモ知レヌゾ、道院トハ、官府ノ治所ニ在ルゾ、府君ノ休息ノ處ゾ、治處トハ、マンドコロノ事ゾ、

【訓】白日人の到ること稀なり、塵垂れて道院深し、雨苔古壁に生じ、雪滿寒林に聚まる、慮を忘るるは三樂に響り、閒を消するは五禽に信す、誰か知らむこの官府、煙縷滿爐の沈、

白日人稀到。簾垂道院深。

コノ詩ハ、一意ノ格ゾ、言フハ、コノ道院ニハ、白日ナリトイヘドモ、人ノ來ルコトハ稀ナゾ、夜ノ事ハ云フニ及バザルゾ、一切ニ人ノ往來スルコトナキニテ

ハナイゾ、サテ稀ナリト云フタゾ、人ノ來ルコトガナキ時ニハ、簾ヲ垂レテ、其中ニ晏坐シテ、道院ノ趣ハ彌ヨ深キトゾ

雨苔生古壁。雪鶴聚寒林。

コノ二句ハ、道院ノ實事ゾ、言フハ、

簾ノ隙ヨリ見レバ、雨中ニ苔ガ茂リテ壁マデニノボリタトゾ、昔ヨリアル道院チヤホドニ、古壁ト云フタゾ、説文ニ曰ク、鶴、小爵也、陸賈曰、似鶴好水、將陰雨、則鳴、其巢傍爲池、含水滿之、取魚置中、以食其雛、陸佃云、禽經、仰鳴、俯鳴、則陰、私ニ云フ、雪鶴トハ、ソノ白キヲ謂フナリ、雪ノ時分ノ鶴ニテハナキゾ、上ノ句ノ雨苔ニ對セントテ、雪鶴トシタゾ、雪ノ降ル時分ニハ、苔ハ生ゼマジキホドニゾ、寒林ト云フモ、空林ノ義ナルベシ、サテ、詩ノ意ハ、道院ノ中ヨリシテ見レバ、白キ鶴雀ドモカ林ニ多ク集リタゾ、ソレヲ如何ニト云フニ、人ノ往來スルコトモ稀ナル道院ニ、シカモ我ハ無心ノ道人ノ家風ヲ學ビテ、院中ニ獨坐シテ居ルホドニ、鶴雀ドモモ馴レテ相近ツキテゾ

忘慮憑三樂。消閒信五禽。

コノ二句ハ、三樂ハ、榮啓期ガ故事ゾ、五禽ハ、

華佗ガ故事ゾ、イヅレモ注ニ見エタゾ、言フハ、我が萬慮ヲ忘スルコトハ、別ノ子細デハナキゾ、常ニ三樂ノ子細ガ心中ニアルニヨリテノ事ゾ、サテ閒寂ナルコトヲ消遣スルモ、別ノ子細ニテハナキゾ、常ニ五禽ノタハブレヲナス故チヤトゾ

誰知是官府。煙縷滿爐沈。

言フハ、コレホド忙ガハシゲナル官府ノ中ニ

シテ、滿爐ニ沉香ヲ燒イテ、晏然トシテ、默坐シテ道院ノ中ニ在ラントハ、誰モ知ルマジキトゾ、季昌曰ク、沉香出天竺、單于二國、葉似橘、木似檉柳、重實黑色、沈水者是、酉陽雜俎曰、一木五香、根榲檀、節沈香、花雞舌、葉養香、膠薰陸、

已前共二首

一意 周弼曰、唯守格律、揣摩聲病、詩家常、若時出度外、縱橫放肆、外如不整、中實應節、惟又非造次所能也、格トハ、詩格ニ載スルトコロノ諸格ゾ、律ハ聲律ゾ、又五言律七言律ノ類ゾ、揣摩トハ、揣摩ハ定ゾ、摩ハ合ゾ

絶句ノ抄、吳姫ノ詩ノ次ノ共二首ト云フ處ノ抄ニ委シク見エタゾ、聲病トハ、聲ハ詩ノ韻聲ゾ、病トハ、詩ノ八病ナド
 ズ、詩ニ聲病ノナキヤウニスルヲ云フゾ、度外トハ、法度ノ外ト云フ義ゾ、言フハ、沈佺期、宋之間ナド方定シタル
 詩ノ格律ヲ守ツテ聲律ヲ整ヘ、八病等ノナキヤウニ、揣摩ト定メ合スルコトハ、詩家ノ常ノ事ニテ珍ラシカラズ、
 法度ノ外ニ出デテ、十字縦横ニ、放肆トホシイママニシテ、外面ニハ、法度ガ整ハヌヤウニ見エテ、サテ、内證ハ能ク
 韻節ニ相應ズルコトハ、詩家ノ大事ゾ、サルホドニ、造次ト俄ニシテ、能クスルトコロノモノニテハナイトゾ、私ニ
 云フ、一意ノ格ノ詩ハ、前ニ謂ユル四實、四虛、前虛、後實ナドノ體ニカカハラズ、篇首ヨリ篇尾ニイタルマデ、一
 意ニ云ヒ下スゾ、詩ヲ詠歌スルニ、能ク歌曲ノ節ニ相應ズルヲ應節ト云フゾ、八病ノ事ハ、文章源流ニ詳ニシルシテ
 置イタゾ、

終南別業

王維

終南山ニ王維ガ別業ガアルゾ、注ニ見エタゾ、

中歳より頗る道を好む、晩に南山の隱に家す、興來つて毎に獨り往く、勝事空しく自ら知る、行いては到る水の窮る處、坐
 して看る雲の起る時、偶然として林叟に値ひて、談笑運期を滞す、

中歳頗好道 晚家南山陲

コノ一二ノ句ヨリ結句マデ、一意ニ直ニ云ヒ下シタゾ、中歳トハ、五十バカリナ
 ルヲ云フゾ、道トハ佛道ゾ、晩トハ晩年ゾ、言フハ、吾、歳五十バカリニナリシ

頃ヨリ、過半佛道ヲ信仰シテ面白イト思フタゾ、サルホ
 ドニ、晩年ニハ世ヲ捨テテ、終南山ノ隱ニ家居シタトゾ

興來每獨往 勝事空自知

コノ二句ハ、別業ニシテ
 自得逍遙シタル體ヲ述ベ

タゾ、言フハ、世ヲ逃レタル身ナレバ、萬事ニカカハラズ、常ニ安眠高臥シテ居タゾ、偶然トシテ眠ガサムレハ、興來

リテ、イツモ獨り往イテ、アナタコナタニテ逍遙ト樂ンタゾ、ソノ中ニ、絶勝トスグレタル事ドモガアルヲ、自ら覺知シ
 タトゾ、勝事ハ次ニ見エタゾ、友
 モナキホドニ、空自知ト云フタゾ

行到水窮處 坐看雲起時

コレガ前ニ云ヒタル勝事ゾ、言フハ、隙アリヂ
 ヤホドニ、南山ノホトリヲ開行シテ、源ヲキハメ

テ、遊山玩水シタゾ、サテ、高源ノ上ニ坐シテ、浮雲ノ起ルヲ看タゾ、安閑無事ニシテ自得シタル體ゾ、淵明ノ詞ニ、雲無心
 以出岫ト云フタ意ゾ、

偶然值林叟 談笑滞還期

偶然ハ適然ノ義ゾ、意ニ協フタト云フ意ゾ、韻書ニ、偶
 ハ合也ト注シタゾ、又適然也トモシタゾ、又適ノ字ノ注

コノ二句ハ得意ノ句ゾ
 ニ意所ニ必從ト注シタゾ、言フハ、高源ノ上ニ坐シテ、雲ノ起ルヲ看テ、安閑無事ニシテ居タレバ、思ハザリキニ
 我が意ニカナフタル作略ノ林叟ノ來ルニ逢フタゾ、サテ、ソノ林叟ト談笑シテ歸ルベキ限期ヲ忘レテ、暫ク滞在シタト
 ズ、コノ詩、前ノ四句ハ聲律ガ合ハヌゾ、コレガ度外ニ出デタル者ゾ、後四ハ、起リモ聲モ合フタゾ、コレガ節應シタ
 ル者ゾ、

晚泊潯陽望香爐峰

孟浩然

孟浩然傳ニ曰ク、孟浩然、襄陽人、少好節義、詩工五言、隱鹿門山、即漢龐公棲隱處也、四十遊京師、諸名士問
 嘗集、祕省、聯句、浩然曰、微雲淡、河漢、疎雨滴、梧桐、衆皆欽服、王維待詔金鑿、一旦私邀入商、較風雅、俄報、示
 臨幸、浩然錯愕、伏匿、床下、維不、敢隱、因奏聞、帝喜曰、朕素聞其人、而未見也、詔出再拜、帝問曰、卿將、詩來耶、
 對曰、偶不、齋、即命吟、近作、福至、不才、明主、棄、多病、故人、疎、之句、帝慨然曰、卿不求仕、朕何嘗棄卿、奈何誣我、
 因命還、南山、トイヘリ、コノ時ニ潯陽ニ泊シタルベキゾ、

調 席を掛く幾千里、名山都て未だ逢はず、舟を潯陽の郭に泊し、始めて香爐峰を見る、嘗て遠公の傳を讀んで、永く塵外の蹤

を懷ふ、東林精舍近し、日暮坐ながら鐘を聞く、

言フハ、長安ヨリココマデニ、舟ニ席ヲカケテ、數千里ヲ通

泊舟潯陽郭。

始見香爐峯。

言フハ、コノ程ハ、終ニ名山ヲバ路次中ニテ見ナンダガ、

嘗讀遠公傳。永懷塵外蹤。

言フハ、我、ムカシ、遠法師ノ傳ヲ讀ミタルコトガアルゾ、ソレヨリコノカタ、久シク遠

東林精舍近。日暮坐

聞鐘。

東林寺ハ廬山ニ在リ、遠法師ノ舊跡ゾ、言フハ、幸ニ潯陽ニ舟ヲ泊シタホドニ、東林寺ヘ登リテ、舊路ヲ見物

シタケレドモ、流罪ノ身ナレバ、意ニモマカセヌゾ、サテ、舟中ヨリ見レバ、東林寺ガ近クニアルゾ、ソノ寺

●茶 人

茶人トハ、茶ヲ嗜ム人ト云フ義ゾ、龜蒙ガ自ラ云フタゾ、

陸 龜 蒙

天賦靈草を識る、自然に野姿を鍾む、間に來る北山の下、東風と期するに似たりと、雨後芳を採つて去る、雲間幽路危し、

天賦識靈草。自然鍾野姿。

天賦トハ、性ト云フ義ゾ、中庸ニ天命之謂性ノ注ニ、命猶令也、性即理也、天以

其所賦之理、以爲健順五常之德、所謂性也ト云ヘリ、靈草トハ茶ヲ指シタゾ、言フハ、コノ茶人ハ、天ヨリ賦リ給ハリタ

ル本性ガ、能ク茶ヲ知ツタトゾ、サテ、ソノ人ノ姿ハ、自然ニ

閑來北山下。似與東風期。

北山トハ、顧渚山ヲ

野人ニ生マレツイタトゾ、鍾トハ、五體ニ付イテ云フタゾ 指シタゾ、季昌曰、

顧渚在安吉州、出紫筍茶トイヘリ、才子傳ニ曰ク、陸龜蒙、字魯望、姑蘇人、幼而聰悟、有高致、善屬文、尤能談笑、詩體ニ

雨後探芳去。雲間幽路危。

芳トハ茶ヲ指シタゾ、言フハ、コノ茶人ハ

人ハ吳ノ松江ノ甫里ト云フ處ニ隱居シテアリシガ、茶ノ時分ニハ、北山ノフモトニ茶ヲ摘ミニ來ルゾ、サテ、ソノ時分ハ、

惟應報春鳥得共斯人知。

顧渚山ニ報春鳥ト云フ鳥ガアルゾ、コノ鳥、正月ノ時分ニ鳴キテ、

人ハ皆茶ヲツムゾ、サテ、詩ノ意ハ、茶時節ヲ能ク知レル人ハ、世上ニ稀ナルベキゾ、惟ダコノ報春鳥ト、コノ茶人ト

●尋陸羽不遇

僧 皎 然

陸羽、字ハ鴻漸ゾ、才子傳ニ曰ク、羽嗜茶造妙理、著茶經三卷、言茶之原之法之具、時號茶仙、天下益知飲

ヲ尋キタゾ、

調家を移して郭を帯ぶと雖も、野徑桑麻に入る、近こる種う籬邊の菊、秋來未だ花を著けず、門を扣けども犬の吠ゆるなし、去らむと欲して西家に問ふ、報じて道ふ山中より出でて、歸り來ること毎に日斜と、

移家雖帶郭。野徑入桑麻。

言フハ、コノ陸羽、始メ智積禪師ニ育テラレテ、竟陵ニ居タリシガ、年々ケテ髮ヲ剃ルコトヲ嫌ヒテ、暇ヲ乞ヒテ、苕溪ニ家ヲ移シタゾ、ソノ屋敷ハ、城外ノ郭ニ添フテアルゾ、サレドモ、隱士チヤホドニ、ソノ家ニ行ク徑ハ、イカニモ野鄙ナルゾ、サテ、民百姓ドモガ桑麻ナドヲ種エタル其畠ヲ通ルゾ、サルホドニ、入ニ桑麻ト云フタゾ、陸羽ガ事ハ、才子傳ニ委シクアルゾ、コノ二句ハ路次ノ體

近種籬邊菊。秋來未著花。

言フハ、陸羽ガ隱處ノ門内ヘ入ツテ見タレバ、籬邊ニ菊ハアレドモ、近頃ニ種エタルト見エテ、時ハ秋ナレドモ未ダ花ヲ著ケヌトゾ、陸羽ガ時節ニカカハラズシテ菊ヲ種エタルガ面白イゾ、菊ハ酒ニタヨリタルホドニ、淵明ハ時節ヲ考ヘテ種エタゾ、菊ハ茶ニタヨラヌホドニ、陸羽ハ

扣門無犬吠。欲去問西家。

言フハ、ハルバル思ヒ立ツテ尋ネ來リタレバ、門ヲ閉ヂテ置イタヌゾ、犬サヘ吠ルコトナカリシトゾ、サラバ、歸リ去ラント思ヒケルガ、若シヤト思フテ、西隣ヘ行キテ、陸羽ハイヅクヘ行カレタルゾ

報道山中出。歸來每日斜。

言フハ、隣人ガ云フヤウハ、陸羽ハ狂者ノヤウナル人ナルガ、何ノト問フタトゾ

已前共四首

已前ノ四首ハ、詩ノ體ニハ、カカハラヌゾ、只ダ格バカリヲ取りタゾ、皆一意ノ格ゾ、サテ、四首ノ中ニテ對シタルハ、律詩ノ體ゾ、對セザルハ、長篇ノ體ゾ、聲律ノ合ハザルハ、拗體ゾ、

起句

周弼曰、發首兩句平穩者多、奇健者予所見惟兩篇、發首兩句トハ、一一ノ句ヲ云フタゾ、唐賢ノ詩ハ、起頭ノ兩句ガ皆平穩ナルゾ、奇健ナル者ハナキゾ、唐詩ノ中ニテ、奇健ナルモノハ、司空曙ガ詩ノ起句ニ江天清更愁、風柳入江樓ト云フト、暢當ガ詩ノ起句ニ酒渴愛江清、餘酣漱晚汀ト云フバカリガ、起句ノ奇健ナルモノゾ、サテ、惟兩篇ト云フタゾ、平穩トハ、ナントリトシテ機變ナキヲ云フゾ、奇健トハ、奇怪ニシテ、スクヤカナルヲ云フゾ、便チ機變ノアルヲ云フゾ、八句體ノ詩ハ、一一ノ兩句ヲ起處ノ句ニ配スルゾ、然聲大重、後聯雜稱、言フハ、暢當ガ詩ト司空曙ガ詩トノ兩篇ヲトツテ、起句ノ奇健ナルノ法定メテハアレドモ、全篇ヲ合セテ見レバ、コレニ不足ガアルゾ、ソレヲ如何ニト云フニ、起句ガアマリニ奇健ニシテ、聲ガ大ダ重キゾ、サテ、後聯ハ平穩ニシテ、聲モ大ダ輕キゾ、故ニ起句ト相應ゼヌゾ、二四ヨリ以下ニ、起句ホドニ奇健ナル句ガ一聯アルナラバ、首尾シテ唱フル時ニ、ソノ曲調ガ相應ズベケレドモ、サモナキホドニ、後聯雜稱ト云フタゾ、聲重トハ、奇健ナル句ヲ唱フル時ニハ、唱フル人ノ意モ大ナル故ニ、唱フル聲モ重ク聞コユルゾ、サテ、平穩ナル句ヲ唱フル時ニハ、唱フル人ノ意モ平穩ニシテ、カルガシク聞コユルゾ、サルホドニ、首尾不相應ニシテ、曲調ガ和諧セヌゾ、後兩篇發句亦佳、コレハ、暢當ト司空曙トガ二首ノ詩ノ次ノ周賀ト僧棲蟻トガ二首ノ詩ヲ指シタゾ、發句トハ即チ起句ゾ、コノ兩篇ヲホメテ、サテソノ子細ヲ次ニ云フタゾ、周弼ガ唐朝數百家ノ詩ノ中ヲ擇ンデ、起句ノ體ヲ立ツルニ、起頭ノ句ノ奇健ナルモノ僅ニ四首ヲ得テ、サテ、ソレヲ二ツニ分ツテ、二首ヲ第一第二ニ置キ、二首ヲ第三第四位ニ置キテ、詩ノ輕重ヲ批判シタゾ、聲稱輕、終篇均停、言フハ、後ノ兩篇ノ起句モ、前ノ兩篇ノ起句ノ如クニシテ佳ナルゾ、シカモ、唱ヘテ曲調ニ合スレバ、聲ガ輕クシテ全篇相應ジタトゾ、終篇トハ、始メヨリ終リマデノ全篇ヲ云フゾ、均ハ平、停ハ當ゾ、全篇ガヒトシクシテ、曲調ニヨクアタリタゾ、然奇健不及三前兩篇、遠矣、故著此爲法、使識者自擇矣、言フハ、後ノ兩篇ハ、奇健ナルコトハ奇健ナレドモ、前ノ兩篇ノヤウニハナイゾ、ソノ及バザルコトヲ云ハバ、白雲萬里

チヤゾ、サルホドニ、前ノ兩篇ノ聲太ダ重クシテ後聯稱ヒ難キ者ト、後ノ兩篇ノ聲稍ヤ輕クシテ終篇均停セシ者ヲ、二ツ分ケテ、起句ノ法ヲ立テテ置イタゾ、サテ、後ノ兩篇ガ好イ乎、前ノ兩篇ガ好イ乎、ソノ輕重ヲバ、我モシカトハ得定メヌゾ、サルホドニ、後ノ識者ニ自ラ擇バシムルトゾ、コレハ、周弼ガ謙ノ辭ゾ、サテ、周弼ガ起句ヲ立テタル意ハ、凡ソ文章ハ、詩ヨリ出タルゾ、サテ、文人ノ文ヲ作ルニハ、起句ヲ專ニスルゾ、然ルニ、詩人ノ詩ヲ作ルニハ、起句ハ詩ノ序段チヤト云フテ、アマリニ按ゼヌゾ、サルホドニ、詩ノ一二ハ、皆平穩ニシテ、奇健ナル句ガ稀ナゾ、故ニ後世ノ詩人ノ爲ニ、起句ノ法ヲ立テテ置イタゾ、

●軍中醉飲寄沈八劉叟

暢 當

コノ詩ハ、暢當ガ果州ノ守護職タリシ時ノ作ゾ、軍士ドモヲ引キツレテ、出デ遊ンデ醉飲シタホドニ、軍中ニ醉飲スト云フタゾ、劉叟ハ、軍士ノ中ニテノ宿老ト見エタゾ、沈八トハ、沈氏八代メノ人チヤホドニ、氏ノ下ニ八ノ字ヲ加ヘテ沈八ト云フタゾ、

訓讀 酒渴江の清きを愛す、餘酣晚汀に漱ぐ、軟莎欵坐穩に、冷石醉眠醒む、野膳行帳に隨ひ、華音從俗に發す、數盃君見えす、都て已に沈冥を遺る、

酒渴愛江清。餘酣漱晚汀。

コノ二句ガ奇健ナル者ゾ、サルホドニ起句ノ體ゾ、第一位ニコノ詩ヲ居エタゾ、酒渴トハ、酒ヲ強飲シタルアゲクニ喉ノ乾クヲ云フゾ、餘酣トハ、酒ニ醉フタル

ガ、半サメテ猶ホ餘氣ガアルヲ云フゾ、韻會、酣字ノ注ニ、徐曰、飲洽也、張晏曰、中酒曰酣、サルホドニ、餘酣トハ酒ニアテラレタル餘氣ヲ云フゾ、詩ノ意ハ、飲酒ノアゲクニ沈醉シテ、身口意ガ熟スル折カラニ、江水ノ清キヲ見テサテモ清潔ナル水カナト思フテ、愛賞シテ、サテ、晚汀ニ望ンデ漱イダトゾ、終日飲酒シタホドニ、晚汀ト云フタゾ、

少シバカリノ水ニテモ、クチソソグベキ

軟莎欵坐隱。冷石醉眠醒。

晚汀ニ漱ギタル後ニ、莎ノヤハラカナル上ニ坐シタレバ、如何ニモ坐ガ穩ニアツ

タゾ、酩酊ノ中ナレバ、正シクハ坐セズシテ欵坐シタゾ、サテ、ソバナナル石ノ冷ナルニヨリカカツテ、一醉眠シタレバ、ホドナク醉モサメ

野膳隨行帳。華音發從俗。

野膳トハ、野鄙ナル膳ト云フ義ゾ、夷中ノ事ナレバ、膳羞モ京ノヤウニハナウテ、イヤシキトゾ、行帳トハ、草野ニ行イ

テ遊宴スルニハ、帷帳ヲ張リマハシテ座ヲ圍ムホドニ、行帳ト云フタゾ、華音トハ、華夏ノ音樂ト云フ義ゾ、天隱本ニハ、華陰トアルゾ、季昌本ニハ、華音トアルゾ、コレガヨイゾ、陰ノ字ハ、印寫ノ誤リデアラウゾ、天隱ノ改メラレタデハアルマイゾ、華陰ハ、野膳ニ對偶セヌゾ、吟味シテ見ヨ、從俗トハ、暢當ニ扈從シタル伶人ドモゾ、行イテ從フ時ハ仄聲ゾ、サルホドニ、ココニテハ仄ゾ、詩ノ意ハ、我が醉眠ノ醒メタルヲ見テ、召シツレタル伶人ドモガ、野膳ヲ調ヘテ、コナタヘト請ジタホドニ、又行帳ヲ張リタル處ヘ隨ヒ行キテ、各ト共ニ會飲シタゾ、サレバ、京ヨリ扈從シ來リタル伶人ドモガ、華夏ノ音樂ヲ起シテ、酒ヲススメタトゾ

數盃君不見。都已遺沈冥。

庖人モ馳走シ、伶人ドモモ樂ヲ奏シテ、酒ヲススムルホドニ、興ニ乘ジテ、初ノ沈醉ガ未ダシカジ

カモ醒メヌニ、又數盃シタホドニ、イトド醉フテ、目ガチロメキテ、カタガタタチノ帳中ニ連リ居レルヲモエ見ヌゾ、シカル上ハ、定メテ慮外ガ多カラシゾ、醉中ノ事チヤホドニ御免アレ、只今ノ慮外ノミナラズ、先ニ或ハ晚汀ニ漱ギ、或ハ軟莎ノ上ニ欵坐シテ、冷石ニヨリカカツテ醉眠シタモ、都テ是レ慮外ナリ、ソレヲモ御免候ヘトゾ、遺ハ縱也、又送也、沈ハ瀟灑也、又深也、ヤルトハ、コチヨリアナタヘ遺ハスタ云フゾ、沈冥トハ、目モ心モクラクラトナルヲ云フゾ、目モ見エヌヤウナル事ヲ、コナタヨリ各各ノ方ヘシカケタト云フ義ゾ、又ハ餘ニ酒ニアテラレテ、目モ心モクラクラトシテ、酩酊ニ堪ヘガタキホドニ、ソレヲ消遣センガ爲ニ、或ハ晚汀ニ口ソソギナド致シテ候ヨ、件ノ慮外ドモヲ御免候

へト謝シタゾ、コノ詩ハ、全篇底心ニ憂ヲ含ンデ作ツタゾ、憂心ノ醉ヘルガ如クナルヲ、酒ニ酔ヒタルニヨセタゾ、暢當ガ意ニ、吾ハ才名アル者ヂヤニ、果州ノ守護ニ遷サレタハ、口惜キ事ト、ツキゾネニ思フタゾ、ソノ憂ヲ忘レン爲メニ、軍士ドモヲ引キツレテ、出デテ野宴シタゾ、一ノ句ノ酒渴モ、眞實ノ酒デハナキゾ、憂心ガ燃ユルヤウナルヲ、酒渴ニヨセタゾ、二ノ句ニ、漱^ニ晚汀ト云フモ、憂ヲ洗フト云ハシタメゾ、サテ、三ノ句ニ軟莎坐ト云フタモ、憂心ガタヘガタキホドニ、暫ク坐シテ心ヲ靜メタゾ、醉フテ坐シタデハナケレドモ、酔ヒタル體ニモテナシタゾ、四ノ句ニ醉眠醒ト云フタハ、少シ憂ノ消シタルヲ云フゾ、末ノ四句モ、憂ヲ含ミタゾ、野膳ト云フ中ニ、京ニ在ラバ、是ノ如キ賤シキ膳羞ハ受ケマジキモノヲト云フ意ガアルゾ、華音ト云フ中ニ、華夏ノ音樂ヲコノ果州ノ邊ニテ聞クコトハ、思ハザリキノ事ト云フ意ヲ含ミタゾ、數盃君不見トハ、少シ憂ヲ忘レタレバ、又憂ガ生ジテ、心モ暗ニナツタト云ハシタメゾ、都已遣^ニ沈冥トハ、前ニ晚汀ニ漱ギ、軟莎ニ軟坐シ、冷石ニ醉眠シタハ、都テ是レ憂心沈冥ヲ消遣センガタメニシタト云ヒ收メタゾ、

●題江陵臨沙驛樓

司空曙

履歷ヲ考フルニ、司空曙、德宗貞元中人也、又才子傳ニ曰ク、自流^ニ寓長沙^ニ遷^ニ謫江右^ニ多結^ニ契雙林^ニ暗傷^ニ流景^ニト云ヘリ、イカサマニ、謫遷セラルル時ニ、江陵ヲ通ルトテ、臨沙驛ニテ、コノ詩ヲ作シタル者ゾ、
江天清くして更に愁ふ、風柳江樓に入る、雁は楚山の晚を識り、蟬は秦樹の秋を知る、淒涼多くは獨醉、零落半は同游、豈に復た平生の意ならむや、蒼然たり蘭杜の洲、

江天清更愁。風柳入江樓。

コノ二句ハ奇健ナル者ゾ、言フハ、折フシ秋ノ頃ナレバ、イトド清絶ナル地チヤニ、秋天ノ晴レタルガ故ニ、江水モ殊更ニ清キゾ、ソレニツケテモ、客愁ガ生

ジタゾ、ナゼニト云フニ、柳枝ガ秋風ニ吹カレテ、江樓ノ中マデニ入ルヤウニ見エタゾ、コノ柳モ、ヤガテ憔悴トカシケント思フ故ニ、サ
 雁識楚山晚。蟬知秦樹愁。
 言フハ、鴈ヤ蟬ナドノ鳥蟲ノ類サへ、時節ヲ能ク知ルニ、況ンヤ、人トシテ時ヲ知ラザランヤト感ジタゾ、鴈ハ楚山ノ晚ヲ識リテ沙ニ宿スルゾ、コレハ、時ノ宜シキニ隨ヒタル者ゾ、蟬ハ秋ニナレバ時ヲ失フゾ、サルホドニ悲ムゾ、我モ蟬ノ如クニ、時ヲ失シタトゾ、江陵ハ、本ハ楚地ナルホドニ、楚山ヲ引キ用キタゾ、秦樹トハ、秦ノ時ニ種エタル樹ト云フ義ゾ、秦ノ時ニ、江陵ニ南都ヲ置キタルホドニ、サテマタ、秦樹ヲ引キ用キタゾ、唐ノ世モ、安祿山、史思明ナドガ亂ヲ起シテヨリ、次第二末ニ

淒涼多獨醉。零落半同游。

言フハ、我ハ流罪ノ身ナレバ、路ゾレモナク、又旅人ナレバ友モナキゾ、サルホドニ客愁ヲ忘レナラズ、暗ニコノ意ヲ含ミタゾ
 淒涼ト淒マジキマデゾ、サテマタ、昔ノ事ヲ思ヒ出ントテ、酒ヲ酌メドモ獨リ酔ヒタルバカリチヤホドニ、多クハ、淒涼ト淒マジキマデゾ、サテマタ、昔ノ事ヲ思ヒ出セバ、同游セシ人タチモ半ハ零落ト落チブレラレタゾ、コノ同游タチモ、我が如クニ愁ノミデゾアルラント思ヒヤリタトゾ、コノ二句ハ、拗語ノ法ヲ用キタゾ、獨醉多淒涼、同游半零落ト云フベキヲ、顛倒シテ右ノ如ク云フタゾ

豈復平生意。蒼然蘭杜洲。

言フハ、我ハ謫遷ノ身ナレバ、平生意ニ愁ヲ含ムバカリゾ、然ルニ、今ハマタ平生ノ意ヨリモ愁ガマシタゾ、ナゼニト云フニ、江陵ハ楚地ニテ水國ナルガ、ソノ水邊ノ洲ドモニ、芳蘭杜若ノ類ノ香草ドモガ滿チ滿チ蒼然タルゾ、コレヲ見テ、ムカシノ屈原ガ楚客ナリシ事ドモヲ思ヒアツメテ、愁ヒ悲ムホドニゾ、

已前共二首

●送耿山人遊湖南

周賀

南行越僧に隨ふ、舊業一池の菱、兩鬢已に雪を垂る、五湖歸つて習を掛く、夜濤柵鎖を鳴らし、寒葦船燈を露す、此を去つて更に無事ならば、却つて來ることは猶ほ未だ能はず、

南行隨越僧舊業一池菱

言フハ、コノ山人ハ江湖ノ僧ニ相伴フテ、湖南ノ方ヘ行カルゾ、シカラバ、コノ程、棲ミ給ヒシ別業ハ、舊業トナツテ棲ム人モナク、荒レハテテ、只ダ山人ノ種

兩鬢已垂雪五湖歸掛習

言フハ、コノ山人ノ湖南ヘ行カルル意ヲ推量スルニ我ハ早ヤ年ヨリテ、鬢髮方盡ク雪ノ如クニナリタホ

夜濤鳴柵鎖寒葦露船燈

言フハ、山人ノ湖南ヘ行キ著イテノ樂ヲ、豫メ推量シテ云フタラシタゾ、柵鎖トハ、魚ヲ取ルヤナ事ゾ、樹木ヲアミテ、ソレニ鎖ヲ付ケテ魚ヲトルヲ柵鎖ト云フゾ、言フハ、コノ山人、湖南ニテ漁人トナツテ、ヤナニテ魚ヲト

此去更無事却來猶未能

言フハ、長安ノアタリハ、ヤヤモスレバ、亂逆ガ起ルホドニ、山林マデニ忽

宿巴江

履歷ニモ、僧栖蟾ハ、大順中ノ人トバカリ記シタホドニ、出處ハ知レヌゾ、イカサマニ、遍參ノ時ニ、三峽ヲ

僧栖蟾

通ルトテ、巴江ニ宿シテ、コノ詩ヲ作シタルベキゾ、

江聲五千里、碧瀉瀉、絃よりも急なり、覺えず日又夜、いかでか人をして少年ならしめむ、一汀巫峽の月、兩岸子規の天、山影相伴ふに似たり、瀟に遮つて客船に到る、

江聲五千里瀉碧急於絃

言フハ、巴江五千里バカリノ間ハ、瀨ガ高クシテ、江聲ガ荒キゾ、

不覺日

又夜爭教人少年

言フハ、峽中ハ兩岸ノ山ガ高クシテ、日月ノ光ヲモ見ヌホドニ、晝夜ヲ知ラヌゾ、カクアル處ヲ舟ニテ通ルホドニ、頭ガ俄ニ白髮スルゾ、サテ、人ヲ少年ノママニシテ置クコトハ、イ

一汀巫峽月兩岸子規天

言フハ、コノ程ハ、一切ニ日月ノ光ヲモ見ナシテ、夜半時分ニ、アナタナル一汀ニ、巫峽ノ月ノ影ガ、僅カニ見エタゾ、ヤレ蟾シヤト思ヒタレバ

カデカア
ラントゾ

山影似相伴濃遮到客船

言フハ、前ノ悲シキ事ヲ點破シテノケタゾ、言フハ、前ニハ悲シク思ヒタレドモ、却ツテ思ヘバ、又面白キ興ガアルゾ、ソレヲ如何

ニト云フニ、山影ガ兩岸ニ相連リテ、又ソノ行先ヲモ遮ツテ、濃ナル客船ニイタリタルハ、サナガラ、我ニ相伴ヒタルガ如クデヤホドニゾ、季昌曰ク、荊州記、三峽七百里中、兩岸連山、略無缺處、重巖疊嶂、隱天蔽日、自非亭午及夜分、不見日月、トイヘリ、

已前共二首

按伯弱、分此而不著其說、惟此卷只四首、分而爲二者、以前兩首起句太重爲一例、後兩首起句稍輕、終篇均停爲一例、具如卷首所評、其意最爲明白、以是觀之、他可觸類而知矣、私ニ云フ、卷首評スルトコロトハ、絶句ノ始ノ三首ノ次ニ、共三首ト云フ處ヲ指シタゾ、ソコヲ見タラバ、已前共若干首ト

云フ意ハ知レウト云フ義ゾ、

結句

周弼曰、結句以意盡、而寬緩能躍出拘擧之外、前輩謂如截奔馬、言フハ、結句ヲバ意ヲ以テ云ヒ盡スガ干要ゾ、サウテ、句ノ體度ハ、寬緩トユルヤカニシテ、シカモ法度ノ外ニナドリ出デ、活潑潑地ナルガ好キゾ、死句デハカナフマイゾ、サルホドニ、故人ハ結句ノ體ヲ、奔馬ヲ截ルニタトヘタゾ、截トハ、タテキツテ留ムル意ヲ香象截レ流ト云フハ、流ヲタテキルノ義ヂヤホドニゾ、拘擧ハ、法度ト云フ義ゾ、法度ハ事物ヲ拘擧スルモノヂヤホドニゾ、擧ハ係也ト字訓ガアルホドニ、拘ノ字ト同ジキゾ、予所得獨此四首足見四十字二字不可放過也、予トハ周弼ガ自ラ稱シタゾ、四首トハ、皇甫冉以下四人ノ詩ヲ云フゾ、コノ四首ノ結句ガ、前ニ評シタル體ニ能ク協フタゾ、サルホドニ、四首足ト云フタゾ、四十字トハ、四首ノ結句ノ字數ヲ云フタゾ、八句體ノ詩ハ、一二ヲ起頭ノ句トシ、三四ヲ承處ノ句トシ、五六ヲ轉處ノ句トシ、七八ヲ合處ノ句トスルモノヂヤホドニ、五言八句ノ四首ノ結句ハ、都合四十字ゾ、サテ、コノ四十字ノ中ニテ、一字モステベキ字ハナキホドニ、不可放過ト云フタゾ、

送陳法師赴上元

皇甫冉

陳法師ハ教者法師ゾ、上元トハ、昇州ノ江寧郡中ノ縣ノ名ゾ、

延陵初めて講を罷む、建業去つて縁に隨ふ、翻譯多學を推す、擅場最も少年、衣を洗つて野水に逢ひ、食を乞うて人烟に向ふ、遍く南朝の寺を禮して、香を焚く古像の前、

延陵初罷講、建業去隨縁。

コレヨリ以下ノ四首ハ、結句ノ體ヲ專ニシタホドニ、一二ノ句ヨリ五六ノ句マデニハ、定マリタル體ハナキゾ、虛實ノ沙汰ニモアヅカラヌゾ、延陵ト云フ處ガ五ツアルゾ、注ニ見エタゾ、ソノ中ニテ、ココノ延陵ハ、潤州ノ延陵ゾ、ナゼニナレバ、皇甫冉ハ潤州人ヂヤホドニゾ、建

業ハ本集二ノ卷ニ見エタゾ、吳ノ時ノ建業ハ、唐ノ昇州ノ江寧郡ゾ、江寧郡ニ上元縣ト云フ處ガアルゾ、詩ノ意ハ、コノ法師、久シク潤州延陵ニ在ツテ經ヲ講ジタゾ、講終ツテ、又建業ノ方ヘ行イテ、祖越ノ縁ニ隨ツテ、講經シテ、衆生ヲ化度セシト云フタトゾ、翻譯推多學、擅場最少年、譯ハ陳ゾ、梵字ヲ翻シテ漢字ト作シテ陳說スルノ義ゾ、擅ハ專ゾ者ノ中ニテ、多學ナル師ヂヤト諸人ガ推シアガメタゾ、サテ、翻譯場中ニテハ、最モ少年ナレドモ、專一ナル師ヂヤト諸人ニ推量セラレテ、名譽ノ法師ヂヤトホメタゾ、

洗衣逢野水。乞食向人烟。

コノ二句ハ、延陵ヨリ建業ヘ行ク途中ノ受用ヲ、皇甫冉ガ豫メ推量シテ云フタゾ、言フハ、野水ニ逢フ處ニ

遍禮南朝寺。焚香古像前。

南朝ハ、絶句ノ中、江南春ノ詩ノ抄ニ詳ナリ、南朝ハ皆建業ニ都シ

テハ、衣ヲ洗ヒ、人煙ニ向フ時ニハ、行イテ食ヲ乞ハルベキトゾ、コノ二句ハ拗體ノ法ゾ、遍禮南朝寺、焚香古像前、南朝ハ、絶句ノ中、江南春ノ詩ノ抄ニ詳ナリ、南朝ハ皆建業ニ都シタゾ、南朝ノ時分ニハ、佛道ヲ信ジテ寺ヲ建テ僧ヲ度シタゾ、寺ガ七百餘マデアリタゾ、梁ノ末ニ、侯景ガ亂ノ時ニ焚蕩シテ、唐ノ時分ニハ、漸ク四百八十寺殘ツタゾ、詩ノ意ハ、コノ法師ノ皇甫冉ニ向ツテ云ハルヤウハ、我、建業ノ方ヘ行クナラバ、路次スガラ南朝ノ四百八十寺ヲ遍ク拜見シテ、サテ、古佛ノ像ノ前ニテ香ヲ焚イテ、法恩ヲモ謝セバヤト思ヒ候ト云ハレタゾ、ソノ詞ヲコノ結句ニ述ベタゾ、コノ結句ハ十字ナガラ、一一ニ意ガアルゾ、遍ト云フタハ、四百八十寺ヂヤホドニゾ、古像ト云フタハ、前朝ノ寺ノ佛像ヂヤホドニゾ、コノ外、字字ニ皆意ガアルゾ、コレヲ響字ト云フゾ、結句ハ字字ニ意アリテ、句ノ體ハ寬緩ナルヲ本トスルゾ、四百八十寺ヲ逐一ニ拜見セント思フタ機ハ、悠悠緩緩トシタル心地ゾ、サテ、結句ノ法ニ選ビタゾ、

送從弟歸河朔

李嘉祐

從弟ハイトコゾ、河朔ハ河北ト云フ義ゾ、コノ從弟ハ河北ノ人ゾ、李嘉祐モ河北人ナルガ、今長安ニ在リテ、從弟ノ故郷ヘ歸ルヲ送リタゾ、

故郷何可到。令弟獨能歸。
令ハ善ゾ、言フハ、我モ河北ノ人ナルガ、官ニ仕ヘテ長安ニ在リテ、故郷ヘハ歸ヘラヌナリ、サテ、意ニハ、イツカ故郷ヘ到ルベシト思フバカリナリ、然ルニ、我ガイトコハ善人ナルガ、只ダ一人思ヒ定メテ、ヨク故郷ヘ歸ラ

故郷何可到。令弟獨能歸。

令ハ善ゾ、言フハ、我モ河北ノ人ナルガ、官ニ仕ヘテ長安ニ在リテ、故郷ヘハ歸ヘラヌナリ、サテ、意ニハ、イツカ故郷ヘ到ルベシト思フバカリナリ、然ルニ、我ガイトコハ善人ナルガ、只ダ一人思ヒ定メテ、ヨク故郷ヘ歸ラ

諸將旌旄節。何人重布衣。

旄節、韻會ノ字

ルルトナリ、能ノ字ガ響字ゾ、時世ヲ見定メテ、能ク歸ルト云フ義ゾ
ノ注ニ云フ、旄節、今使者所擁之節、通作節、前光紀注、以竹爲之、柄長三尺、以旄牛尾爲其旄、三重トイヘリ、牛ノ尾ニテ作リタル旄ゾ、節、本ハ口ナルヲ、通ジテ節トナシタゾ、口ハ信ゾ、將軍ノ信ヲ示ス旄ナル故ニ旄節ト云フゾ、符節ノ節トハ、形ガ違ヒタゾ、柄ノ長サ三尺トアルホドニ、旄ノヤウナル物ゾ、本詩ノ注ノ意ニテハスマスゾ、サテ、詩ノ意ハ、今ノ世ハ、祿山ガ亂後ナル故、武士タチガ旄節ヲヒラメカシテ威勢ニ誇ルゾ、サテ、貧儒ノ布衣ノツレノ者ヲ重ンズル人ハナイゾ、誰人ニテカアラント云フタハ、畢竟ハ、布衣ヲ重ンズル人ハアルマイト云フ義ゾ、我ガ從弟ハ、ココヲ能ク見極メテ、能ク故郷ヘ歸ラルルトホメタゾ
空城流水在。荒澤舊村稀。
言フハ、故郷ノ河北ヘ歸リ著イテアリトモ、古シヘノ様ニハアルマジキゾ、祿山ガ亂入シテノ後ナレバ、城ハ空城デ、只ダ昔ニ變ラヌ者ハ、流水バカリナルベシ、サテ、澤ヤナドモ荒レハテテ、舊ト住ミシ人民ノ村ナドハ、トコロドコロニ稀
秋日平原路。蟲鳴桑葉飛。
平原ハ河北ヘ行ク路ゾ、秋ノ時分ニハ、平原ノアタリヲ通ラレベキゾ、然ラバ、蟲ノ鳴キテ淋シカラシ折フシニ、桑葉モ落チ

テ、客愁ヲ増スベキトゾ、畢竟ハ、小人ハ多クシテ榮華ニホコリテ、辯口ヲキキ、賢人ハ衰ヘテ、才智モ短カクナリ、世ニ用キラレズシテ零落シタルニタトヘタゾ、

喜 晴

李 敬 方

李敬方ハ、穆宗ノ長慶年中ニ、進士及第シテ、敬宗ノ朝ヲ歴テ、文宗ノ太和中ニ、台州ノ刺史ニ左遷セラレタゾ、コノ詩ハ、台州ニテノ作ゾ、

到台十二旬。一片雨中春。
十二旬ハ百二十日ゾ、言フハ、左遷セラレテ台州ヘ行キ著キシヨリコノカタ、百ノ身ニテハ、天氣ヨシトモ愁アルベキニ、況ンヤ百日ア

林菓黃梅盡。山苗半夏新。

言フハ、三春九十日ハ、雨ガ降りツヅキテ、四月

ノ末ツカタニ晴レタゾ、サテ、林中ナル菓子ノ黃梅ハ、雨中ニ盡キタゾ、今日晴ニ乗ジテ喜ビ見タレバ、山中ニアル半夏草ノ苗ガ新ニ生ジタトゾ
陽鳥朝展翅。陰魂夜飛輪。
陽鳥ハ日ゾ、陰魂ハ月ゾ、言フハ、陽鳥ノ日ガ今朝翅ヲ展ベテ飛ビ上リタレバ、今夜ハ陰魂ノ月ガ輪ヲ何ゾト云フニ、天氣ガ晴レテ雲物ガナキ故ニ、分明ニ天ノ中央ニ在ル北辰ヲ見タホドニゾ、コレハ、禁中ニテ讒人トモヲ退ケラレタル由ヲ聞キテ、雨ノ晴レタルニヨソヘテ、喜ビテ、

坐喜無雲物。分明見北辰。

言フハ、今夜ハ、謫處ノ台州ノ守護處ニ坐ナガラ喜ナ生ジタゾ、

カク云フタツ、

●茅山

杜荀鶴

茅山ハ潤州ノ延陵縣ニ在ルゾ、茅葦ト云フ人ガ白日ニ昇仙シタル舊跡ゾ、今杜荀鶴、コノ山ニ上リテノ作ゾ、
歩歩山門に入れば、仙家鳥徑分る、漁樵到らざる處、麋鹿自ら羣を成す、石面水を进出し、松頭雲を穿破す、道人星月の下、
相次いで茅君を禮す、

歩歩入山門。仙家鳥徑分。

言フハ、今我歩ヲ移シテ、コノ茅君ノ祠ノアル處ヲ尋ネテ、山門ノ中ヘ入リタレバ、仙家トモ云フベキ祠ガアルゾ、サテ、ソコヘ行ク徑ニハ、人跡ハナウテ、鳥

ノ通フ徑ガアルゾ、ソノ鳥徑ヨリ分レテ、茅君ノ祠ヘ行ク徑ガアリツルトゾ

漁樵不到處。麋鹿自成羣。

言フハ、コノ茅山ハ、水中ニ在ル山ナルガ、ソノ麓マデハ漁樵ノ者ドモモ行クゾ

石面迸出水。松頭穿破雲。

言フハ、茅山ノ絶頂ニ立ツタル茅君ノ祠ノアタリヲ行キテ拜見シタレバ、心モ及バザル清絶ノ境ヂヤゾ、サテ、石面ヲ見タレバ、水ヲホドバシラシメ出シ、サテ

松ノ樹頭ハ、高クシテ雲ヲ穿破スルバカリヂヤトゾ、
畢竟、山ノ清淨ニシテ高キヲホメントテ、カク云フタツ

道人星月下。相次禮茅君。

言フハ、コノ茅山ニハ、道士ドモ、ソコバク多カリシ

ガ、星月ノ下ニテ、位ヲ相次イデ、茅君ヲ列拜シタトゾ、我モ、アノ道人ト一ツレニナリテ、茅君ヲ拜シテ、仙道ヲマナビタイト羨ミタト云ハヌバカリゾ、

已上共四首

詠物

周弼曰、隨寓感興而爲詩者易、寓ハ寄ゾ、我が意ノヨルトコロニ隨ツテ、ソノ興ヲ感ジテ詩ヲ作ルコトハ、タヤスキモノゾ●驗物切近而爲詩者難、驗ハ證也ト注シタゾ、驗物トハ、萬物ノ中ニテ、何物ナリトモ、一物ヲトツテ、ソノ證據ヲタダシクシテ、切近トチカチカト理ノ聞コユル様ニ詩ヲ作ルコトハ、成リ難キモノゾ、切モ近也ト訓ジタホドニ、切近ト云フハ、チカシト云フ義マデゾ●太近則陋、太遠則疎、言フハ、物ノ名ヲシルスコト太ダ近ケレバ、俚語ノ様ニテ陋キゾ、サテ又、太ダ遠キトキハ、理ガ聞コエヌホドニ、物ノ名ヲシルスコトガ疎意ナゾ、サルホドニ、餘リニ遠カラズ、餘リニ近カラヌ様ニ、遠近ノ間ニテ物ヲ詠ジテ、詩ヲ作りタガ好キゾ、ソレハ成リ難キゾ、總ジテ、詠物ト云フハ、天ニシテハ、日月星辰露雲霞ノタグヒ、地ニシテハ、山川草木ノタグヒ、ソノ外、有情非情ノ詠歌シツベキ者ヲ、何ナリトモ、一物ヲトリトメテ、ソノ證據ヲシルシテ詩ヲ題スルヲ、詠物ト云フゾ、日本ニテノ題ノモノノ事ゾ、題ノモノノ詩ヲ八句ニ作リタラバ、三首ノ詩歌ヤナドノ様ニ、料紙一枚ニ書クベキゾ、絶句ナラバ、短冊ニ書スベキゾ、サモナケレバ、短尺ノ短ノ字ガ聞コエヌゾ●此皆於和易寬緩之中而精切者也、此トハ、儲光羲以下、皎然マデノ詩ヲ指シタゾ、コレ等ノ詩ハ、何レモ詞ガ和ライデ難キコトモナク、ヤスヤスト理ガ聞コエテ、シカモ、寬緩トユルヤカナルガ中ニシテ、サテ、精一ニ理ニ近キ者ゾヤト云フ義ゾ、サルホドニ、詠物ノ體ノ手本ニセヨトテ、一體ヲアゲテ、後人ニ示シタゾ、

●山中流泉

儲光羲

山中に流水あり、借問すれども名を知らず、地に映じて天色を爲し、空に飛んで雨聲を作す、轉じ來つて深澗に滿ち、分れ出づれば小池平なり、恬淡人の見るなし、年年長しへに自ら清し、

山中有流水。借問不知名。

借問トハ、カリニ問フト云フ義ゾ、字書ニ、借ハ假也ト注シタゾ、言フハ、山中ニ靈ナル流泉ガアルヲ、始メテ見タゾ、カク靈ナル泉ニ名ノナキコトハ、ヨモ

アラジト思フテ、山中ノ者ニカリソメナガラ問ヒタレドモ、誰モ名ヲ知リタル者ハナイトゾ、名ヲ知ラズト云フニテ、山中ノ流泉ノ理 映地爲天色。飛空作雨聲。 映地トハ、水ノ緑ナル色ト、地ニアル草木ノ青キ色ト互ニ相照ラスヲ云フゾ、増韻、映ノ字ノ註ニ、明相照也トシタゾ、飛

空ト云フヨリ見レバ、コノ流泉ハ、瀑布ト聞コエタゾ、詩ノ意ハ、コノ瀑泉ハ水色ノ緑ナル色ガ、山中ノ草木青トシ茂リ合フタル地ノ色ニシテ、相映ジテ青天ノ色ノ様ニ見エタゾ、サテ、ソノ泉ガ高處ヨリ落チ來ルホドニ、虚空ヨリ飛ビ來ルカト疑ハレテ、又ソノ聲ハ、雨ノヤウニ 轉來深澗滿。分出小池平。 轉來トハ、廻轉シ來ル義ゾ、轉ノ

聞コエタゾ、コノ二句ハ見聞ノ二ツヲ述ベタゾ 字ヲメグルト訓ジタゾ、言フハ、コノ流泉ガ山中ノ木ノ間、石ノ間ヲ、アナタコナタト廻リメグツテ、深澗ノ中へ流レ入りタレバ、底モナキト覺シキ澗ニモ、水ガ十分ニ滿チタゾ、サテ、ソノ澗ノ水ガアフレテ、四方ニ分レ出デタレバ、山中ニアル小池ドモマデニ、水ガ一盃滿チ滿チテ岸ト 恬淡無人見。年年長自清。 恬ハ安ゾ、コノ二句ハ、深澗ノ水ヲ云フタゾ、詩ノ意ハ、コノ山中

平ニアルトゾ 起ラズ、イカニモ恬淡ト安ク滿チタゾ、廣韻ニ、滔淡、水滿貌也ト注シタゾ、カクハアレドモ、山中ノ水ナレバ、見ル人モナキゾ、高源ヨリ流レ來ル水ナレバ、イカナル早ニモ澗ルルコトナクシテ、年年イツモノヤウニ、自ラ清潔ニシテアルトゾ、自ト云フハ、澗ヲ治ムル人ハナケレドモ、水ノ性ガ自ラ清潔ナト云フ義ゾ、コノ詩ハ、變風ノ體ゾ、流泉ヲ以テ己ガ智ニ喩ヘ、山中ヲ以テ、己ガ世ニ用キラレズシテ、隱居シテ年月ヲ送ルニタトヘタゾ、

冷井

孫欣

孫欣ハ、履歷ニモ傳ガナキゾ、イカサマニ、禁中ノ新井ヲ賀シタルト見エタゾ、 仙闌初鑿井。雲液沁成泉。 仙闌トハ、禁中ヲ指シタゾ、液ハ津ゾ、雲表ノ露ヲ云フゾ、言フハ、禁中ニ初メトナリタトゾ、天隱ノ注ニハ、雲ノ井中ヨリ出ル故事ヲ引カレタゾ、サレドモ、雲表ノ露ト見タガ好イゾ、露ヲ玉液トモ云ヒ、靈液ナドトモ云フタホドニゾ 色湛青苔裏。寒凝紫綆邊。 綆ハツルベノ索ゾ、言フハ、雲液ガヒタシテ泉トナリタル其色ノ碧ナルガ、石ダタミニ生ジタル青苔ノ裏ニ湛ヘテアルゾ、ソレヲ紫絲ニテ作りタル、ツルベ索ニテ汲メバ、水氣ノ冷カナルガ、ソノ繩ニシ

ミツキ 銅瓶向影落。玉鬢抱虛圓。 言フハ、銅瓶ニテ水ヲ汲ミアグレバ、ソノ影ガ井ノ底ニ在ルゾ、サテ、ク白キ石ニテタタミタル疊石ゾ、言フハ、井ヲ圓クホリテ、ソノマハリヲ石疊ニシタルホドニ、ソノ中ノ水ノナキ處ハ虚ゾ、ソノ虚ヲ取リマハシ 永賴調神像。堯時奉萬年。 神像トハ、井ノ神ノ像ゾ、龜ヤ井ナドニモ神ガアルゾタルヲ、抱クト云フタゾ 井ノ神ヲ井ノ君ト云フゾ、堯ノ井ヲ掘ラレタル事ハナケレドモ、禁中ヲ祝シテ、ヨロヅ堯年ト同ジカラント云フ意ニ引キ用キタゾ、言フハ、禁中ノ井ニ神像ヲ作りテ置キテ永ク井ヲ守リ給ヘトタノミタトゾ、サテ、堯ノ時ニモ井ノ神像ヲ作りテ祈リケレバ、萬年ノ壽ヲ堯ヘ奉リタル事ガアル

ト云ヒナシテ、新井ヲ賀シタゾ、

●僧舍小池

張鼎

引いて白雲の根より出で、潺湲として蘇痕に漲る、冷光砌錫を掃かし、疎影枝猿を露はす、淨は霜に潤む葉を帯び、香は藥を洗ふ源に通ず、貝多文字古りたり、宜しく此中に向つて翻すべし、

引出白雲根。潺湲漲蘇痕。

白雲根トハ、石ヲ云フゾ、潺湲トハ水ノ流ルル貌ゾ、言フハ、コノ小池ハ白石ノ間ヨリ出デテ、潺湲トナガレテ、蘇ノ生ジタル處ニ漲ルトゾ、蘇痕ト云フ二字ニ

テ、小池ヲ形容シタゾ

冷光搖砌錫。疎影露枝猿。

言フハ、僧舍ノ事ナレバ、客僧ヤナドガ來テ、砌下ニ錫杖ヲ掛ケテ置ケバ、ソノ冷光ガ小池ノ水ニ移ルゾ、波ガ動ケバ、錫杖ガ搖クヤウ

ニ見ユルゾ、又疎木ノ影ガ池ニウツレバ、ソノ枝ニ宿シタル猿モ、水中ニアルヤウニ現ハレテ見ユルゾ

淨帶凋霜葉。香通洗藥源。

言フハ、コノ池水ノ清淨ナル上ニ、霜ニシボミタ

ル木ノ葉ガ落チテカカリタルヲ添ヘタルホドニ、イトド淨ク見ユルゾ、サテ、コノ池ノ水ハ本ヨリ香シキニ、又源ニテ僧タチノ藥ヲ洗ハルル處ト相

貝多文字古。宜向此中翻。

貝多ヲ、漢ニハ葉ト翻譯シタゾ、西陽雜俎ニ曰ク、貝多出摩伽陀、西國土用以寫經、其樹長六七丈、

經冬不凋、此樹有三種、一者多羅婆力叉貝多、二者多黎婆力叉貝多、三者都闍婆力叉貝多、多羅多黎並書其葉、都闍一色取其皮書之、貝多婆力叉者、皆梵語、貝多、漢翻爲葉、婆力叉、漢翻爲樹、多羅樹即婆力叉、貝多之一也、西域書經、用此三種皮葉、若能保護、亦得五六百年、トイヘリ、詩ノ意ハ、貝多ニ書キタラン經ノ文字ノ古リタルヲ、コノ池中ニ於テ翻譯シタラバ、ヨカルバシトゾ、ムカシ、謝靈運、白蓮池ノ邊ニテ、涅槃經ヲ翻譯シタルコトヲ暗ニ用キタゾ、

●聞 笛

戎昱

夜に入つて歸るを想ふこと切なり、笛聲寒更に哀し、愁人聽くを願はず、自ら枕邊に到り來る、風起つて寒雲斷え、夜深くして關月開く、平明獨り惆悵す、落ち盡す一庭の梅、

入夜思歸切。笛聲寒更哀。

戎昱ハ辰度二州ノ守護トナリタルコトガアルホドニ、ソノ時分ノ作ナルベキゾ、言フハ、謫居ノ身ハ、イツモ哀シキニ、今夜ハトリワケ、故郷ヘ歸リタク思フコト

切ナゾ、ナゼニナレバ、笛ヲ吹クヲ聞キケレバ、ソノ聲ガ凄ジクシテ、特更ニ悲シケレバナリ

愁人不願聽。自到枕邊來。

言フハ、我ハ愁人チャホドニ、笛ヲ聞カンコトハ、少シモ願ハザ

リシカド、笛聲ガ自然ニ枕ニ入り來リタゾ、己ムコトヲ得ズシテ聞イタトゾ

風起塞雲斷。夜深關月開。

言フハ、宵ノ頃ニ、何人ヤラン、笛ヲ吹キケルガ、ソレヨリシテ、俄ニ林木モ震ヒテ

風ガ起リタゾ、コシヂノアタリニ連リタル雲モ、タエダエニナリタゾ、サテ、夜ガフケタレバ、關山ノアタリニ、月ガ開イテ見エタゾ、コノ時ニモ猶ホ吹クゾ、アレハ

平明獨惆悵。落盡一庭梅。

言フハ、夜明ケテ、我ヒトリ最モ惆悵ト大歎キテシタゾ、ナゼ

ニト云フハ、我が謫處ノ一庭ノ梅ヲ、皆吹キ落シタホドニトゾ、落梅ノ曲ハ、注ニ委シキゾ、

●感 秋 林

姚倫

試みに東林に向つて望んで、方に知る節候の殊なるを、亂聲千葉下り、寒影一葉孤なり、秋天の雁を蔽はず、夜月の鳥を驚飛す、霜風と春日と、幾度か榮枯を遣る、

試向東林望。方知節候殊。

節ハ四節、候ハ七十二候ゾ、言フハ、コノ秋モ早ヤ暮ルルト云フホドニ、サラバトテ、我が住居ノ東林ヲ何トアルゾト思ヒテ、試ニ望ミタレバ、林木モ落葉シテ、

時節モ殊ナル體ガ見エタゾ

亂聲千葉下。寒影一巢孤。

言フハ、時候ガ推シ移リテ、林間ヲ聽ケバ落葉ノ聲ガ亂レテ聞コユルゾ、ソノ葉、千萬葉、木ヨリ下ルトゾ、林木ガ皆落チタレバ、鳥ノ

巢ガ一ツアルゾ、寒影ハ巢ノカゲゾ

不蔽秋天雁。驚飛夜月鳥。

林ニ葉ガナキホドニ、秋天ノ鴈ノ連リタルヲ蔽ハヌゾ、サテ殘リタル葉ガ、ソヨメキテ、夜月ノ鳥ヲ驚飛セシムルトゾ

霜風與春日。幾度遺榮枯。

言フハ、秋ノ末ノ霜風ハ、コノ林ノ榮ヲアナタヘヤリ、春日ハ、コノ林ノ枯ヲアタヘヤリツナドシテ、互ニ榮枯ヲヤルトゾ、

●杏 花

溫 憲

團雪上晴梢。紅明映碧寥。團雪ハ杏花ノ白色ナル者ヲ云フ、紅明ハ紅杏ヲ云フタゾ、言フハ、杏花ノ白キハルニ相映ジタトゾ、寥ハ、天ノ高クシテ、ハルカナルヲ云フゾ

團雪上晴梢。紅明映碧寥。

團雪ハ杏花ノ白色ナル者ヲ云フ、紅明ハ紅杏ヲ云フタゾ、言フハ、杏花ノ白キハルニ相映ジタトゾ、寥ハ、天ノ高クシテ、ハルカナルヲ云フゾ

雨ノヤミタル朝ニ、杏村ヲ眺メバ、花ノ白ク

店香風起夜。村白雨休朝。

杏ノアルアタリノ店屋ナドニ宿シタル時ニ、風ノ吹ク夜ニハ、杏ノ香ガ店屋ノ中ヘ薰ヒ來ルゾ、又

シテ多キガ故ニ、村ガ皆白妙ニ見ユルトゾ

靜落猶連蒂。繁開正滿條。

言フハ、或樹ヲ見レバ、風ノナキ時分ニテハアレドモ、盛リガ過ギ

テ、花ドモガ自ラ靜ニ落ツルガ、盡クハ落チモヤラデ、猶ホモ、ホゾニ連ツテ落チルモアリ、又或樹ヲ見レバ、今ヲ盛ニ開キテ、條ニ滿チタルモアルトゾ

澹然閒賞久。無奈似嬌嬌。

言フハ、我が意ヲ靜メテ、水ノ澹然トタタヘタルヤウニシテ、閑ニコノ花ヲ賞スレバ、久シク見ルホド、イヨイヨ見

事ナルゾ、何トモセズヤウモナウ、見事チヤガ、何ニ例フベキゾナレバ、昔ノ董嬌嬌ト云ヒシ人ニ似タトゾ、

●孤 鴈

崔 塗

幾行歸塞盡。念爾獨何之。言フハ、ハヤ春モ漸ク過グル頃ナレバ、イクソバク行クト云フ數モ知レズ、餘ノハ遅レタゾトナリ、又汝ハ獨リ何處ヘ行クゾト、鴈ニ問フタゾ

幾行歸塞盡。念爾獨何之。

言フハ、ハヤ春モ漸ク過グル頃ナレバ、イクソバク行クト云フ數モ知レズ、餘ノハ遅レタゾトナリ、又汝ハ獨リ何處ヘ行クゾト、鴈ニ問フタゾ

暮雨相呼疾。寒塘欲下遲。

言フハ、暮雨ノ時分ニ、友ヲ疾ク來レトテ、呼ベドモ來ラヌゾ、シカレバ、寒塘ヘ下リテ宿セント

渚雲低暗度。關月冷相隨。

言フハ、友ガ來ラザルホドニ、渚ニ暮雲ノ垂ルルヲ待ツテ、暗中ニソロリト沙ニ下ツテ宿シタト

未必逢繒繖。孤飛自可疑。

繒繖ハイグルミナリ、箭ノ先ニ網ヲ付ケテ、鳥ヲイグルミテ捕ルモノナリ、言フ

ミニ逢ハズトモ、疑フ心多カルベシトゾ、

雨

僧皎然

片雨簷楹。煩襟四坐清。霏微として夢隴を過ぎ、蕭瑟として莎城に傍ふ、靜に愛す花に和して落つるを、幽に聞く竹に入る聲、朝に觀て興盡くることなし、高く詠じて閒情を寄す、

片雨拂簷楹。煩襟四座清。

言フハ、一片ノ雨ガ降り來ツテ、簷ヲ拂ヒタレバ、只今マデ暑サニ犯サレテ、胸襟モワヅラハシケルガ、タチマチニ、四方ノ座マデニ、清涼トナリタトゾ

霏微過麥隴。蕭瑟傍莎城。

言フハ、コノ雨ハ、大雨ニテハナクシテ、霏微ト飛ブコト、スコシキニシテ、麥隴ノ邊ヲ過ギ、又ソノ聲ハ蕭瑟ト物スゴクシテ、莎城ノアタリニ降リタトゾ

靜愛和花落。幽聞入竹聲。

雨中ニテ、シカモ、日ノ永キ頃ナレバ、我方心モ、一入シヅカナゾ、サテ、靜ニ坐シテ細雨ノ花ニ和シテ落ツルヲ愛シタゾ、ソレノミナラズ、雨ノ竹ニ入ル

聲ヲモ幽ニ

聞キタトゾ

朝觀興無盡。高詠寄閒情。

言フハ、今日ハ朝ヨリシテ暮ルルマデ、雨ヲ見ツルガ、吟興ハ更ニ盡クルコトガナイゾ、サラバト思ヒテ、タカラカニ朗詠シテ、我が

閒情ヲ雨ニ寄セタトゾ、

已前共八首

卷三之五終

(工場製本)

大正二年六月廿三日印刷
大正二年六月廿六日發行

唐詩選三體詩典附
正價金壹圓

編者 久保天隨

發行者 大橋新太郎

印刷者 高橋季吉

印刷所 博文館印刷所



發行所

東京市日本橋區本町三丁目

博文館

館

(振替貯金口座東京二四〇番)

文學博士 三島 毅先生
文學博士 服部宇之吉先生
文學博士 高瀬武次郎先生

文學士

監修 久保天隨先生校訂

中村不折畫伯裝幀

校註 漢文叢書

冊二十全 (行刊期一第)

空押及色模様摺込
天金縁頗美裝
菊判總クローズ上製
正價 冊毎 金壹圓
小包料各拾貳錢

漢學の我邦に行はれしことすでに千餘年、維新以後強弩の餘勢、時に魯編を穿つ能はざるに似たりと雖も、そは一時偶然的現象にして頃る復活の好氣運に向ひしは世人の齊しく認むる所、その故他なし、漢學は東洋獨特の社會的心象を發揮したるものにして、その中不朽の教訓あり。少くとも吾人が修養の上に斷じて之を缺く可らず漢籍の講習、長しへに廢すべからず。本叢書は、重要な典籍を網羅し、古賢が辛苦の餘に成りし平易周匝なる國字解を以て之に充て細密なる注意の下に字句を訂正したるもの、庶幾くは以て定本となすを得べく、その價の至廉なるは聊か家國の爲に盡さんとす本館の微志乃ち然るのみ。

特長

ホイント新活字 嚴密 正確の校訂
精良堅緻の紙質 鮮明優美の印刷 至廉無比の價格

第四編 唐詩選

最新刊

第七書 卷上

紙數一二七六頁

紙數九九二頁

第三版 第一編

論語

紙數一一七〇頁 (本號に限り) 郵稅拾六錢

論語十卷、即ち是れ聖人の大教、治化の矩準にして眞に最至上極宇宙第一の書ともいふに可かず。これを讀まざるものは人に非ず少くとも東洋の人に非ず、而してこれを讀む人は本書に頼るを尤も便なりとす。

第三版 第二編

孟子

紙數一二四六頁 (本號に限り) 郵稅拾六錢

周孔の心胸を明かにするに儀秦の齒舌を以てす、卓識明辯能く萬世を蘇醒せしむべし。孟子の不朽なる豈に當に聖門の忠臣羽翼なるのみならず、本書は注解精到、平易快利、簡傑の面貌宛として生けるが如き思あらしむ。

新刊 第三編

大學中庸

紙數七二八頁

時事新報評 收むる所毛利貞齋の「重訂新添四書但諺抄」中より大學と中庸とを採り又別に勝田祐義の「古文孝經國字解」をも添えて一冊とす、例により久保文學士の嚴密なる校訂を經、印刷裝幀共に美、漢文自修者の好伴侶也。

第一卷	論語	目撰	定書	著者
第二卷	孟子	目撰	定書	著者
第三卷	大學中庸	目撰	定書	著者
第四卷	唐詩選	目撰	定書	著者
第五卷	七書	目撰	定書	著者
第六卷	七書	目撰	定書	著者
第七卷	蒙求	目撰	定書	著者
第八卷	詩經	目撰	定書	著者
第九卷	小思	目撰	定書	著者
第十卷	近思錄	目撰	定書	著者
第十一卷	古文真寶	目撰	定書	著者
第十二卷	古文後集抄	目撰	定書	著者

文學博士 幸田露伴先生 塚原澁柿先生校訂 藤島武二畫伯 橋口五葉畫伯

文藝叢書

冊二十全 (行刊期一第)

空押色刷模標天金線製本頗現麗
藥判總クローリス上製
正價冊每金壹圓
小包料各拾貳錢

既刊書目
第一編 忠臣藏文庫 紙數九二〇頁
第二編 椿説弓張月 紙數九〇六頁
第三編 西鶴文集 紙數八二四頁
第四編 膝栗毛全集 紙數八〇〇頁

【第一編】は春水作いろは文庫、京傳作忠臣水滸傳、竹田出雲の假名手本忠臣藏及び歌阿彌作の四十七石忠清計を収め【第二編】は馬琴の名著として世に傳へらるゝ所の椿説弓張月俊寛僧都鳥物語、頼家阿彌傳、怪鳥傳を収めたるものにて【第三編】は元祿文學の巨擘たる西鶴の文集にて作中の傑作は日本永代藏、本朝二十不孝、武道傳來記外九篇【第四編】は滑稽文學の親玉十返舎一九が傑作、道中膝栗毛、正續兩篇の外に堀の内及雜司ヶ谷紀行並に馬士の歌謡を添えたるもの各編書宿の嚴密なる校訂を経たる近時出版界の珍籍なり。

目書行刊	第一卷	第二卷	第三卷	第四卷	第五卷	第六卷
忠臣藏文庫	忠臣藏	西鶴文集	西鶴文集	膝栗毛全集	俠客全集	演劇脚本集
忠義復讐傳	南里見八犬傳(前編)	南里見八犬傳(中編)	南里見八犬傳(後編)	世話淨瑠璃名作集	紀行文編	
塚原	幸田	幸田	幸田	幸田	幸田	幸田
澁柿	伴田	伴田	伴田	伴田	伴田	伴田
第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一

現代諸名家翻譯

西洋文藝叢書

冊二十全 行刊期一第

佛國フロオベール作 文學士生田長江君譯

西洋文藝叢書 第二冊

サラムボオ

最新刊

表紙空押及色模標摺込
天金線製本堅牢頗麗
菊判總クローリス上製
正價冊每金壹圓
小包料各拾貳錢

露國クウプリン作 昇曙夢君譯
西洋文藝叢書 第一冊
決闘 附 生活の河

(版七第評好)

「決闘」は現ロシア文壇の權威クウプリン氏の學生の心血を凝らした傑作なり。主題は近代思潮を背景に、年若き少尉と美しき中尉夫人との戀を經緯として、某軍隊の暗黒面を露わに於ける。期せずして露國軍隊の病所に觸れ、日露戦争に於ける敗戦の主因を悉く描き出し、卷末の附録生活の河に於ては亦た同作家の短編中の白眉なり。(紙數五七〇頁)

近世文藝叢書	西洋文藝叢書	決闘
▲決闘 露クウプリン 昇曙夢	▲サラムボオ 佛生田長江	▲決闘 露クウプリン 昇曙夢
▲廣野の道 埃シユニツ 楠山正雄	▲死人の家 露ドストエフスキイ 片上 伸	▲死より強し 佛ツモツサンバ 中村星湖
▲快樂兒 佛イグナツオ 森田草平	▲氷島の漁夫 佛ヒョウキョウ 吉江孤雁	
	▲死より強し 佛ツモツサンバ 中村星湖	
	▲死より強し 佛ツモツサンバ 中村星湖	

文學博士 本居豐穎先生 校訂
文學博士 井上頼圀先生 校訂
文學博士 萩野由之先生 校訂
關根正直先生 校訂
池邊義象先生 校訂
藤島武二畫伯 意匠
橋口五葉畫伯 裝幀

校註 國文叢書

二十全 (行刊期一第)

第七版 校註國源氏物語 上 時事新報評 此大冊で用紙も装幀も行届いてなるは丈けのものに讀書子に忠なるものである。

第五版 校註國源氏物語 下 大阪毎日新聞評 印刷の鮮明校訂の嚴密價格の低廉なる三特色を有し教科用として實用に可也又之を書架裝飾となす俱に可也

最新刊 校註國太平記 上 東京日々新聞評 本版を挿入し讀者の便に於て一頁の三分の一の上段を留めて空にして讀むに便する體に編み替へて之を見る可し

源氏物語 附 革 草 上 卷	竹取物語 伊勢物語 徒然草	水鏡 今鏡
源氏物語 附 紫家七論 下 卷	枕草子 徒然草	榮花物語
太平記 上 卷	源平盛衰記 上 卷	增鏡
太平記 下 卷	源平盛衰記 下 卷	池の藻屑 松蔭日記
曾我物語 上 卷	義源平盛衰記 上 卷	字治拾遺物語 月のゆくへ
曾我物語 下 卷	義源平盛衰記 下 卷	蜻蛉日記 たりかへば
保元物語 上 卷	源平盛衰記 上 卷	唐物語 淡中納言物語
保元物語 下 卷	源平盛衰記 下 卷	大和物語 海道記 東關紀 行記
平家物語 上 卷	義源平盛衰記 上 卷	
平家物語 下 卷	義源平盛衰記 下 卷	

空押及色模摺込製本魂麗
菊判總クロース上製
正價 册每 金壹圓
小包料 各拾貳錢

校註 和歌叢書

全六册 (行刊期一第)

校訂嚴密 補正適確 選出公平
用紙純良 印刷鮮美 價格至廉

既刊書目
萬葉集略解 上卷 三版
萬葉集略解 下卷 好評
八代集 最新刊

萬葉集我國最古の古典にして、千古不滅の生命を有する歌集なり。我が國民は萬葉之を讀み、萬葉之を讀まざるべからず。然りと雖も、所謂萬葉假字の書式讀み易からず、古語解も簡明便利なるは、橋千隆の萬葉略解とす。しかも萬葉略解には誤謬少しとせし、萬葉集二十卷を、校註和歌叢書第一第二兩篇に取めて刊行せらる。和歌を詠せらるゝ士女はもとより、我等日本國民の萬人讀まざるべからず、萬葉讀まざるべからざる好著といふべし。

發行書目
(1) 萬葉集略解 卷上
(2) 萬葉集略解 卷下
(3) 八代集 卷上
(4) 八代集 卷下
(5) 三十六人集
(6) 名家歌選

空押及色模摺込天金線麗無比
菊判總クロース上製
正價 册每 金壹圓
小包料 各拾貳錢

文學博士 佐々醒雪先生校訂 高村眞夫畫伯
巖谷小波先生校訂 意匠裝幀

俳諧叢書

特色 校訂正確 內容豐富 裝幀雅麗 印刷鮮明 用紙純良 價格至廉

全六册 (行刊期一第)

空押及色模樣天金縁頗高雅
菊判總クローズ上製
正價 每册金壹圓
小包料各拾貳錢

- (目書行發)←
- 第一編 俳諧註釋集 上卷 一册
 - 第二編 俳諧註釋集 下卷 一册
 - 第三編 名家俳句集 附合集 一册
 - 第四編 俳論作法集 一册
 - 第五編 名家俳文集 一册
 - 第六編 逸話紀行集 一册

凡そ俳諧の道に入らんとする者は先づ俳諧を解せざるべからず俳諧を解せざるは我が俳諧の書を釋し我らざる者か第一編を編むに當つて醒雪小波の大家之を校訂するに當つて頗るの慎重に斯道の後進の便を謀り荷も俳諧の眞髓を知らんとする者は之をからず

- 刊!
- 第一編 俳諧註釋集 上卷 紙數約七百七十頁
 - 第二編 芭蕉發句諸抄大成 七部 錄鏡
 - 第二編 俳諧註釋集 下卷 七百八十二頁
 - 第二編 七部婆心錄、晉子發句撮解、俳諧の草、風雪發句撮解、註解古今抄、俳諧十論發蒙、俳諧古今抄、芭蕉翁附合集詳註、七部抄、去來抄

文學博士 芳賀矢一先生校訂
文學博士 佐々木信綱先生註解

校註 謠曲叢書

全三册 (行刊期一第)

表紙空押及色模樣天金縁頗美裝幀雅麗
菊判總クローズ上製
正價 每册金壹圓
小包料各拾貳錢

特 校訂嚴密 印刷鮮明 註解適切 裝幀優雅 用紙精良 價格至廉

謠曲は武家時代を代表する國樂にして、後世淨曲の淵源を成せるもの。上は中古の文學に基き、下は近世の詞藻を開けり。優雅にして穩健宜なるかな、今日に於て盛に家庭の間に諷誦せらるるや、本書上中卷に收めたるものは觀世流の内外二百番を根柢とし、貞享元祿版の番外二百番其他各流にわたりての出入を補へるを以て、總計五百數十番に達す。下卷には和漢朗詠集をはじめ宴曲諸集を彙集して、郢曲の全觀を得せしめんとす。いづれも新に標註を施したれば江湖初見の善本なりとす。

2-3772
乙

支那文學全書

全廿四冊

洋裝四六判一冊約四五〇頁
五冊以上八分引十冊以上一割二分引
正價每冊金參拾錢
廿冊以上一割五分引(郵稅各金八錢)

全一部書目

- 壹編 ● 四書講義(大學中庸論語) 內藤 耻史君述
- 貳編 ● 四書講義(孟子) 內藤 耻史君述
- 參編 ● 小學孝經忠經講義 內藤 耻史君述
- 四編 ● 老子列子講義 小宮山綏介君述
- 五編 ● 韓非子講義(上) 小宮山綏介君述
- 六編 ● 韓非子講義(下) 小宮山綏介君述
- 七編 ● 莊子講義(上) 太田 淳軒君述
- 八編 ● 莊子講義(下) 太田 淳軒君述
- 九編 ● 正文章軌範講義 石川 鴻齋君講述
- 十編 ● 荀子講義(上) 城井 梅庵君述
- 十一編 ● 靖獻遺言講義(發賣禁止)
- 十二編 ● 唐詩選三體詩講義 太田 淳軒君述
- 十三編 ● 續文章軌範講義 石川 鴻齋君述
- 十四編 ● 荀子講義(下) 城井 梅庵君述
- 十五編 ● 十八史略講義(上) 太田 淳軒君述
- 十六編 ● 近思錄講義 內藤 耻史君述
- 十七編 ● 十八史略講義(下) 太田 淳軒君述
- 十八編 ● 戰國策講義(上) 平井 魯堂君述
- 十九編 ● 戰國策講義(下) 平井 魯堂君述
- 廿編 ● 黑子文中子講義 小宮山綏介君述
- 廿一編 ● 詩經講義 內藤 耻史君述
- 廿二編 ● 史記列傳講義(上) 城井 梅庵君述
- 廿三編 ● 史記列傳講義(中) 城井 梅庵君述
- 廿四編 ● 史記列傳講義(下) 城井 梅庵君述

~~345~~ 082
~~5~~ K093
(4)

終